

山 鹿 市 議 会 会 議 録

平成 2 8 年（第 1 回） 3 月定例会

山 鹿 市 議 会

平成28年（第1回）山鹿市議会3月定例会

会 期 日 程 表

日次	月 日	曜 日	本 会 議	委 員 会
1	2 月 25 日	木	開 会 ・ 提 案 理 由 説 明	
2	2 月 26 日	金	休会（発言通告締切午後5時まで）	
3	2 月 27 日	（土）	休 会	
4	2 月 28 日	（日）		
5	2 月 29 日	月		
6	3 月 1 日	火		
7	3 月 2 日	水		
8	3 月 3 日	木	質疑・一般質問・委員会付託	
9	3 月 4 日	金	本会議なし	建設経済
1 0	3 月 5 日	（土）	休 会	
1 1	3 月 6 日	（日）		
1 2	3 月 7 日	月	本会議なし	市民福祉
1 3	3 月 8 日	火		総務文教
1 4	3 月 9 日	水		議会運営
1 5	3 月 10 日	木	休 会	
1 6	3 月 11 日	金	委員長報告・討論・採決・閉会	

平成28年（第1回）山鹿市議会3月定例会

目 次

第1号（2月25日）	頁
1. 議事日程	3
2. 本日の会議に付した事件	5
3. 出席議員	5
4. 説明のため出席した者	5
5. 事務局職員出席者	6
6. 日程第1 会議録署名議員の指名	7
7. 日程第2 会期の決定	7
8. 日程第3 市長の説明	7
9. 日程第4 議案第1号～議案第54号 報告第1号～報告第3号	13
10. 提案理由の説明	15
(1) 議案第1号（阿蘇品市民部長）	15
(2) 議案第2号（幸村総務部長）	15
(3) 議案第3号（川崎福祉部次長）	17
(4) 議案第4号（川崎福祉部次長）	17
(5) 議案第5号（中原建設部次長）	18
(6) 議案第6号（川崎福祉部次長）	18
(7) 議案第7号（阿蘇品水道局長）	19
(8) 議案第8号（阿蘇品水道局長）	19
(9) 議案第9号（飯田市民医療センター事務部長）	19
(10) 議案第10号（中原建設部次長）	20
(11) 議案第11号（幸村総務部長）	20
(12) 議案第12号（幸村総務部長）	21
(13) 議案第13号（幸村総務部長）	21
(14) 議案第14号（幸村総務部長）	21
(15) 議案第15号（幸村総務部長）	21
(16) 議案第16号（幸村総務部長）	22
(17) 議案第17号（幸村総務部長）	22
(18) 議案第18号（幸村総務部長）	22

(19) 議案第19号 (内野消防本部消防長)	22
(20) 議案第20号 (阿蘇品市民部長)	23
(21) 議案第21号 (阿蘇品市民部長)	23
(22) 議案第22号 (戸次福祉部長)	23
(23) 議案第23号 (戸次福祉部長)	24
(24) 議案第24号 (栃原経済部長)	24
(25) 議案第25号 (栃原経済部長)	24
(26) 議案第26号 (栃原経済部長)	25
(27) 議案第27号 (松本農業委員会事務局長)	25
(28) 議案第28号 (原建設部長)	26
(29) 議案第29号 (木村教育部長)	26
(30) 議案第30号 (幸村総務部長)	26
(31) 議案第31号 (川崎福祉部次長)	30
(32) 議案第32号 (川崎福祉部次長)	31
(33) 議案第33号 (中原建設部次長)	32
(34) 議案第34号 (川崎福祉部次長)	32
(35) 議案第35号 (阿蘇品水道局長)	33
(36) 議案第36号 (西田経済部首席審議員)	34
(37) 議案第37号 (西田経済部首席審議員)	34
(38) 議案第38号 (西田経済部首席審議員)	34
(39) 議案第39号 (西田経済部首席審議員)	34
(40) 議案第40号 (阿蘇品水道局長)	35
(41) 議案第41号 (飯田市民医療センター事務部長)	35
(42) 議案第42号 (中原建設部次長)	37
(43) 議案第43号 (内野消防本部消防長)	38
(44) 議案第44号 (栃原経済部長)	38
(45) 議案第45号 (栃原経済部長)	38
(46) 議案第46号 (栃原経済部長)	39
(47) 議案第47号 (木村教育部長)	39
(48) 議案第48号 (飯田市民医療センター事務部長)	39
(49) 議案第49号 (幸村総務部長)	40
(50) 議案第50号 (原建設部長)	41
(51) 議案第51号 (原建設部長)	41
(52) 議案第52号 (原建設部長)	42

(53) 議案第53号 (池田副市長)	42
(54) 議案第54号 (池田副市長)	43
(55) 報告第1号 (原建設部長)	43
(56) 報告第2号 (戸次福祉部長)	43
(57) 報告第3号 (戸次福祉部長)	44
11. 散 会	44

第2号 (3月2日)

1. 議事日程	47
2. 本日の会議に付した事件	47
3. 出席議員	48
4. 説明のため出席した者	48
5. 事務局職員出席者	49
6. 日程第1 質疑・一般質問	50
(1) 富田 弘海君一般質問	50
○幸村総務部長答弁	51
(2) 富田 弘海君一般質問	51
○幸村総務部長答弁	52
(3) 富田 弘海君一般質問	52
○中嶋市長答弁	53
(4) 池田 誠一君一般質問	54
○幸村総務部長答弁	54
(5) 池田 誠一君一般質問	55
○枋原経済部長答弁	56
(6) 池田 誠一君一般質問	57
○熊野首席教育審議員答弁	58
(7) 池田 誠一君一般質問	59
○阿蘇品市民部長答弁	60
(8) 池田 誠一君一般質問	61
○幸村総務部長答弁	61
(9) 池田 誠一君一般質問	62
○原建設部長答弁	62
(10) 池田 誠一君一般質問	63
○原建設部長答弁	64

(11) 芹川 正美君一般質問	65
○栃原経済部長答弁	65
(12) 芹川 正美君一般質問	66
○栃原経済部長答弁	66
(13) 芹川 正美君一般質問	67
○栃原経済部長答弁	67
(14) 芹川 正美君一般質問	67
(15) 富丸 洋一郎君一般質問	68
○栃原経済部長答弁	70
○中嶋市長答弁	72
(16) 富丸 洋一郎君一般質問	73
7. 散 会	75

第3号（3月3日）

1. 議事日程	79
2. 本日の会議に付した事件	80
3. 出席議員	80
4. 説明のため出席した者	80
5. 事務局職員出席者	81
6. 日程第1 質疑・一般質問	82
（1）服部 香代君一般質問	82
○阿蘇品市民部長答弁	82
（2）服部 香代君一般質問	83
○木村教育部長答弁	84
（3）服部 香代君一般質問	85
○木村教育部長答弁	85
（4）服部 香代君一般質問	86
○熊野教育部首席教育審議員答弁	87
（5）服部 香代君一般質問	87
○中嶋市長答弁	90
（6）服部 香代君一般質問	91
○中嶋市長答弁	92
（6）服部 香代君一般質問	93
（7）北原 昭三君一般質問	94

○木村教育部長答弁	95
(8) 北原 昭三君一般質問	95
○木村教育部長答弁	96
(9) 北原 昭三君一般質問	96
○栃原経済部長答弁	97
(10) 北原 昭三君一般質問	98
○栃原経済部長答弁	98
(11) 北原 昭三君一般質問	99
○栃原経済部長答弁	100
(12) 北原 昭三君一般質問	100
○阿蘇品市民部長答弁	101
(13) 北原 昭三君一般質問	102
○阿蘇品市民部長答弁	102
(14) 永田 紘二君一般質問	103
○木村教育部長答弁	104
(15) 永田 紘二君一般質問	104
○木村教育部長答弁	105
(16) 永田 紘二君一般質問	106
○栃原経済部長答弁	106
(17) 永田 紘二君一般質問	107
○幸村総務部長答弁	108
(18) 永田 紘二君一般質問	108
○幸村総務部長答弁	109
7. 日程第2 委員会付託	110
8. 散 会	110

第4号(3月11日)

1. 議事日程	113
2. 本日の会議に付した事件	115
3. 出席議員	117
4. 説明のため出席した者	117
5. 事務局職員出席者	118
6. 日程第1 議案第1号～議案第54号	119
7. 各常任委員長の報告	121

(1) 建設経済常任委員長報告	121
(2) 市民福祉常任委員長報告	123
(3) 総務文教常任委員長報告	124
8. 質 疑	125
9. 討 論	125
(1) 丸山 康昭議員討論	125
10. 採 決	127
11. 日程第2 所管事務調査の委員会付託	128
12. 日程追加 日程第3 議員提出議案第1号、議員提出議案第2号 意見書案第1号	129
13. 提案理由の説明	129
(1) 議員提出議案第1号（池田誠一議員）	129
(2) 議員提出議案第2号（太田黒鐵郎議員）	130
(3) 意見書案第1号（職員朗読）	130
14. 質 疑	133
15. 討 論	133
16. 採 決	133
17. 日程追加 日程第4 議会活性化特別委員長報告	134
18. 質 疑	134
19. 閉 会	135

2 月 2 5 日 (木曜日)

平成28年（第1回）山鹿市議会3月定例会会議録

議 事 日 程（第1号）

平成28年2月25日（木曜日）午前10時開会

- 第1 会議録署名議員の指名
- 第2 会期の決定
- 第3 市長の説明
- 第4 議案第1号 専決処分の承認を求めることについて
（山鹿市税条例等の一部を改正する条例の一部を改正する条例）
- 議案第2号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算（第6号）
- 議案第3号 平成27年度山鹿市国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）
- 議案第4号 平成27年度山鹿市後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）
- 議案第5号 平成27年度山鹿市農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）
- 議案第6号 平成27年度山鹿市介護保険事業特別会計補正予算（第3号）
- 議案第7号 平成27年度山鹿市簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）
- 議案第8号 平成27年度山鹿市水道事業会計補正予算（第2号）
- 議案第9号 平成27年度山鹿市病院事業会計補正予算（第2号）
- 議案第10号 平成27年度山鹿市下水道事業会計補正予算（第2号）
- 議案第11号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例
- 議案第12号 山鹿市行政不服審査法施行条例
- 議案第13号 山鹿市長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第14号 山鹿市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例
- 議案第15号 山鹿市職員の降給に関する条例
- 議案第16号 山鹿市人事行政の運営等の状況の公表に関する条例等の一部を改正する条例
- 議案第17号 山鹿市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第18号 長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の一部を改正する条例
- 議案第19号 山鹿市火災予防条例の一部を改正する条例
- 議案第20号 山鹿市固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例
- 議案第21号 山鹿市税条例の一部を改正する条例
- 議案第22号 山鹿市個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例

議案第23号	山鹿市在宅高齢者福祉対策事業費用徴収条例を廃止する条例
議案第24号	山鹿市鹿北ふれあい会館条例を廃止する条例
議案第25号	山鹿市農村公園条例の一部を改正する条例
議案第26号	山鹿市消費生活センター条例
議案第27号	山鹿市証人等に対する実費弁償に関する条例の一部を改正する条例
議案第28号	山鹿市下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例
議案第29号	山鹿市公民館条例及び山鹿市民交流センター条例の一部を改正する 条例
議案第30号	平成28年度山鹿市一般会計予算
議案第31号	平成28年度山鹿市国民健康保険事業特別会計予算
議案第32号	平成28年度山鹿市後期高齢者医療特別会計予算
議案第33号	平成28年度山鹿市農業集落排水事業特別会計予算
議案第34号	平成28年度山鹿市介護保険事業特別会計予算
議案第35号	平成28年度山鹿市簡易水道事業特別会計予算
議案第36号	平成28年度六郷財産区特別会計予算
議案第37号	平成28年度城北財産区特別会計予算
議案第38号	平成28年度稲田財産区特別会計予算
議案第39号	平成28年度稲田六郷財産区特別会計予算
議案第40号	平成28年度山鹿市水道事業会計予算
議案第41号	平成28年度山鹿市病院事業会計予算
議案第42号	平成28年度山鹿市下水道事業会計予算
議案第43号	財産の譲渡について
議案第44号	財産の譲渡について
議案第45号	財産の譲渡について
議案第46号	財産の譲渡について
議案第47号	財産の取得について
議案第48号	損害賠償の額を定めることについて
議案第49号	山鹿市過疎地域自立促進計画
議案第50号	市道路線の廃止及び認定について
議案第51号	市道路線の認定について
議案第52号	熊本市道路線の認定の承諾について
議案第53号	教育委員会委員の任命について
議案第54号	公平委員会委員の選任について
報告第1号	専決処分の報告について

報告第2号 専決処分の報告について

報告第3号 専決処分の報告について

○

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

○

出席議員（20名）

1番	服部香代君
2番	富田弘海君
3番	永田健君
4番	稲葉昇君
5番	富丸洋一郎君
6番	藤本峰秀君
7番	北原昭三君
8番	芹川正美君
9番	藤原豊君
10番	平井邦廣君
11番	吉本政幸君
12番	池田誠一君
13番	堀茂幸君
14番	永田紘二君
15番	横手啓介君
16番	藤原弘君
17番	太田黒鐵郎君
18番	丸山寛治君
19番	寺崎勇児君
20番	丸山康昭君

○

説明のため出席した者

市長	中嶋憲正君
副市長	池田永実君
教育長	堀田浩一郎君
総務部長	幸村英星君

消防本部消防長
市民部長
福祉部長
経済部長
経済部首席審議員
建設部長
教育部長
山鹿市民医療センター
事務部長兼医事課長
市民部次長
市民部次長
福祉部次長
建設部次長
水道局長
総務課長
財務課長兼財政係長
長寿支援課長
農業委員会
事務局局長

内野輝雄君
阿蘇品貴司君
戸次由夫君
栃原栄一君
西田博之君
原弘文君
木村厚男君
飯田啓詩君
阿部一行君
金光一誠君
川崎美明君
中原忍君
阿蘇品元晴君
大林秀樹君
中尾雄二君
徳永謙吾君
松本辰夫君

○

事務局職員出席者

議会事務局長
局長補佐兼議会総務係長
議事係長
書記

野田修誠君
森田英美君
小山天君
高木善彦君

○

午前10時00分 開会

○
○
○議長（藤原 弘君）

ただいまから平成28年（第1回）山鹿市議会3月定例会を開会いたします。

○
○
日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（藤原 弘君）

直ちに、本日の会議を開きます。

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、議長において、堀 茂幸君、池田 誠一君を指名いたします。

○
○
日程第2 会期の決定

○議長（藤原 弘君）

日程第2、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。今期定例会の会期は、本日から3月11日までの16日間としたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、会期は16日間と決定いたしました。

○
○
日程第3 市長の説明

○議長（藤原 弘君）

日程第3、この際、市長から発言の申し出がありますので、これを許可いたします。中嶋市長。

〔市長 中嶋 憲正君 登壇〕

○市長（中嶋 憲正君）

皆さん、おはようございます。

本日ここに、平成28年3月定例会を招集いたしましたところ、議員各位には公私ともにご多用の中、ご参集を賜り厚くお礼を申し上げます。

まず初めに、私ごとでございますが、今回の突然の入院につきましては、議員の皆様を初め、市民の皆様に変なご心配をおかけいたしました。おかげをもちまして、大事に至ることなく、2月1日から公務に復帰いたしております。今後とも健康には十分留意しながら、市政運営に尽力してまいりたいと思っております。

本定例会においてご審議いただきます諸議案の説明に先立ちまして、平成28年度の市政運営に関する私の所信を申し上げ、市民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

市政運営の方針。

政府が1月に出した月例経済報告では、雇用・所得環境の改善などの政策効果により、緩やかな景気回復を期待しつつも、アメリカの金融政策やアジア景気の下振れにより、景気が下押しされるリスクがあり、金融資本市場の変動の影響に留意する必要があるとの判断がなされております。

こうした中、国では長引くデフレからの脱却と少子高齢化の問題に真正面から向き合い、一億総活躍社会をつくり上げるため、アベノミクスの新たな3本の矢として、「希望を生み出す強い経済」、「夢を紡ぐ子育て支援」、「安心につながる社会保障」を掲げ、「GDP 600兆円」、「希望出生率1.8」、「介護離職ゼロ」の目標を打ち出し、経済再生を最優先で取り組むとしております。

本市といたしましても、まち・ひと・しごと創生の基本となる山鹿市長期人口ビジョン及び山鹿市総合戦略を策定し、人口減少の抑制を図る将来展望を実現するため、今後5年間の目標や取り組む方向性として、「山鹿の戦略的産業の推進と魅力ある雇用の創出」、「山鹿の地で生み育て・暮らしやすい地域をつくる」の2つの基本目標を定めております。

また、山鹿市教育大綱を作成し、山鹿市の将来を担う人材の育成のため、「命」を輝かせる教育、「志」を育てる教育、「生き抜く力」を育む教育の3つの方針を定めております。

平成28年度は、「人輝き飛躍する都市やまが」を将来像に掲げた新たな第2次山鹿市総合計画に基づき、市民、民間と行政が相互に補完、協力し合いながらまちづくりに取り組んでまいります。

市政運営の方針として、引き続き、「人をつくる・人を育てる」、「経済をつくる・活性化する」、「人口減少に歯どめをかける・定住促進を図る」の3本の柱を行財政運営の大きな方向性として定め、新たなスタートを切りたいと思います。

続きまして、平成28年度の予算編成方針について申し上げます。

平成28年度は、第2次山鹿市総合計画及び山鹿市総合戦略に基づく、施策を展開する初年度に当たります。

本市では、これまで第1次、第2次財政構造改革大綱、財政健全化計画等に基づき、収支改善に取り組むなど、財政健全化アクションプランを確実に実行し、健全で効率的な財政運営に努めてまいりました。

また、本年度は、第3次財政構造改革大綱の策定を予定しており、将来にわたり

持続可能な財政基盤の確立を目指してまいります。

平成28年度は以上のような点を踏まえつつ、山鹿市総合戦略に基づく施策に予算を重点配分することといたしました。

このような考えのもとに編成しました平成28年度一般会計予算の規模は、280億5000万円であります。これに9特別会計と3企業会計を合わせますと、純計で479億6975万3000円となりました。

それでは、ただいま申し上げました予算編成方針に基づき、3本の柱ごとに重点的に取り組む施策の概要についてご説明いたします。

まず、第1の柱「人をつくる・人を育てる」についてであります。

市民が将来に希望を持ち、生き生きと暮らしていくために、ふるさとのよさを理解し、ふるさに誇りを持ち、地域を支えていく人材を育成してまいります。

①子供輝きプラン。

学校には豊かな心の育成、学力・体力の向上、いじめの早期発見・早期解消、不登校児童への対応、支援を必要とする子供への対応など数多くの課題があります。これらの課題を解決するため、教師の指導力向上を図るとともに、教師が本務に専念できる教育現場の環境整備を進めてまいります。

また、平成28年4月からいわゆる障害者差別解消法が施行されることに伴い、学校等公的機関での合理的配慮の提供が義務化されます。専門知識を有する人材を確保し、障害の有無にかかわらず、全ての児童生徒の個性に応じた教育が受けられる学校づくりを推進してまいります。

②地域づくり市民塾。

平成26年からさまざまな分野で将来の山鹿市を担う有為な人材の育成を図るため、地域づくり市民塾事業を行っております。平成28年度も市民の方へ募集を行い、講師を招いてワークショップを開催いたします。

参加者同士の交流や地域資源の再確認などを行いながら、自分たちが好きなこと、やりたいことから始まる新しい地域づくり活動について考え、実践につなげ、地域全体に活動の輪を広げてまいります。

③防災リーダー育成。

災害の発生時における減災を図るため、自助・共助・公助の体制づくりを進める必要があります。中でも、共助の部分を担っていただく自主防災組織については、地域防災のかなめとしての充実が不可欠であります。

今回、山鹿市防災マップ改訂を行い、全戸に配布して災害や防災に関する事前情報などを提供することにより、市民の防災意識の向上とその活用を図るとともに、自主防災組織等で中心となって活躍いただく防災リーダーの育成を図ってまいります。

す。

次に、第2の柱「経済をつくる・活性化する」についてであります。

基幹産業である農林業の活性化のため、引き続き収益性の高い農林業の実現を目指し、6次産業化の推進や農地集積・集約化の促進など、農業の活性化と農地の多面的機能の持続的維持・発揮につなげてまいります。

商工観光については、山鹿の地に域外から、人・金・物・情報を呼び込み対流させることで、観光入込客数や宿泊客数の増加、起業や雇用の創出へとつなげ、地元にお金が落ちる仕組みをつくり地域経済の活性化に取り組んでまいります。

①ワイナリー構想。

菊鹿ワイナリー構想を実現するため、用地取得や土地開発許可などを進め、農産物を生かした商品開発など、ワイナリー全体をブランド化する取り組みを進めてまいります。

②新養蚕産構想。

新養蚕産業構想の核となる養蚕施設の建設が4月から開始され、本年12月には完成される予定です。その新たな地域ブランドとなる山鹿シルクを本市独自の産業として定着させるため、国内外へ向けた情報発信やPR活動、地場企業との連携、また地元大学生や農業高校生との交流などを実施し、地元雇用の創出と各種産業分野への拡大につなげ、定住促進と地域経済の活性化を図ってまいります。

③山鹿灯籠ジャパンプランド構想。

山鹿灯籠は、国の伝統的工芸品に指定されたことで知名度が高まってまいりました。この日本一の和紙とのりの工芸品である山鹿灯籠と日本一優雅な踊りである千人灯籠踊りをさらに磨きをかけて国内外に発信し、さらなるブランド力の向上につなげてまいります。

④菊池川流域日本遺産認定推進。

日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて、文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、地域の認知度の向上や交流人口の拡大などによる地域活性化が期待されています。

菊池川流域は肥後米の集積所を初め、方保田東原遺跡、チブサン古墳に代表される装飾古墳群や鞠智城など、古代から近世に至るまで、多くの文化遺産が点在しています。そのため、昨年10月に玉名市・山鹿市・菊池市・和水町が連携し、菊池川流域日本遺産認定推進協議会を結成しており、流域の米に関する文化遺産を結びつけて、平成28年度の日本遺産認定を目指し、取り組みを進めてまいります。

最後に、第3の柱「人口減少に歯どめをかける・定住促進を図る」についてであります。

人口減少に歯どめをかけるため、子供を安心して産み育てる環境を整備し、健康で安心して暮らし続けることのできるまちづくりを目指してまいります。

①移住定住促進。

市外在住の方に移住定住の地として選ばれるためには、魅力ある情報の発信、移住相談に対する支援体制の充実、住宅支援などが必要となります。

そのため、移住相談窓口の設置や空き家管理システムの構築による有為な情報の提供、市外からの家族が転入することにより、三世代の同居となる世帯に対する住宅整備への支援などを実施し、移住定住の促進を強化してまいります。

②子育て支援の充実。

子供を産み、育て、暮らし続けたいと思えるまちづくりを推進するため、引き続き18歳以下の子供医療費の助成を行うほか、不妊治療への支援や妊婦への無料受診券の配布、おむつ購入の助成、予防接種の助成、放課後児童クラブや病後児保育の充実など、きめ細やかな子育て支援に取り組めます。

③健康増進。

健康づくりは、引き続き、健康診断の受診勧奨及び生活習慣病の予防や重症化予防に取り組めます。

さらに、より多くの市民が自分の健康に関心を持ち、歩くことなど健康保持のための生活習慣を継続して実践できるように、健康マイレージ制度の導入に向けた調査、研究を進めてまいります。

④カルチャースポーツセンターの整備。

カルチャースポーツセンターは、本市の中核スポーツ施設であり、総合型スポーツクラブの中心拠点だけでなく、余暇活動や健康づくりの拠点となっております。

平成28年度は、カルチャースポーツセンター第2次整備計画に基づき、テニスコート及び多目的グラウンドの実施設計と、それに伴う敷地の造成工事を行います。

市民に対し、充実したスポーツ環境を提供するとともに、さまざまな大会が開催できるよう整備を行うことで、健康増進のほか、観光や文化施設と連携した地域づくりの拠点施設としての役割強化を図ってまいります。

その他の重要事業。

以上3つの重点施策のほかに以下の重要事業にも取り組んでまいります。

山鹿市ふるさと応援寄附金の返礼品の充実を図ります。

地域づくり活動や自治活動への支援を引き続き行い、地域と行政による協働のまちづくりを推進します。

一般廃棄物処理施設の整備については、平成31年4月の稼働に向け、実施設計を含む工事の発注を行います。

高齢者、障害者、子育て、生活困窮者に対する総合的な相談支援体制の整備を進めます。

地域の稼ぐ力を引き出し、地域への誇りと愛着を醸成する観光地経営の視点に立った、かじ取り役として山鹿版DMOの設立を目指し、観光戦略の策定や地域資源を生かした商品開発などを推進します。

東京オリンピックが開催される平成32年を視野に、訪日外国人を含めた観光客の受け入れ態勢の整備を行い、経済の活性化を図ります。

下水道施設の長寿命化を図るため、計画的な改築更新を行うとともに、安心・安全な水道水の確保のため水道施設の整備に努めます。

小学校再編整備のため、菊鹿小学校の給食棟整備のほか、めのだけ小学校の校舎増改築工事、鹿本地区3小学校の統合に係る施設整備の基本設計及び実施設計を行います。

公立保育園・幼稚園再編整備のため、岩野保育園の民営化を行い、平成29年4月の鹿北地域統合保育園の開園を目指します。

結びに。

以上、平成28年度の市政運営や予算編成に当たっての、私の基本的な考え方と施策の概要について申し上げます。

平成28年度は合併から12年目を迎えます。既に普通交付税の合併算定がえの段階的な縮減、さらには将来的な人口減少と低迷が続く地域経済を克服するためには、経済対策最優先の取り組みが重要であると考えております。

本市には豊かな自然、すぐれた歴史・文化などが数多くあり、これは他の自治体と比較すれば優位性であり、強みであります。この強みを生かし、さらに飛躍させる持続的な戦略を推進することで、市民の皆様が山鹿での生活のすばらしさを実感し、自信と誇りを持ち、誰もが住み続けたいと思う自立したまちづくりを進めてまいります。

本年度を山鹿市のさらなる飛躍、市民の幸せを増大させる地方創生実動元年と位置づけ、幾多の困難にも真正面から立ち向かい、市民の皆様と一丸となって挑戦してまいりたい決意でございます。

本日から16日間にわたりご審議いただきます議案は、条例20件、予算22件、財産の譲渡及び取得5件、市道路線廃止及び認定等3件、人事案件2件、その他2件の計54件と報告3件でございます。これらの諸議案の内容につきましては、担当職員が説明いたしますので、ご審議の上、何とぞご議決を賜りますようお願い申し上げます。

以上で終わります。

日程第 4 議案第 1 号～議案第 54 号

報告第 1 号～報告第 3 号

○議長（藤原 弘君）

日程第 4、議案第 1 号から報告第 3 号までの全案件を一括議題といたします。

議案第 1 号 専決処分の承認を求めることについて

（山鹿市税条例等の一部を改正する条例の一部を改正する条例）

議案第 2 号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算（第 6 号）

議案第 3 号 平成27年度山鹿市国民健康保険事業特別会計補正予算（第 3 号）

議案第 4 号 平成27年度山鹿市後期高齢者医療特別会計補正予算（第 3 号）

議案第 5 号 平成27年度山鹿市農業集落排水事業特別会計補正予算（第 2 号）

議案第 6 号 平成27年度山鹿市介護保険事業特別会計補正予算（第 3 号）

議案第 7 号 平成27年度山鹿市簡易水道事業特別会計補正予算（第 2 号）

議案第 8 号 平成27年度山鹿市水道事業会計補正予算（第 2 号）

議案第 9 号 平成27年度山鹿市病院事業会計補正予算（第 2 号）

議案第 10 号 平成27年度山鹿市下水道事業会計補正予算（第 2 号）

議案第 11 号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例

議案第 12 号 山鹿市行政不服審査法施行条例

議案第 13 号 山鹿市長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例

議案第 14 号 山鹿市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例

議案第 15 号 山鹿市職員の降給に関する条例

議案第 16 号 山鹿市人事行政の運営等の状況の公表に関する条例等の一部を改正する条例

議案第 17 号 山鹿市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

議案第 18 号 長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の一部を改正する条例

議案第 19 号 山鹿市火災予防条例の一部を改正する条例

議案第 20 号 山鹿市固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例

議案第 21 号 山鹿市税条例の一部を改正する条例

議案第 22 号 山鹿市個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例

議案第 23 号 山鹿市在宅高齢者福祉対策事業費用徴収条例を廃止する条例

議案第 24 号 山鹿市鹿北ふれあい会館条例を廃止する条例

- 議案第25号 山鹿市農村公園条例の一部を改正する条例
- 議案第26号 山鹿市消費生活センター条例
- 議案第27号 山鹿市証人等に対する実費弁償に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第28号 山鹿市下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第29号 山鹿市公民館条例及び山鹿市民交流センター条例の一部を改正する条例
- 議案第30号 平成28年度山鹿市一般会計予算
- 議案第31号 平成28年度山鹿市国民健康保険事業特別会計予算
- 議案第32号 平成28年度山鹿市後期高齢者医療特別会計予算
- 議案第33号 平成28年度山鹿市農業集落排水事業特別会計予算
- 議案第34号 平成28年度山鹿市介護保険事業特別会計予算
- 議案第35号 平成28年度山鹿市簡易水道事業特別会計予算
- 議案第36号 平成28年度六郷財産区特別会計予算
- 議案第37号 平成28年度城北財産区特別会計予算
- 議案第38号 平成28年度稲田財産区特別会計予算
- 議案第39号 平成28年度稲田六郷財産区特別会計予算
- 議案第40号 平成28年度山鹿市水道事業会計予算
- 議案第41号 平成28年度山鹿市病院事業会計予算
- 議案第42号 平成28年度山鹿市下水道事業会計予算
- 議案第43号 財産の譲渡について
- 議案第44号 財産の譲渡について
- 議案第45号 財産の譲渡について
- 議案第46号 財産の譲渡について
- 議案第47号 財産の取得について
- 議案第48号 損害賠償の額を定めることについて
- 議案第49号 山鹿市過疎地域自立促進計画
- 議案第50号 市道路線の廃止及び認定について
- 議案第51号 市道路線の認定について
- 議案第52号 熊本市道路線の認定の承諾について
- 議案第53号 教育委員会委員の任命について
- 議案第54号 公平委員会委員の選任について
- 報告第1号 専決処分の報告について
- 報告第2号 専決処分の報告について
- 報告第3号 専決処分の報告について

○

○議長（藤原 弘君）

提案理由の説明を求めます。阿蘇品市民部長。

〔市民部長 阿蘇品 貴司君 登壇〕

○市民部長（阿蘇品 貴司君）

議案第1号 専決処分の承認を求めることについて、ご説明申し上げます。

本案は、地方税分野における個人番号利用手続の一部見直しが行われ、平成28年1月1日から施行されることに伴い、山鹿市税条例等の一部を改正する条例の一部を改正する必要が生じましたが、議会を招集する時間的余裕がなかったため、地方自治法第179条第1項の規定により、平成27年12月28日に専決処分をいたしましたので、同条第3項の規定によりこれを報告し承認を求めるものです。

3ページをお願いいたします。

主な改正内容につきまして、ご説明申し上げます。納税義務者等の負担を軽減するため、市民税及び特別土地保有税に係る減免の申請については個人番号の記載を不要とするものです。附則としまして、この条例は公布の日から施行するものです。

以上、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

幸村総務部長。

〔総務部長 幸村 英星君 登壇〕

○総務部長（幸村 英星君）

議案第2号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算（第6号）について、ご説明申し上げます。

今回の補正予算の主なものは、事業費の確定に伴う調整、財源の組み替え、基金積み立てのほか、去る1月20日に成立しました国の第一次補正予算に係る各種の取り組みでございます。なお、議案第14号に基づく職員の給与改定につきましても、あわせて計上いたしております。

今般の国の補正予算におきましては、一億総活躍社会の実現に向けて緊急に実施すべき対策として、地方創生加速化交付金が創設され、地方版総合戦略に基づく各自治体の取り組みについて深化、加速化を図ることとされ、地方創生を本格的に展開するものとなっております。

それでは、1ページをお願いいたします。

第1条、歳入歳出予算の補正は、歳入歳出予算の総額に7億435万7000円を追加し、総額を302億8346万1000円とするものであります。

6ページをお願いいたします。

第2表は、繰越明許費であります。（款）総務費の行政情報化推進費ほか11の事業につきまして、年度内の完了が見込めないため、繰越明許費を設定するものであります。

続きまして、7ページ、第3表は、債務負担行為補正であります。保育環境充実支援事業について追加するものです。

次の8ページから10ページにかけましては、第4表、地方債補正であります。事業費の決算見込み及び財源の組み替えに伴う起債限度額の変更並びに行政情報化推進事業に係る追加を行うものです。

続きまして、歳出予算の主なものについてご説明申し上げます。

24ページをお願いいたします。

（款）総務費、（目）情報化推進費の中の行政情報化推進費9990万8000円は国の地方公共団体情報セキュリティ強化対策事業を活用し、マイナンバー制度の本格的な稼働に向け、情報セキュリティの強化を図るものであります。

27ページをお願いいたします。

（款）民生費、（目）社会福祉総務費の中の低所得高齢者向け臨時福祉給付金事業2億3809万7000円は、賃金引き上げの恩恵が及びにくい低年金受給者に対し支援を行うものであります。

28ページをお願いいたします。

（目）児童福祉総務費の中の子供・子育て支援事業1743万5000円は子供・子育て支援新制度に係るシステム改修及び民間保育所における情報化を推進するものであります。次の保育環境充実支援事業752万4000円は、国の保育所等緊急整備事業の採択を受け、（仮称）鹿北統合保育園の施設建設に対し助成するものであります。

31ページをお願いいたします。

（款）農林水産業費、（目）農業振興費の中の農業担い手支援総合対策事業8038万2000円は、農業担い手の経営基盤の強化を図るため、機械等の導入支援を行うものであります。次のワイナリー構想推進事業（戦略創造プロジェクト）1100万円はワイナリー構想の推進を図るため取り組みの総合的な調整を初め、商品開発に係る各種事業を展開するものであります。

32ページをお願いいたします。

（款）商工費、（目）商工振興費の中の山鹿灯籠ジャパンプランド構想推進事業（戦略創造プロジェクト）2300万円は、山鹿灯籠祭りの魅力をさらに磨き上げ、ブランド力の強化を図るものであります。また、（目）観光費の補正額2710万2000円は、にぎわい創出推進費（戦略創造プロジェクト）として、観光地としての知名度向上、訪日観光客の増加を図る施策に取り組むものであります。なお、これら3つ

の戦略創造プロジェクトにつきましては、山鹿市総合戦略において主要な施策と位置づけており、地方創生加速化交付金を活用し実施するものであります。

37ページをお願いいたします。

（款）教育費、（目）中学校の教育振興費の補正額50万円は国の補正予算を受けた熊本県の補助金を活用し、地域未来塾の環境整備を行うものであります。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

川崎福祉部次長。

〔福祉部次長 川崎 美明君 登壇〕

○福祉部次長（川崎 美明君）

議案第3号 平成27年度山鹿市国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）について、ご説明申し上げます。

1ページをお願いいたします。

第1条は、歳入歳出予算の総額にそれぞれ1億5723万7000円を追加し、総額を91億4264万6000円とするものです。補正予算の内容につきましてご説明いたします。

10ページをお願いいたします。

中段の（款）保険給付費、（目）一般被保険者療養給付費の補正額1億7500万円、次の（目）退職被保険者等療養給付費の減額補正額1000万円は、決算見込みによるものです。下段の（目）一般被保険者高額療養給付費は財源組み替えを行うものです。

11ページをお願いいたします。

上段の（款）後期高齢者支援金等の減額補正額4029万8000円、中段の（款）介護納付金の減額補正額5517万2000円、下段の（款）共同事業拠出金の補正額7183万4000円につきましては、それぞれの負担金額の確定に伴うものです。

12ページをお願いいたします。

上段の（款）保健事業費、（目）特定健康診査等事業費、中段の（目）保健衛生普及費はいずれも財源の組み替えを行うものです。下段の（款）基金積立金の補正額6万3000円は、基金利子の決算見込みに伴うものです。

13ページをお願いいたします。

上段の（款）諸支出金、（目）償還金の補正額265万2000円は国庫補助金の精算返納金でございます。下段の（目）直営診療施設勘定繰出金の補正額1226万3000円は市民医療センターの保健事業等国庫補助金の増加に伴う病院事業会計への繰出金でございます。

続きまして、議案第4号 平成27年度山鹿市後期高齢者医療特別会計補正予算（第

3号)について、ご説明申し上げます。

1ページをお願いいたします。

今回の補正は繰越金の確定に伴い、歳入予算に係る財源の組み替えを行うものです。

6ページをお願いいたします。

繰越金の確定により下段の(款)繰越金の補正額155万9000円、上段の(款)後期高齢者医療保険料の減額補正額155万9000円とする歳入予算の財源組み替えを行うものです。

以上で、説明を終わります。

○議長(藤原 弘君)

中原建設部次長。

[建設部次長 中原 忍君 登壇]

○建設部次長(中原 忍君)

議案第5号 平成27年度山鹿市農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)について、ご説明申し上げます。

今回の補正は、給与条例の改正に基づき職員の給与等の改定を行うものです。

1ページをお願いいたします。

第1条、歳入歳出予算の総額に36万8000円を追加し、歳入歳出予算の総額を9億4909万9000円とするものです。

以上で、説明を終わります。

○議長(藤原 弘君)

川崎福祉部次長。

[福祉部次長 川崎 美明君 登壇]

○福祉部次長(川崎 美明君)

議案第6号 平成27年度山鹿市介護保険事業特別会計補正予算(第3号)について、ご説明申し上げます。

1ページをお願いいたします。

第1条は、歳入歳出予算の総額にそれぞれ4241万2000円を追加し、総額を63億6394万8000円とするものです。補正予算の内容につきましてご説明いたします。

8ページをお願いいたします。

下段の(款)基金積立金の補正額4120万7000円は、平成26年度決算剰余金及び基金利子の増加分を介護給付費準備基金に積み立てるものでございます。

以上で、説明を終わります。

○議長(藤原 弘君)

阿蘇品水道局長。

[水道局長 阿蘇品 元晴君 登壇]

○水道局長（阿蘇品 元晴君）

議案第7号 平成27年度山鹿市簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）について、ご説明申し上げます。

今回の補正は、給与条例の改正に基づき職員の給与等の改定を行うものです。

1 ページをお願いいたします。

第1条、歳入歳出予算の総額に13万1000円を追加し、総額を2億9432万1000円とするものです。

続きまして、議案第8号 平成27年度山鹿市水道事業会計補正予算（第2号）につきましても同様でございます。あわせて、早期退職者に係る負担金の補正を行うものです。

1 ページをお願いいたします。

第2条、（第1款）水道事業費の既決予定額4億508万3000円に108万4000円を追加し、4億616万7000円とするものです。また、これに伴いまして第3条、議会の議決を経なければ流用できない経費に51万9000円を追加し、5697万8000円といたします。

以上、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

飯田市民医療センター事務部長。

[市民医療センター事務部長 飯田 啓詩君 登壇]

○市民医療センター事務部長（飯田 啓詩君）

議案第9号 平成27年度山鹿市病院事業会計補正予算（第2号）について、ご説明申し上げます。

今回の補正は、医療事故に伴います損害賠償金及び給与改定に伴う補正でございます。

1 ページをお願いいたします。

第2条、収益的収入及び支出でございます。収入の（第1款）病院事業収益の既決予定額に1700万円を追加し、総額を36億281万円とするものでございます。次に、支出の（第1款）病院事業費用の既決予定額に3963万6000円を追加し、総額を35億7160万7000円とするものでございます。

2 ページをお願いいたします。

第3条、議会の議決を経なければ流用することができない経費に2263万6000円を追加し、総額を20億2057万6000円とするものでございます。内容につきましては、

実施計画によりご説明いたします。

5 ページをお願いいたします。

収入の（款）病院事業収益、（項）医業外収益、（目）その他医業外収益の補正予定額1700万円は、医療事故に伴います損害賠償に対しての市民医療センターが加入しております病院賠償責任保険からの保険金収入でございます。

次に支出の（款）病院事業費用、（項）医業費用、（目）給与費の補正予定額2263万6000円は、給与改定に伴います給料及び諸手当並びに法定福利費等の増加分でございます。同じく（目）経費の補正予定額1700万円は、医療事故に係る損害賠償金でございます。

以上、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

中原建設部次長。

[建設部次長 中原 忍君 登壇]

○建設部次長（中原 忍君）

議案第10号 平成27年度山鹿市下水道事業会計補正予算（第2号）について、ご説明申し上げます。

今回の補正は、給与条例の改正に基づき職員の給与等の改定を行うものです。

1 ページをお願いします。

第2条、（第1款）下水道事業費用に23万円を追加し、11億7316万7000円とするものです。第3条、（第1款）資本的支出に23万6000円を追加し、7億5528万7000円とするものです。これに伴いまして、第4条、議会の議決を経なければ流用することができない経費に46万2000円を追加し、4353万2000円とするものです。

以上で説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

幸村総務部長。

[総務部長 幸村 英星君 登壇]

○総務部長（幸村 英星君）

議案第11号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例について、ご説明申し上げます。

本案は、行政不服審査法の改正に伴い、関連する条例について必要な条文整備を行うとともに、情報公開条例及び個人情報保護条例について、改正後の行政不服審査法に基づく審理手続との関係を整理するため、所要の規定の整備を行うものでございます。附則といたしまして、この条例は平成28年4月1日から施行し、必要な経過措置を定めるものです。

続きまして、議案第12号 山鹿市行政不服審査法施行条例について、ご説明申し上げます。

本案は、議案第11号で申し上げました行政不服審査法の改正に伴い、新たに条例で定めるものとされた手数料及び第三者機関に関する事項について、規定するものがございます。附則といたしまして、この条例は平成28年4月1日から施行するものです。

続きまして、議案第13号 山鹿市長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について、ご説明申し上げます。

本案は、国家公務員特別職の期末手当及び旅費の状況等に鑑み、市長等の期末手当及び旅費の額を改定するため、条例を改正する必要があるため提案するものでございます。主な改正内容について、ご説明申し上げます。期末手当について、現在の支給割合2.6月を0.55月分引き上げ、3.15月とし、また日当及び宿泊料について国家公務員特別職に準ずる額に引き上げるものです。附則といたしまして、この条例は一部の規定を除き公布の日から施行し、必要な経過措置を定めるものです。

続きまして、議案第14号 山鹿市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例について、ご説明申し上げます。

本案は、国家公務員及び熊本県職員の給与改定に準じて職員の給与を改定するため、条例を改正する必要があるため提案するものでございます。

主な改正内容について、ご説明申し上げます。第1条は、職員の勤勉手当の支給割合を0.1月分引き上げるとともに、給料月額を平均0.34%引き上げるため、行政職給料表の改正を行うものです。第2条は、職員の地域手当の支給割合を引き上げるとともに、第1条で改正した勤勉手当の支給割合及び給料月額を改めるため、行政職給料表の改正を行うものです。第3条は、国家公務員退職手当法の改正に伴い、国の基準と同様に職員の退職手当調整額を引き上げるものです。附則といたしまして、この条例は一部の規定を除き、公布の日から施行し、必要な経過措置を定めるものです。

続きまして、議案第15号 山鹿市職員の降給に関する条例について、ご説明申し上げます。

本案は、地方公務員法の改正に伴い、職員の降給の事由及び手続について必要な事項を定めるため、新たに条例を制定するものでございます。

主な内容について、ご説明申し上げます。第2条は、降給の種類を降格及び降号と定めるものです。また第3条は降格の事由について、第4条は降号の事由について定めるものです。附則といたしまして、この条例は平成28年4月1日から施行するものです。

続きまして、議案第16号 山鹿市人事行政の運営等の状況の公表に関する条例等の一部を改正する条例について、ご説明申し上げます。

本案は、地方公務員法の改正等に伴い山鹿市人事行政の運営等の状況の公表に関する条例等について、所要の規定の整備を行うものでございます。

主な改正内容について、ご説明申し上げます。第1条は、市長に対する任命権者の報告事項に、職員の人事評価の状況及び休業に関する状況を加えるものです。第4条は、職員の勤勉手当の額について、勤勉手当基礎額の規定から扶養手当の月額の規定を削るものです。附則といたしまして、この条例は一部の規定を除き、平成28年4月1日から施行するものです。

続きまして、議案第17号 山鹿市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について、ご説明申し上げます。

本案は、労働安全衛生法の改正により、職員の心理的負担の程度を把握するための検査、いわゆるストレスチェックが義務化されたことを受け、その中心的役割を果たすことになる産業医について報酬の額を定めるため、所要の規定の整備を行うものでございます。附則といたしまして、この条例は平成28年4月1日から施行するものです。

続きまして、議案第18号 長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の一部を改正する条例について、ご説明申し上げます。

本案は、長期継続契約を締結することができる契約の範囲を広げるため、対象とする契約について、規定する条文を改める等、所要の規定の整備を行うものでございます。附則といたしまして、この条例は、平成28年4月1日から施行するものです。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

内野消防長。

〔消防本部消防長 内野 輝雄君 登壇〕

○消防本部消防長（内野 輝雄君）

議案第19号 山鹿市火災予防条例の一部を改正する条例について、ご説明申し上げます。

本案は、対象火気設備等の位置、構造及び管理並びに対象火気器具等の取り扱いに関する条例の制定に関する基準を定める省令が施行され、10年以上が経過し、ガスグリドル付こんろの流通や、IH調理器に係る最大消費電力の増加など、当初想定していなかった設備及び器具が流通してきた現状を踏まえ、平成27年11月13日、同省令の一部が改正されました。それに伴い、山鹿市火災予防条例についても、火

災害防止安全な距離を保つ必要がある設備器具にグリドル付こんろを加えること等、所要の規定の整備を行うものです。附則としまして、この条例は平成28年4月1日から施行するものです。

以上、ご説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

阿蘇品市民部長。

〔市民部長 阿蘇品 貴司君 登壇〕

○市民部長（阿蘇品 貴司君）

議案第20号 山鹿市固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例について、ご説明申し上げます。

本案は、行政不服審査制度の見直しによる地方税法等の改正に伴い、山鹿市固定資産評価審査委員会条例について、所要の規定の整備を行う必要があり、提案するものです。

主な改正内容につきましては、審査申し出に記載する事項の変更並びに関係書面の交付を請ける際の手数料の額及びその減免手続について新たに定めるものです。附則としまして、この条例は平成28年4月1日から施行するものです。

続きまして、議案第21号 山鹿市税条例の一部を改正する条例について、ご説明申し上げます。

本案は、地方税法の改正に伴い、市税に係る徴収の猶予等に関し必要な事項を定めるため、山鹿市税条例を改正する必要があると提案するものです。

主な改正内容につきましては、徴収の猶予等に係る市の徴収金の納付方法及び申請手続並びに市の徴収金として差し押さえた財産の換価の猶予の手続について新たに定めるものです。附則としまして、この条例は平成28年4月1日から施行するものです。

以上、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

戸次福祉部長。

〔福祉部長 戸次 由夫君 登壇〕

○福祉部長（戸次 由夫君）

議案第22号 山鹿市個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例について、ご説明申し上げます。

本条例は、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律、いわゆる番号法に基づきまして、個人番号を利用することができる事務の範囲を定めております。今回の改正は、法定事務以外の事務につきまして、市独自に

個人番号を利用することができる事務として、第3条関係の別表1に掲げる事務を新たに加えるものでございます。また、別表2におきましては、中央の欄の事務を処理するために、必要な限度で右の欄の個人番号を含む特定個人情報を利用できるとするものでございます。附則といたしまして、この条例は公布の日から施行するものでございます。

続きまして、議案第23号 山鹿市在宅高齢者福祉対策事業費用徴収条例を廃止する条例について、ご説明申し上げます。

本条例は、在宅高齢者福祉対策事業として実施しております生活管理指導事業などの事業につきまして、利用者から徴収する費用に関し規定しているものでございます。平成28年4月から介護予防・日常生活支援総合事業などに移行して事業を実施することとしましたため、本条例を廃止するものでございます。附則といたしまして、この条例は平成28年4月1日から施行するものでございます。

以上、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

栃原経済部長。

〔経済部長 栃原 栄一君 登壇〕

○経済部長（栃原 栄一君）

議案第24号 山鹿市鹿北ふれあい会館条例を廃止する条例について、ご説明申し上げます。

本案は、山鹿市鹿北ふれあい会館を廃止するため、条例を廃止する必要があり提案するものです。山鹿市鹿北ふれあい会館は平成2年度に建設したのですが、施設の耐用年数が24年となっており、平成27年3月25日でその期限を迎えました。平成20年度以降、利用件数・利用者数の減少が進み、年間の使用料と維持経費とを比較した費用対効果を検討した結果、施設を廃止すべきと判断し、公の施設としての山鹿市鹿北ふれあい会館を廃止するものです。附則といたしまして、この条例は平成28年4月1日から施行するものであります。

続きまして、議案第25号 山鹿市農村公園条例の一部を改正する条例について、ご説明申し上げます。

本案は、山鹿市板曲公園、山鹿市麻生公園、山鹿市川北農村公園及び山鹿市下米野農村広場を廃止することに伴う所要の規定の整備を行うものであります。山鹿市板曲公園については、平成24年8月にトイレが焼失し、管理すべき物件がなくなったこと及び敷地が国土交通省所有地となっていることから、河川敷に戻すものであります。

山鹿市麻生公園及び山鹿市川北農村公園については、平成13年度に整備したもの

であります。敷地が地元区や地元区民所有になっており、また公園利用者が地元住民に限定されることから、地元自治会に公園施設を譲渡し、引き続き住民の憩いの場として、有効活用を図るものであります。

山鹿市下米野農村広場については、地元区民の利用もなくなり、跡地の処分について公募による売却を計画したところ、希望者があり売買も成立したことから廃止するものであります。

附則といたしまして、この条例は平成28年4月1日から施行するものであります。

続きまして、議案第26号 山鹿市消費生活センター条例について、ご説明申し上げます。

この条例は、消費者安全法の一部が改正され、平成28年4月1日に施行されることに伴い、同法に基づいて消費生活センターを設置する自治体は、消費生活センターの組織及び運営等に関する事項について、条例で定める必要があり提案するものです。なお、本市の消費生活センターにつきましては、平成22年3月に消費者安全法に基づく設置の公示を行い、平成22年4月に開設しております。本条例の主要な点につきましては、第1条で市民の消費生活の安定及び向上に資するために、山鹿市消費生活センターを設置すること。第2条でセンターの位置、第3条で消費生活相談の事務を行う日及び時間、第5条で消費生活相談員の配置、第6条で相談員の人材及び処遇の確保について定めております。附則としまして、この条例は平成28年4月1日から施行するものであります。

以上、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

ここで、暫時休憩いたします。

午前11時00分 休憩



午前11時14分 開議

○議長（藤原 弘君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

松本農業委員会事務局長。

〔農業委員会事務局長 松本 辰夫君 登壇〕

○農業委員会事務局長（松本 辰夫君）

議案第27号 山鹿市証人等に対する実費弁償に関する条例の一部を改正する条例について、ご説明申し上げます。

本案は、農業委員会等に関する法律の改正に伴い、農業委員会の求めにより出頭した者に対する旅費の支給について定めます本条例の第1条において引用する法

律の条項を改めるものでございます。附則といたしまして、この条例は平成28年4月1日から施行するものです。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

原建設部長。

[建設部長 原 弘文君 登壇]

○建設部長（原 弘文君）

議案第28号 山鹿市下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例につきまして、ご説明申し上げます。

本案は、下水道事業計画について平成22年度に国勢調査が実施されたことや、平成25年度に一部の事業計画区域を削除したことなどから、最新の情報、数値に基づくとともに、今後の人口減少等の社会情勢の変化を踏まえて見直しを行い、排水区域面積及び排水人口を変更するため、記載のとおり改正するものでございます。附則としまして、この条例は平成28年4月1日から施行するものです。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

木村教育部長。

[教育部長 木村 厚男君 登壇]

○教育部長（木村 厚男君）

議案第29号 山鹿市公民館条例及び山鹿市民交流センター条例の一部を改正する条例について、ご説明を申し上げます。

本案は、山鹿地区公民館の位置を山鹿市民交流センター内に変更するために、条例を改正するものでございます。改正の内容は、山鹿市公民館条例の別表第1、山鹿地区公民館の住所を「山鹿市山鹿987番地3」に改めるとともに、移転先となる山鹿市民交流センター条例中、研修施設の使用料について定める別表から「中会議室3」を削るものでございます。附則といたしまして、この条例は平成28年4月1日から施行するものです。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

幸村総務部長。

[総務部長 幸村 英星君 登壇]

○総務部長（幸村 英星君）

議案第30号 平成28年度山鹿市一般会計予算について、ご説明申し上げます。

まず初めに、予算編成の方針、基本的な考え方について申し上げます。

合併から12年目を迎える本市は、人口減少や交付税の算定特例の終了を踏まえた、自立した自治体づくりへの転換期にあり、平成26年度に策定した財政健全化アクションプランを確実に実行しながら、本市固有の財産、限られた経営資源を最大限に生かした施策の推進に努めていく必要があります。このような状況のもと、平成28年度予算はこれまで取り組んできた、人をつくる・経済をつくる・定住促進を図るの3本の重点政策をさらに加速、深化させるため、まち・ひと・しごと創生山鹿市総合戦略で定めた基本目標である魅力ある雇用の創出の実現に向け、官民連携、地域間連携による先駆性のある取り組みや、既存事業に磨きをかける取り組みを重点的に編成いたしております。

それでは1ページをお願いいたします。

第1条は、歳入歳出予算の総額を280億5000万円と定めるものです。第2条から第5条は、それぞれ債務負担行為、地方債、一時借入金及び歳出予算の流用について定めるものです。

10ページをお願いいたします。

第2表、債務負担行為であります。1の障害者相談支援業務ほか7つの事項につきまして、債務の期間、限度額を記載のとおり定めております。

11ページをお願いいたします。

第3表、地方債であります。地方債制度に基づく臨時財政対策債ほか20の事業に係るものにつきまして定めており、総額28億70万円であります。

続きまして、歳入予算の主なものについて、ご説明申し上げます。

19ページをお願いいたします。

市税につきましては、市民税において緩やかな景気回復基調を背景に、個人所得の伸びを見込み、2480万4000円の増収、また、次のページの固定資産税につきましても、企業における設備投資の伸びを勘案し、8129万4000円の増収を見込んでおります。

34ページをお願いいたします。

地方交付税につきましては、算定特例の終了による減少と、算定基礎となる国勢調査における人口減少の影響から、前年度比7億円マイナスの110億円を見込んでおります。

65ページをお願いいたします。

市債につきましては、市庁舎等建設事業や消防デジタル無線整備事業の完了などから、前年度比3億5420万円マイナスの28億70万円の発行を予定いたしております。

続きまして、歳出予算の主なものについて、ご説明申し上げます。

70ページをお願いいたします。

（款）総務費、（目）企画費の中のふるさと応援事業は、寄附者の利便性向上のほか、魅力ある本市の特産品を返礼品として活用するなど、寄附の増加と地域資源を生かした産業振興を目指すものであります。

続きまして、72ページをお願いいたします。

（目）地域振興費の中の地域おこし協力隊は、これまでの岳間地区を中心とした鹿北地域づくりに加え、移住希望者への相談員及び鹿央地域の活性化支援員を配置し、地域づくりの強化を図るものです。

また、下段の移住定住促進事業では、転入により親元で3世代同居となる世帯や登録空き家への転入者に対し支援を行う山鹿暮らし応援事業を初め、山鹿への移住定住を促す施策の拡充に努めます。

85ページをお願いいたします。

（款）民生費、（目）児童福祉総務費の中の新生児等おむつ購入助成事業は、1歳未満の子供を養育する保護者に対するおむつ購入費の助成を引き続き実施するものです。

89ページをお願いいたします。

（款）衛生費、（目）保健衛生総務費の中の不妊治療費助成事業は、熊本県の特定不妊治療費助成事業により治療を行った夫婦に対する上乗せ助成を継続して行うものです。

93ページをお願いいたします。

（目）ごみ処理費の中の一般廃棄物処理施設整備事業では、造成工事のほか、施設の実施設計を含む建設工事に取り組み、平成31年度からの稼働に向けた整備を進めてまいります。

95ページをお願いいたします。

（款）農林水産業費、（目）農業振興費の中にありますワイナリー構想推進事業（戦略創造プロジェクト）におきましては、ワイナリー内で販売する新商品の開発を進めるほか、建設予定地の確保、造成に係る実施設計など、ワイナリー構想の実現に向けた施策に取り組んでまいります。

また、次のページにあります第6次産業化総合支援事業では、販路開拓や流通ルートの確保・強化とともに、市場流通までを視野に入れた商品開発を行うなど本格的な産業化を目指してまいります。

その下の新養蚕産業構想推進事業（戦略創造プロジェクト）は、新しい養蚕産業の確立に向けた情報発信、地域雇用を見据えた地元学生等との交流、地場産業との連携体制の構築など、山鹿シルクのブランド化へ向けた戦略策定と事業展開を図ります。

そのほか、新規就農者の育成や集落営農組織の強化を図る農業担い手支援総合対策事業、物産館を中心とした地産地消や農商工観光連携による販路開拓・販売促進を図る農産物販売促進事業など、稼げる農業の実現に向けた施策を展開してまいります。

97ページをお願いいたします。

（目）農業振興施設費の中の有機肥料供給施設管理費は、バイオマスセンター及び鹿北・菊鹿の有機液肥施設の維持管理費であります。本年度は、バイオマスセンター貯留槽の残渣処理及び屋根撤去に係る経費をあわせて計上いたしております。

102ページをお願いいたします。

（款）商工費、（目）商工振興費の中の山鹿灯籠ジャパンブランド構想推進事業（戦略創造プロジェクト）におきましては、山鹿を象徴する山鹿灯籠と千人灯籠踊りをさらに磨き上げ、ブランド力の向上を図りながら国内外へ広く発信してまいります。

103ページをお願いいたします。

（目）観光費の中のにぎわい創出推進事業（戦略創造プロジェクト）では、インターネットを介したコミュニケーションサービス、いわゆる「SNS」を活用した新たな世代の誘客、観光施設の環境整備などにより外国人の誘客を図るインバウンド観光、地域が主体となり観光推進を図る山鹿版DMOの設立推進など、観光地山鹿の確立に向けた施策を複合的に展開してまいります。

105ページをお願いいたします。

（款）土木費、（目）道路橋梁総務費の中の管理経費では、インフラ長寿命化に係る事業推進のため、舗装維持管理計画の策定や橋梁点検を行います。

また、（目）道路橋梁新設改良費におきましては、市道・橋梁の改良等を計画的に進め安全確保に努めるなど、市民生活に欠かすことのできない生活道路の整備を図ります。

108ページをお願いいたします。

（目）都市計画総務費の中のサイン整備事業では、総合案内板や歩行者向け誘導サインの設置とともに、車両向け誘導サインの整備に向けた準備を進め、景観に配慮した来訪者にわかりやすい誘導を図ります。

次の、（目）公園費の中のカルチャースポーツセンター整備事業は、未整備地区に係る施設整備を踏まえ、用地の造成を行うものです。

112ページをお願いいたします。

（款）消防費、（目）災害対策費の中の防災対策費では、防災マップの改訂や指定避難場所の表示等を通じ、防災意識の向上や円滑な避難等につなげるほか、倒壊

等の危険、火災及び犯罪等の可能性がある特定空き家等について、その解体撤去費に係る助成を行います。

117ページをお願いいたします。

(款) 教育費、(目) 小学校の学校建設費は、債務負担行為を設定し進めております。菊鹿小学校及びみのり小学校の整備費、並びに鹿本地区統合小学校の整備に係る設計費であります。

122ページをお願いいたします。

(目) 社会教育施設費の中の川辺地域活動拠点整備事業は、平成27年度に地域住民と協議を重ね作成した基本設計をもとに、建設に向けた実施設計を行うものです。

124ページをお願いいたします。

(目) 体育施設費の中のカルチャースポーツセンター整備事業は、第2次整備計画を踏まえ、テニスコート及び多目的グラウンドの施設整備に係る実施設計を行うものです。

以上、歳出予算につきまして、概略ご説明申し上げましたが、事業の詳細及び財源等につきましては、別冊で作成いたしております予算に関する説明書、また性質別の内訳、基金の状況、地方債の状況など予算に関する資料につきましては、当初予算のあらましを作成いたしておりますので、あわせてご参照をお願いいたします。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

川崎福祉部次長。

〔福祉部次長 川崎 美明君 登壇〕

○福祉部次長（川崎 美明君）

議案第31号 平成28年度山鹿市国民健康保険事業特別会計予算について、ご説明申し上げます。

1 ページをお願いいたします。

第1条は、歳入歳出予算の総額を90億9169万9000円と定めるものです。第2条は一時借入金の最高額を、第3条は歳出予算の流用について定めるものです。

予算の主なものにつきまして、ご説明いたします。

12ページをお願いいたします。

(款) 国民健康保険税につきましては、一般被保険者及び退職被保険者等を合わせて14億767万8000円を計上しております。

17ページをお願いいたします。

上段の(款) 繰入金につきましては、合わせて8億2652万8000円を計上しております。節1から節4までの繰入金は、繰入基準に基づくものでございます。節5、

その他一般会計繰入金 1 億7000万円は基準外の繰り入れであり、収支の不足額を補うものとして繰り入れるものでございます。

21ページをお願いいたします。

（款）保険給付費は、被保険者の入院、外来等に係る療養給付等に係るものであり、合わせて47億4942万3000円を計上しております。

24ページをお願いいたします。

下段の（款）後期高齢者支援金等は、後期高齢者医療制度への負担金であり、合わせて8億7307万7000円を計上しております。

26ページをお願いいたします。

上段の（款）介護納付金は、40歳から64歳までの国保加入者に係る介護保険料を支払基金に納付するものであり、3億6580万円を計上しております。

下段の（款）共同事業拠出金は、高額医療費等に係る財源の安定化を図る目的で国保連合会に拠出するものであり、合わせて21億5500万4000円を計上しております。

27ページをお願いいたします。

（款）保健事業費、（目）特定健康診査等事業費は、国保被保険者を対象に行います特定健康診査や保健指導等に係る経費であり、5532万2000円を計上しております。

続きまして、議案第32号 平成28年度山鹿市後期高齢者医療特別会計予算について、ご説明申し上げます。

1 ページをお願いいたします。

第1条は、歳入歳出予算の総額を7億466万2000円と定めるものです。

予算の主なものにつきまして、ご説明いたします。

8 ページをお願いいたします。

上段の（款）後期高齢者医療保険料につきましては、特別徴収と普通徴収を合わせまして、4億1666万8000円を計上しております。

9 ページをお願いいたします。

上段の（款）繰入金につきましては、事務費繰入金と保険料軽減のための法定繰り入れであります保険基盤安定繰入金を合わせまして、2億5036万8000円を計上しております。

12ページをお願いいたします。

上段の（款）後期高齢者医療広域連合納付金につきましては、市が徴収します後期高齢者保険料と一般会計から繰り入れます保険基盤安定繰入金分を合わせまして、6億6065万6000円を計上しております。

下段の（款）保健事業費、（目）健康保持増進事業費は、後期高齢者健診や、そ

の結果に基づく保健指導と健康教育など高齢者の健康増進に資する経費であり、3545万6000円を計上いたしております。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

中原建設部次長。

〔建設部次長 中原 忍君 登壇〕

○建設部次長（中原 忍君）

議案第33号 平成28年度山鹿市農業集落排水事業特別会計予算について、ご説明申し上げます。

1 ページをお願いいたします。

第1条は、歳入歳出予算の総額を9億2920万円と定めるものです。第2条から第4条につきましては、それぞれ債務負担行為、地方債、歳出予算の流用について定めるものです。

4 ページをお願いいたします。

第2表、債務負担行為です。水洗便所等改造資金利子補給について、期間及び限度額を記載のとおり定めるものです。第3表は、地方債です。農業集落排水事業について、限度額等を記載のとおり定めるものです。

次に、歳入予算の主なものについて、ご説明申し上げます。

8 ページをお願いいたします。

（款）の2、使用料及び手数料、（目）の1、農業集落排水施設使用料につきましては、1億9000万3000円を計上いたしております。

次に、歳出予算の主なものについて、ご説明申し上げます。

11ページをお願いいたします。

（款）の1、農業集落排水事業費、（目）の2、処理場管理費1億9587万8000円は、職員給与と、20カ所の処理場に係る修繕料及び処理場管理委託料、三玉、八幡汚水受入負担金等を計上いたしております。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

川崎福祉部次長。

〔福祉部次長 川崎 美明君 登壇〕

○福祉部次長（川崎 美明君）

議案第34号 平成28年度山鹿市介護保険事業特別会計予算について、ご説明申し上げます。

1 ページをお願いいたします。

第1条は、歳入歳出予算の総額を61億8765万6000円と定めるものです。第2条は一時借入金の最高額を、第3条は歳出予算の流用について定めるものです。

予算の主なものにつきまして、ご説明いたします。

8ページをお願いいたします。

上段の（款）保険料、（目）第1号被保険者保険料は、65歳以上の高齢者にご負担いただく保険料として10億6627万8000円を計上しております。

15ページをお願いいたします。

上段の（款）保険給付費、（目）介護サービス給付費につきましては、要介護1から要介護5までの認定を受けられた方に対する介護サービスに係るもので、50億5280万円を計上しております。

中段の（目）介護予防サービス給付費は、要支援1及び要支援2の認定を受けられた方に対する介護予防サービスに係るもので、2億3790万円を計上しております。

17ページをお願いいたします。

（款）地域支援事業費、（項）介護予防・生活支援サービス事業費は、平成28年4月から実施することとしております介護予防・日常生活支援総合事業に係るもので、要支援の認定を受けられた方や基本チェックリストにより介護予防や生活支援が必要と認められる方などへの対策として、合わせて1億6735万5000円を計上しております。

18ページをお願いいたします。

上段の（目）包括的支援事業費は、地域包括支援センターを中心に行う高齢者の総合相談と支援、権利擁護業務などに係るもので8118万8000円を計上しております。

次の（目）任意事業費は、介護給付費の適正化、成年後見制度の利用支援や認知症対策等に係るもので1006万5000円を計上しております。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

阿蘇品水道局長。

〔水道局長 阿蘇品 元晴君 登壇〕

○水道局長（阿蘇品 元晴君）

議案第35号 平成28年度山鹿市簡易水道事業特別会計予算について、ご説明申し上げます。

1ページをお願いいたします。

第1条は、歳入歳出予算の総額を1億6559万5000円と定めるものです。第2条は地方債、第3条は一時借入金について定めるものです。

4ページをお願いいたします。

第2表、地方債であります。簡易水道事業について、限度額を1790万円と定めるものです。

続きまして、歳入歳出予算の主なものについて、ご説明申し上げます。

8ページから9ページにかけて、歳入予算を計上いたしております。

(款)2、使用料及び手数料の簡易水道使用料につきましては、4330万9000円を見込んでおります。

次に、歳出予算の主なものについて、ご説明申し上げます。

10ページをお願いいたします。

(目)施設管理費3962万円は、簡易水道施設の維持管理経費でございます。

以上、説明を終わります。

○議長(藤原 弘君)

西田経済部首席審議員。

[経済部首席審議員 西田 博之君 登壇]

○経済部首席審議員(西田 博之君)

議案第36号から第39号までの財産区特別会計予算について、ご説明申し上げます。

まず、議案第36号 平成28年度六郷財産区特別会計予算について説明いたします。

1ページをお願いいたします。

第1条は、歳入歳出予算の総額を52万円と定めるものです。

7ページをお願いいたします。

(款)総務費、(目)財産管理費40万3000円は、委員報酬と管理作業が主なものです。

次に、議案第37号 平成28年度城北財産区特別会計予算について説明いたします。

1ページをお願いいたします。

第1条は、歳入歳出予算の総額を733万5000円と定めるものです。

7ページをお願いいたします。

(款)の総務費、(目)財産管理費626万1000円は、下刈りや作業道の維持管理が主なものです。

次に、議案第38号 平成28年度稲田財産区特別会計予算について説明いたします。

1ページをお願いいたします。

第1条は、歳入歳出予算の総額を39万6000円と定めるものです。

7ページをお願いいたします。

(款)の総務費、(目)財産管理費29万3000円は、委員報酬と管理作業が主なものです。

最後に、議案第39号 平成28年度稲田六郷財産区特別会計予算について説明いた

します。

1 ページをお願いいたします。

(款) 総務費、(目) 財産管理費43万円は、管理作業が主なものです。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

阿蘇品水道局長。

〔水道局長 阿蘇品 元晴君 登壇〕

○水道局長（阿蘇品 元晴君）

議案第40号 平成28年度山鹿市水道事業会計予算について、ご説明申し上げます。

1 ページをお願いいたします。

第1条は、総則です。第2条は、業務の予定量であります。給水戸数1万1971戸、年間総給水量269万1000立方メートル、1日平均給水量7373立方メートルと見込んでおります。主な建設改良事業は、配水管整備事業・南島水源地整備事業に1億4205万2000円を予定しております。第3条は、収益的収入及び支出の予定額であります。

(第1款) 水道事業収益を4億6037万円と見込んでおります。内訳は、主に料金収入及び手数料等の営業収益4億4681万5000円であります。

次に、支出ですが、(第1款) 水道事業費は4億4047万2000円を予定しております。内訳は、営業費用3億8402万5000円、企業債利息等の営業外費用5344万6000円であります。

2 ページをお願いいたします。

第4条は、資本的収入及び支出の予定額であります。(第1款) 資本的収入を1億164万8000円と見込んでおります。内訳は、建設改良事業に係る企業債及び工事負担金等であります。

次に、支出ですが、資本的支出は2億2787万4000円を予定しております。内訳は、配水管整備及び南島水源地整備等に係る建設改良費1億4911万8000円であります。

第5条から第8条につきましては、企業債、経費の金額の流用、議会の議決を経なければ流用することのできない経費、そして棚卸資産購入限度額について、それぞれ定めるものであります。

以上、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

飯田市民医療センター事務部長。

〔市民医療センター事務部長 飯田 啓詩君 登壇〕

○市民医療センター事務部長（飯田 啓詩君）

議案第41号 平成28年度山鹿市病院事業会計予算について、ご説明申し上げます。

1 ページをお願いいたします。

第1条は、総則でございます。第2条は、業務の予定量でございます。病床数は、一般病床197床、感染症病床4床、計201床でございます。年間延患者数は、入院5万5115人、外来6万1722人を見込んでおります。1日平均患者数は、入院151人、外来254人を見込んでおります。主な建設改良事業は、医療機器整備事業に6400万円を予定しております。

2 ページをお願いいたします。

第3条は、収益的収入及び支出でございます。

まず、収入でございます。（第1款）病院事業収益は36億2492万8000円を見込んでおります。内訳は、入院・外来などの医業収益32億1553万円、補助金・負担金などの医業外収益4億739万8000円、特別利益200万円でございます。

次に、支出でございます。（第1款）病院事業費用は35億4253万9000円を予定しております。内訳は、給与費、薬品等材料費などの医業費用34億5649万1000円、償還利息などの医業外費用8404万8000円、特別損失200万円でございます。

3 ページをお願いいたします。

第4条は、資本的収入及び支出でございます。

まず、収入でございます。（第1款）資本的収入6400万円を見込んでおります。内訳は、建設改良事業に係る企業債6130万円、他会計繰入金270万円でございます。

次に、支出でございます。（第1款）資本的支出6億6093万2000円を見込んでおります。内訳は、建設改良費6400万円、企業債の元金償還に係る企業債償還金4億9693万2000円、一般会計長期借入金償還金1億円でございます。

4 ページをお願いいたします。

第5条から、5ページ、第9条につきましては、企業債、一時借入金、経費の流用、議会の議決を経なければ流用することができない経費、そして棚卸資産の購入限度額について、それぞれを定めるものであります。

以上、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

ここで、昼食のため休憩いたします。

午前11時57分 休憩

○

午後1時15分 開議

○議長（藤原 弘君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

中原建設部次長。

[建設部次長 中原 忍君 登壇]

○建設部次長（中原 忍君）

議案第42号 平成28年度山鹿市下水道事業会計予算について、ご説明申し上げます。

1 ページをお願いいたします。

第1条は、総則です。第2条は、業務の予定量です。排水件数を1万748件、年間総排水量を637万5863立方メートルと見込んでおります。主要な建設改良事業は、山鹿処理区及び鹿本処理区の管路整備、山鹿浄水センターの整備であります。事業費は2億6089万1000円を予定いたしております。第3条は、収益的収入及び支出の予定額です。

まず、収入よりご説明申し上げます。（第1款）下水道事業収益は、12億3902万1000円を見込んでおります。内訳は、営業収益6億8473万5000円、営業外収益5億5378万5000円などであります。

次に、支出でありますが、（第1款）下水道事業費用は12億259万3000円を予定いたしております。内訳は、営業費用10億3936万2000円、営業外費用1億5523万円などであります。

2 ページをお願いいたします。

第4条は、資本的収入及び支出の予定額です。

まず、収入よりご説明申し上げます。（第1款）資本的収入は、2億2390万1000円を見込んでおります。内訳は、建設改良事業に係る企業債、補助金などであります。

次に、支出でありますが、（第1款）資本的支出は6億5051万9000円を予定いたしております。内訳は、管路・処理場整備に係る建設改良費、企業債償還金などあります。第5条は、債務負担行為です。水洗便所等改造資金利子補給、山鹿浄水センター改築更新工事業務、山鹿浄水センター運転維持管理業務委託について、期間及び限度額を記載のとおり定めるものです。

3 ページをお願いいたします。

第6条から第9条は、それぞれ企業債、一時借入金、予定支出の各項の経費の金額の流用、議会の議決を経なければ流用することができない経費について定めるものです。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

内野消防長。

[消防本部消防長 内野 輝雄君 登壇]

○消防本部消防長（内野 輝雄君）

議案第43号 財産の譲渡について、ご説明申し上げます。

当該議案につきましては、山鹿市公共施設再編整備計画に基づき、市有財産の管理運営の方向性を売却、譲渡と定めるものであります。

今回ご提案申し上げております市有財産の土地につきましては、利用形態から見まして受益者が限定されるため、地元自治会を契約の相手方とするものであります。

本案は、山鹿市消防団第2分団第3部消防格納庫の土地について地元自治会に譲渡し、引き続き消防団詰所及び消防小型動力ポンプ積載車格納庫として効率的活用を図るものであり、地方自治法第96条第1項第6号の規定により議会の議決を求めるものです。

譲渡する財産の種類は土地、所在は熊入町字西田122番2、地目は宅地、地積は88.11平方メートルであります。

譲渡価格につきましてはゼロ円、契約の相手先は、山鹿市熊入町272番地3、熊入町区自治会会長、福本 末春氏でございます。

以上で、ご説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

栃原経済部長。

〔経済部長 栃原 栄一君 登壇〕

○経済部長（栃原 栄一君）

議案第44号から議案第46号の財産の譲渡について、ご説明申し上げます。

まず、議案第44号について、ご説明申し上げます。

本案は、議案第25号でご説明申し上げましたとおり、山鹿市川北農村公園の施設等を地元自治会に無償譲渡し、引き続き地元住民の憩いの場として有効活用を図るものであります。

譲渡する財産の建物については、所在は山鹿市鹿本町中川字堤下3132番地、構造は木造平家建て、床面積は9平方メートルのあずまやと5.76平方メートルのトイレであります。

譲渡する財産の工作物については、公園灯、その他工作物一式であります。

譲渡価格はゼロ円、契約の相手方は、山鹿市鹿本町中川2371番地、川北区区長、福田 憲之氏であります。

続きまして、議案第45号 財産の譲渡について、ご説明申し上げます。

この案件も、議案第25号でご説明申し上げましたとおり、山鹿市麻生公園の施設等を地元自治会に無償譲渡し、引き続き地元住民の憩いの場として有効活用を図るものであります。

譲渡する財産については建物、所在は山鹿市鹿北町椎持字萱原569番地1、構造は木造平家建て、床面積は47.42平方メートルのあずまやと8.17平方メートルのトイレであります。

譲渡価格はゼロ円、契約の相手方は、山鹿市鹿北町椎持470番地2、鹿北町麻生区自治会会長、古家 俊夫氏であります。

次に、議案第46号 財産の譲渡について、ご説明申し上げます。

本案は、花卉栽培施設の用に供しているガラスハウスを地元バラ園組合に無償譲渡し、引き続き農業用施設として有効活用を図るものであります。

譲渡する財産については建物、所在は山鹿市城字西福寺1737番地8ほか1筆、構造は鉄骨づくり平家建て、床面積は1968.75平方メートルのガラスハウスと120平方メートルの管理棟2棟です。

譲渡価格はゼロ円、契約の相手方は、山鹿市石1181番地、山鹿バラ園組合組合長、中島 圭祐氏であります。

以上、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

木村教育部長。

〔教育部長 木村 厚男君 登壇〕

○教育部長（木村 厚男君）

議案第47号 財産の取得について、ご説明を申し上げます。

本案は、平成28年度からの中学校教科書の改訂に伴って必要となります教師用教科書等の取得について、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得または処分に関する条例第3条の規定により、議会の議決を求めるため提案をするものでございます。

取得する財産は、市内中学校の教師用の教科書、指導書及び教材一式であります。なお、内訳は、教師用教科書525冊、指導書450冊、教材472組となっております。

契約の方法は随意契約で、取得金額は2745万9392円です。契約の相手方は、山鹿市山鹿1845番地、山鹿市教科用図書納入組合組合長、原 啓二氏であります。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

飯田市民医療センター事務部長。

〔市民医療センター事務部長 飯田 啓詩君 登壇〕

○市民医療センター事務部長（飯田 啓詩君）

議案第48号 損害賠償の額を定めることについて、ご説明申し上げます。

本案は、地方自治法第96条第1項第13号の規定に基づき、医療事故に係る損害賠

償の額を定めるため、議会の議決を求めるものでございます。

相手方の住所、氏名は記載のとおりでございます。

本件事故の概要は、平成24年11月9日に当市民医療センターにおいて行った人工肛門再造設手術の後に左下肢急性動脈血栓症となり、他院へ搬送後、左下肢大腿部からの切断となられたものでございます。

損害賠償の額は1700万円でございます。

本件事故は、先ほどご説明申し上げましたように平成24年11月発生の事案でございますが、昨年の平成27年2月9日付で患者様の代理人弁護士から損害賠償の請求の通知がございました。その後、病院において検証、検討を行いました結果、手術後の早い段階で血栓の検査や専門医師へ相談をし、血管外科のある医療機関に転送するなりしていれば救肢できていたと考えられることから、手術後の経過観察等が不十分であったとして、その責任を認め、和解の話し合いを行ってまいりましたが、今回和解の運びとなったものでございます。

本件につきましての経緯は以上のとおりでございますが、患者様には多大なご苦勞をおかけいたしましたことを深くおわび申し上げ、今後市民に信頼される医療を構築してまいります。

以上、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

幸村総務部長。

〔総務部長 幸村 英星君 登壇〕

○総務部長（幸村 英星君）

議案第49号 山鹿市過疎地域自立促進計画について、ご説明申し上げます。

まず、これまでの経緯を申し上げます。

本市におきましては、合併前の鹿北町、菊鹿町、鹿央町の3町が過疎地域自立促進特別措置法、通称「過疎法」と申しますが、この法律に基づく過疎地域の指定を受けており、合併後は同法の特例措置により、新市全域がみなし過疎地域の指定を受けているところであります。

これによりまして、本市では平成22年度に過疎法の有効期限である平成28年3月31日までを計画期間とする山鹿市過疎地域自立促進計画を策定し、本計画に基づき過疎対策事業債を活用するなど、当該地域の自立促進と振興策を総合的かつ計画的に推進してまいりました。

これまで、過疎法の有効期限の延長のたびに新たな計画をご提案してきたわけですが、今回ご提案します山鹿市過疎地域自立促進計画につきましても、平成24年の法改正により、過疎法の有効期限が5年間延長されたことを受けまして、同法の期

限である平成32年度までの5カ年の計画として新たに策定するものでございます。

今後も引き続き本計画策定により、財政上の特別措置である過疎対策事業債を活用した事業を推進するため、過疎法第6条第1項の規定に基づき議会の議決を経る必要があり、提案するものです。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

原建設部長。

[建設部長 原 弘文君 登壇]

○建設部長（原 弘文君）

議案第50号 市道路線の廃止及び認定について、ご説明申し上げます。

本案は、市道路線の廃止及び認定を行うため、道路法第8条第2項及び第10条第3項の規定に基づき、議会の議決を経る必要があり、提案するものでございます。

今回、市道の廃止と認定を求めるに至った経緯につきまして説明いたします。

廃止及び認定を求める市道小今村荒平線は、起点及び終点とも県道菊池鹿北線に接続していますが、起点部分について交通の安全確保を図るため、県道との接続部分を約100メートル南へ移動したので、これまで利用していた区間を廃止し、今回開設した区間を認定しようとするものです。

以下、1ページの廃止する市道路線並びに市道路線に認定する路線により説明いたします。

まず、廃止する市道路線は、路線番号83258号、路線名、小今村荒平線、起点、山鹿市鹿北町多久字小今村、終点、山鹿市鹿北町多久字荒平です。

次に、新たに認定する市道路線は、路線番号、路線名、終点は同じで、起点が山鹿市鹿北町多久字中須に変更となります。

なお、2ページに位置図を掲載しておりますので、ご参照ください。

続きまして、議案第51号 市道路線の認定について、ご説明申し上げます。

本案は、市道路線の認定を行うため、道路法第8条第2項の規定に基づき、議会の議決を経る必要があり、提案するものです。

今回の認定路線は、山鹿市熊入町字大坪地内と山鹿市中字長浦地内において、それぞれ平成7年に県の開発許可を得て、宅地造成の開発行為により設置された道路です。

都市計画法第40条第2項の規定により、都道府県知事の許可を受けた開発行為により設置された道路など公共施設の用に供する土地は、工事完了後、地方公共団体に帰属されるものとされております。このため、市道路網の一つとして維持管理するため認定しようとするものでございます。

以下、1 ページの市道路線に認定する路線により説明いたします。

まず、路線番号81884号から81888号は、路線名、八千代台1号線から八千代台5号線として、起点は山鹿市熊入町字西田、終点は山鹿市熊入町字大坪でございます。

また、路線番号81889号は八千代台6号線として、起点及び終点はともに山鹿市熊入町字西田でございます。

次に、路線番号82956号は、路線名、長浦線、起点及び終点はともに山鹿市中字長浦です。

なお、2 ページ以降に位置図を掲載しておりますので、ご参照ください。

続きまして、議案第52号 熊本市道路線の認定の承諾について、ご説明申し上げます。

本案は、熊本市が市道の認定作業を進められている中で、鹿央町地内に接する熊本市北区植木町地内の熊本市道路線の一部に、境界を越えて市道を認定されている区間があり、道路法第8条第3項及び第4項の規定に基づき、市町村の区域を越えて路線を認定する場合は、関係市町村議会の議決を経て承諾を得なければならないため、本議会の議決を求めるものです。

以下、1 ページの熊本市道路線の認定を承諾する路線並びに2 ページ以降の位置図等に基づき説明いたします。

路線番号30-234、清水第11号線、路線番号30-354、正清清水第1号線、路線番号30-680、宮原正清第1号線は、2 ページの位置図に示しております㊸から㊻の箇所が、続きます3 ページから5 ページの拡大図のとおり、市町村界を越えて熊本市道として認定をされるものでございます。

また、路線番号30-753、千田田底第1号線は、6 ページの位置図のとおり、起点が山鹿市鹿央町千田地内となっているものでございます。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

池田副市長。

〔副市長 池田 永実君 登壇〕

○副市長（池田 永実君）

議案第53号 教育委員会委員の任命について、ご説明申し上げます。

本案は、現委員、徳丸 正子氏が本年3月1日をもって任期満了となりますので、新たに上田 三貴子氏を本市教育委員会委員に任命するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第2項の規定に基づき、議会の同意を求めるものでございます。

なお、次のページに略歴を記載しております。ご参照の上、ご同意を賜りますよ

うお願い申し上げます。

続きまして、議案第54号 公平委員会委員の選任について、ご説明申し上げます。

本案は、現委員、那須 篤子氏が本年3月31日をもちまして任期満了となりますので、新たに月足 朱實氏を本市公平委員会の委員に選任するため、地方公務員法第9条の2第2項の規定に基づき、議会の同意を求めるものでございます。

なお、次のページに略歴を記載しております。ご参照の上、ご同意を賜りますようお願い申し上げます、説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

原建設部長。

〔建設部長 原 弘文君 登壇〕

○建設部長（原 弘文君）

報告第1号 専決処分の報告について、ご説明申し上げます。

本件は、地方自治法第180条第1項の規定に基づき、市道の管理の瑕疵による事故に係る損害賠償の額の決定及び和解について専決処分しましたので、同条第2項の規定に基づき、報告するものでございます。

2ページをお願いいたします。

事故発生日時は、平成27年12月4日、午後9時ごろでございます。

相手方の住所、氏名は記載のとおりです。

事故の概要は、相手方が山鹿市鹿央町岩原地内の市道小原持松線を自動車で走行中、当該市道の陥没箇所に右前輪が落ち、相手方車両が損傷したものです。

損害賠償の額は、25万4506円です。

和解事項としまして、山鹿市は相手方に対し損害を賠償し、両者は本和解条項に定めるほか、本件事故に関し何ら債権債務がないことを確認するものです。

以上、ご報告申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

戸次福祉部長。

〔福祉部長 戸次 由夫君 登壇〕

○福祉部長（戸次 由夫君）

報告第2号 専決処分の報告について、ご説明申し上げます。

地方自治法第180条第1項の規定に基づき、車両事故に係る損害賠償の額の決定及び和解について専決処分をしましたので、同条第2項の規定に基づき、ご報告を申し上げます。

2ページをお願いいたします。

事故発生日時は、平成27年10月6日、午後2時10分ごろです。

相手方の住所、氏名は記載のとおりでございます。

事故の概要でございますが、県道日田鹿本線と市道古閑津袋線との交差点において、国道325号方面から県道を直進してきた相手方の運転する車両と、市道から当該交差点に進入した公用車とが衝突し、相手方を負傷させたものでございます。

損害賠償の額は、37万2562円です。

和解事項といたしまして、山鹿市は相手方に対し損害を賠償し、山鹿市と相手方は本和解条項に定めるほか、本件事故に関し何ら債権債務がないことを確認するものでございます。

続きまして、報告第3号 専決処分の報告について、ご説明申し上げます。

この案件は、報告第2号と同一の車両事故に係るものでありますが、車両の損傷に関しまして、車両が代車であったため、相手方が車両の所有者となり、別案件として取り扱うものでございます。

2ページをお願いいたします。

相手方の住所、氏名は記載のとおりでございます。

損害賠償の額は、31万5990円です。

和解事項といたしまして、山鹿市と相手方それぞれの賠償金を相殺し、山鹿市が相手方に対し29万2813円を支払い、山鹿市と相手方は本和解条項に定めるほか、本件事故に関し何ら債権債務がないことを確認するものでございます。

以上、説明を終わります。

○

散 会

○議長（藤原 弘君）

以上で、提案理由の説明を終わります。

今期定例会において受理した請願等の取り扱いにつきましては、お手元に配付の請願等文書表のとおりといたしましたので、ご報告いたします。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。

午後1時45分 散会

~~~~~

3 月 2 日 (水曜日)

## 平成28年（第1回）山鹿市議会3月定例会会議録

### 議 事 日 程（第2号）

平成28年3月2日（水曜日）午前10時開議

#### 第1 質疑・一般質問



#### 発言通告

##### 1. 富田 弘海

##### 一般質問

（1）ふるさと納税について

##### 2. 池田 誠一

##### 一般質問

（1）市長説明要旨の第3の柱の「人口減少に歯どめをかける・定住促進を図る」の  
具体的事業内容（企業誘致・子育て）について

（2）ふるさと納税について

（3）生活排水処理について

##### 3. 芹川 正美

##### 一般質問

（1）TPP政策大綱について

①国、県の説明（大綱概要）

②本市農林業に対する影響等

③今後の対策（国、県、市含む）

##### 4. 富丸 洋一郎

##### 一般質問

（1）山鹿観光振興策山鹿灯籠ジャパンプランド構想について

①有名デザイナーにアドバイザー就任依頼までの経緯

②現在の灯籠ポスター制作者に理解は得られるのか

③山鹿灯籠のオンリーワンプランドを目指す理由（市長）

④契約後の灯籠祭りにどのような変革を期待するのか（市長）



#### 本日の会議に付した事件

議事日程のとおり



出席議員（20名）

|     |           |
|-----|-----------|
| 1 番 | 服 部 香 代 君 |
| 2 番 | 富 田 弘 海 君 |
| 3 番 | 永 田 健 君   |
| 4 番 | 稲 葉 昇 君   |
| 5 番 | 富 丸 洋一郎 君 |
| 6 番 | 藤 本 峰 秀 君 |
| 7 番 | 北 原 昭 三 君 |
| 8 番 | 芹 川 正 美 君 |
| 9 番 | 藤 原 豊 君   |
| 10番 | 平 井 邦 廣 君 |
| 11番 | 吉 本 政 幸 君 |
| 12番 | 池 田 誠 一 君 |
| 13番 | 堀 茂 幸 君   |
| 14番 | 永 田 紘 二 君 |
| 15番 | 横 手 啓 介 君 |
| 16番 | 藤 原 弘 君   |
| 17番 | 太田黒 鐵 郎 君 |
| 18番 | 丸 山 寛 治 君 |
| 19番 | 寺 崎 勇 児 君 |
| 20番 | 丸 山 康 昭 君 |



説明のため出席した者

|          |           |
|----------|-----------|
| 市 長      | 中 嶋 憲 正 君 |
| 副 市 長    | 池 田 永 実 君 |
| 教 育 長    | 堀 田 浩一郎 君 |
| 総 務 部 長  | 幸 村 英 星 君 |
| 消防本部消防長  | 内 野 輝 雄 君 |
| 市 民 部 長  | 阿蘇品 貴 司 君 |
| 福 祉 部 長  | 戸 次 由 夫 君 |
| 経 済 部 長  | 栃 原 栄 一 君 |
| 経済部首席審議員 | 西 田 博 之 君 |
| 建 設 部 長  | 原 弘 文 君   |
| 教 育 部 長  | 木 村 厚 男 君 |

山鹿市民医療センター  
事務部長兼医事課長  
総務部次長兼政策審議員  
市民部次長  
市民部次長  
福祉部次長  
経済部次長  
教育部首席教育審議員  
秘書企画課長兼企画係長  
長寿支援課長  
農業振興課長

飯 田 啓 詩 君  
木 下 実 君  
阿 部 一 行 君  
金 光 一 誠 君  
川 崎 美 明 君  
早 田 順 二 君  
熊 野 浩 君  
野 満 信 男 君  
徳 永 謙 吾 君  
才 田 豊 昭 君



事務局職員出席者

議会事務局長  
局長補佐兼議会総務係長  
議事係長  
書 記

野 田 修 誠 君  
森 田 英 美 君  
小 山 天 君  
高 木 善 彦 君



○

これより本日の会議を開きます。

○

〔2番 冨田 弘海君 登壇〕

また、このふるさと納税は税金面の控除だけでなく、人気の理由として、その地域の特産品などをゲットできるというのが大きな目玉となっています。そこで、多



くの自治体の特産品を用意したふるさと納税に取り組んでおられますが、特に人気がある自治体は長崎県平戸市で、選べる特典の種類は84種類もあり、魚・肉・野菜・焼き物などが選べます。ほかにも、佐賀県玄海町、北海道の上士幌町などが人気自治体となっています。そして、上位にランキングされる自治体の特徴に和牛が選べることが共通点ともなっているところです。

山鹿市のふるさと納税につきましては、平成20年度から始まり、多くの方々に納税をいただいているところかと思いますが、当初から平成26年までの寄附総件数と寄附総額について、それから一定額以上の寄附をされた方には山鹿の特産品などを贈られているのか。また、その額についてお尋ねしたいと思います。

○議長（藤原 弘君）

これより執行部の答弁を求めます。幸村総務部長。

〔総務部長 幸村 英星君 登壇〕

○総務部長（幸村 英星君）

富田議員の一般質問、ふるさと納税についてお答えいたします。

議員ご案内のとおり、ふるさと納税は、自治体に寄附をされた場合に、当該寄附額のうち2000円を超える部分について、所得税と住民税から一定の控除が受けられる制度であり、本市におきましても平成20年度から「山鹿市ふるさと応援寄附金」という名称でふるさと納税に取り組んでまいりました。

まず、平成26年度までの寄附の総件数と寄附金総額についてのお尋ねでございますが、平成20年度から平成26年度までの寄附の総件数は408件、寄附金総額は2110万2670円です。

次に、ご質問の2点目、返礼品につきましては、これまで山鹿産の米やお茶、さくら湯の入湯券、来民渋うちわなどの中から1000円程度の山鹿市の特産品を年度ごとに1点選定し、寄附の額に関係なく寄附者全員にお贈りをしているところでございます。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

富田君。

〔2番 富田 弘海君 登壇〕

○2番（富田 弘海君）

答弁、ありがとうございました。

寄附の額の大小に関係なく、寄附された方の気持ちの込められた寄附であり、山鹿市にとりまして非常にありがたいことだと感謝する次第であります。

次に、寄附金の使途につきましては、第1次山鹿市総合計画の基本目標となって

います5つの目標と、市長にお任せの6つの中から選べるようになっています。そこで、寄附者が選んだ活用内容は何が一番多くて、これまでどのような施策に活用されているのか、お尋ねします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。幸村総務部長。

〔総務部長 幸村 英星君 登壇〕

○総務部長（幸村 英星君）

富田議員の2回目のご質問にお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、本市では寄附の使途といたしまして、第1次山鹿市総合計画の基本目標であります「心豊かにたくましく生きる人づくり」、「活力ある産業づくり」、「地域とともに支え合う暮らしづくり」、「安全で快適な暮らしを支える基盤づくり」、「人と自然が共生する環境づくり」の5つの項目と、充当先を市が決定する「市長にお任せ」という合計6つの項目の中から選んでいただいております。

ご質問の1点目、寄附者が選択された活用先の中で一番多かった項目は、「市長にお任せ」で、約半数を占めております。この「市長にお任せ」を選択いただいた寄附につきましては、先ほど申し上げました5つの基本目標に基づいた施策に充当いたしてまいりました。また、基本目標の5項目の中では、結果としまして「心豊かにたくましく生きる人づくり」への配分が最も多く、具体的には、「元気いきいき地域再生支援事業」、「夢の“とびら”をひらく事業」、「未来への1ページ事業」に活用させていただいたところでございます。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

富田君。

〔2番 富田 弘海君 登壇〕

○2番（富田 弘海君）

答弁、ありがとうございました。

平成26年度より、ふるさと納税を利用して寄附される方が全国的に増加していると聞きます。ふるさと納税自体の目的はあるかと思いますが、その要因は何といっても地域の特産品をゲットできるということが挙げられるかと思いますが。ふるさと納税を生かしたまちづくりに取り組む自治体を応援している、ふるさと納税のインターネットがあります。ここが運営しているふるさとチョイスを介して、平成27年に申し込まれた寄附が1億円を上回った自治体数は何と254自治体あります。山鹿市にも多くの農畜産物などの特産品が数多くありますが、さきのTPPの大筋合意に

より関税の即時撤廃や段階的な引き下げが始まります。そのため、国は農業施設の整備などの安定供給のための対策や、輸入品に対する競争力の強化が必要となりますので、その対策には期待はするものの、農家の不安解消には至らない状況かと思っています。最初にも申しましたように、ふるさと納税の取り組み方次第では、大きな財源の一つにもなり、かつ地域活性化にもつながると思っております。今回の当初予算にも、ふるさと応援事業として大幅な増額予算が計上されております。そこで、山鹿市ふるさと納税制度について、どのような考え方を持っておられるのか。市長にお伺いしまして、私の一般質問を終わります。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。中嶋市長。

〔市長 中嶋 憲正君 登壇〕

○市長（中嶋 憲正君）

皆さん、おはようございます。

富田議員の3回目のご質問にお答えいたします。

ふるさと納税につきましては、総務部長の答弁にもありましたように、平成20年度から取り組んでまいりました。しかしながら、ここ数年のふるさと納税を取り巻く状況を見ますと、寄附金額が億を超える自治体が出ており、テレビ等でも取り上げられ、また、平成27年度には税制改正により寄附控除の限度額が約2倍になり、確定申告も簡素化され、市民にとりましても寄附しやすく関心が高いものになっております。

今後もふるさと納税の寄附者が増加すると見込まれる中で、返礼品の取り組みを行っている自治体と、そうでない自治体との差はますます大きくなっていくものと思われま

す。そこで、本市におきましても、他の自治体の取り組みに負けないように、山鹿市の魅力ある特産品等を返礼品として用意し、市外にお住まいの山鹿市出身の方はもちろんのこと、全国民に対し山鹿市をアピールし、寄附の増加を図ってまいります。

用意する返礼品につきましてはこれから確定していくわけですが、農産物等の特産品を初め、本市の観光資源であります温泉の宿泊券や伝統工芸品の山鹿灯籠などを想定しております。

本年は、地方創生実働元年であります。地方創生の一助をなすものとして、このふるさと納税という制度を十分活用することによりまして、全国に対し山鹿市の情報発信を行い、販路拡大や観光客の増加などの地域の活性化につなげるように尽力してまいります。

以上、答弁いたします。

○議長（藤原 弘君）

以上で、富田君の一般質問は終了いたしました。

次の通告順により、池田 誠一君の発言を許します。池田君。

[12番 池田 誠一君 登壇]

○12番（池田 誠一君）

おはようございます。

12番議員、池田 誠一です。

今回3点ほど一般質問を通告いたしております。一問一答方式にて質問させていただきますので、よろしくご答弁方お願いを申し上げたいと思います。

まず、1点目でございますけども、市長説明要旨の第3の柱ということで、人口減少に歯どめをかける・定住促進を図るという項目を打ち出されております。いろいろ市長の説明要旨の中には、具体的なまたは大きな柱等がございますけども、私はこの点について質問をさせていただきます。

まず、この定住促進という大きな枠の中では、どういったものを具体的に事業として今回取り上げようとしているのか、その辺のところからお伺いをしたいというふうに思います。

○議長（藤原 弘君）

執行部の答弁を求めます。幸村総務部長。

[総務部長 幸村 英星君 登壇]

○総務部長（幸村 英星君）

池田議員の一般質問、定住促進対策に関しての山鹿市の基本方針について、お答えいたします。

我が国の総人口は2008年、1億2808万人をピークとして、以降減少に転じ、本市におきましても、2010年の5万5000人から、何も対策を施さなかった場合、2060年には2万8000人になるものと推計をされております。

このような人口の急速な減少は、市民生活の活力低下を招くばかりではなく、地域経済にも大きな影響を及ぼすなど、市政全般にかかわる重要な問題であり、その対策は急務であると考えております。

人口減少は、社会減と自然減の両方に起因することから、社会減を抑制するための転入の促進と転出の抑制が必要でありますし、自然減を抑制するためには、子育て世代の定住や出生率の向上につながる取り組みが必要であると考えております。

このようなことを踏まえまして、人口減少に少しでも歯どめをかけるために、移住・定住促進対策を、山鹿市総合戦略及び第2次山鹿市総合計画の中でも重点施策として取り組んでまいりたい方針であります。

議員のご質問の、重点施策の第3の柱、人口減少に歯どめをかける・定住促進を図るための定住促進対策に関する市の基本的方針につきましては、平成27年9月定例会においても答弁をいたしているところでございますが、この実現には、若い世代が幸せと豊かさを実感しながら安心して暮らし続けたいと思える魅力あるまちづくりが必要であると考えております。

具体的な取り組みといたしましては、新養蚕産業構想、菊鹿ワイナリー構想などに代表される戦略的産業の推進と魅力ある雇用の創出を図る経済対策を初め、空き家情報提供のための管理システムの構築、三世帯同居世帯や空き家バンク利用者への補助などの移住定住促進事業、18歳以下の子供医療費の継続的助成や不妊治療への支援、妊婦への無料受診券の配布、放課後児童クラブや病後児保育の充実などの子育て支援の充実といった人口対策を進めてまいります。

ただいま申し上げました取り組みは対策の一例であり、各施策を有機的に連携させながら定住促進対策の相乗効果を図り、安心して暮らし続けたいと思える魅力あるまちづくりに努めてまいりたいと考えております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

池田君。

[12番 池田 誠一君 登壇]

○12番（池田 誠一君）

再度、質問させていただきます。

今、部長より答弁をいただいたわけですが、確かにこの定住促進を図る上においては、さまざまな要因、そしてまた、さまざまなシステム、事業が必要になろうかというふうにも思います。そういう中で、確かに福祉問題である。そしてまた、経済の中の企業誘致の問題である。また、建設問題である。そしてまた、教育の問題であろうというふうに関係する分野にまたがって、ただ単なる一つの事業だけで展開できて、それを解決するべきものじゃないのかなというふうにも考えてもおります。そういう中で、私はその中の2点について、質問させていただきたいというふうに思います。

といいますのは、以前、この本市の目的の中にも企業誘致ということで、工業団地の誘致をするために、いろんな施策を展開をされてまいりました。また、その地元説明においても、それぞれの地元の行政区において、説明をなさったわけですが、いろんな諸事情により、頓挫しているところでもございます。そういった中で、この企業誘致を行うことによって、いろんな職場の体験、また、職場に勤めることができるというふうにも考えております。

昨年でございますけども、私たち特別委員会でございますが、4つの地元の高校生の代表者との懇談を持つ機会を与えていただいたときに、その高校生の子たちが20人ほど、各学校5名平均でございましたけども、20名弱の生徒たちが、今、この山鹿にいいところはどこでしょうか。また、マイナス点ならどこだろうかということで、いろいろお伺いしたときに、いろいろな答えが出ました。じゃあ、そういったいいところがいっぱいあるよねって。じゃあ、そのあなたたちは、このいいところに住みたいと思いますかって。住みたいと思う人いますかって言ったら、たった1名です。この山鹿に住んでこのまま働きたい、このまま住んで生活を行いたいってというのは、たった1名だったんです。私はもう少しですね、半分はいかずとも、せめて3分の1の数の生徒たちが残ってくれるものというふうな形の中で、質問させていただいたんですが、たった1名っていうのは情けないなっていうふうに思いました。理由は何かって言ったら、やはり職場がないということです。これが一番大きな原因でございましたし、また、山鹿に魅力がないというのも2点目でした。こういうことを思ったときに、やはり、職場っていうのは若い世代を引きとめるためには最も重要な案件じゃないかなっていうふうにも思ったところです。そうすることで、あのとき頓挫しました工業団地等の役割は、その後、どのような形の中で当市として展開しようとなされるのか。再度質問させていただきます。

よろしくをお願いします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。栃原経済部長。

〔経済部長 栃原 栄一君 登壇〕

○経済部長（栃原 栄一君）

池田議員の一般質問、企業誘致と新たな工業団地の取り組みについてお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、人口減少に歯どめをかけ、定住の促進を図る上で、若者を初めとする市民の雇用の場を確保することは、大変重要なことであると考えております。

そこで、新たな企業の誘致に向けた活動といたしましては、熊本県の企業立地課や福岡事務所、大阪事務所、東京事務所との連携を密にし、情報を交換しながら、熊本県や本市にゆかりのある方々を訪問するなど、福岡、関西、東京方面へ出向き、新たな企業への訪問につなげてまいります。また、本市の既存企業に関連のある企業も訪問をさせていただいております。

さらに新たな企業の誘致が厳しい中、既に立地いただいている企業を大事にし、本市への集約や増設の促進、他市への移転防止を図ることも非常に重要なことであ

と考えております。

また、新たな工業団地の取り組みにつきましては、平成24年2月に策定いたしました山鹿市工業振興ビジョンの中で、東部工業団地の拡張について検討しておりますが、整備費用、社会経済情勢等を勘案して、慎重に判断をいたしております。現状といたしましては、誘致可能な用地として、市内の民有地を調査し、所有者のご理解を得られた12カ所、合計約12.5ヘクタールについて、先ほどの誘致活動の中で企業立地の適地としてご紹介をいたしております。今後も粘り強い誘致活動と既存企業への支援に努め、経済の活性化、定住の促進につなげてまいりたいと考えております。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

池田君。

[12番 池田 誠一君 登壇]

○12番（池田 誠一君）

答弁いただいたわけでございますけども、より一層の企業誘致に対する努力、そしてまた、若い人たちが、この山鹿の地に住んでよかった、そしてまた、働ける場があるよというような形の中で、精いっぱい努力を惜しまない努力をお願い申し上げたいと思いますし、また、職員さんの中にも同級生等々が県外に出て、企業を立地したり、また、ベンチャーを起こして、すごく成功をされてる方もいらっしゃると思うんですよ。もし、そういったのが知り合いでも少しでもおられるならば、そういった職員さんたちのつてを伝いながらも、この企業誘致に対して積極的に取り組んでいただきたいと思うところであります。

そしてまた、定住促進についてもう1点ということで、申し上げます。それは、教育だろうというふうに考えております。何でかと申し上げますと、昔の人っていいですか、私たちの世代まではそうだったかもしれませんが、私たち以前の方たちは、家であるとか、ふるさとであるとか、そういったものに物すごく愛着心、愛郷心を持っていたというのは事実であろうと思います。当時と今と比較しましても、そんなに当時が企業数が多かったわけでもない。また、いろんな職場が多かったわけでもないと思うんです。しかしながら、現時点として、私たち世代がこのように地元山鹿の中で、生きて育ち、そしてまた、働きながら生活を共有してるってことは事実であるというふうに考えます。どうしてかということを述べてみますと、前は「あなたは家の跡取りたい」と。この言葉が大きく、やはり私たちの心の中に響いてきたのも事実であろうと思います。「跡取りだけん、残っとかなんたい、誰か1人は」と。「お墓を守んなっせ。家守っていかなんたい。」この言

葉、大きな意味があったと思います。しかしながら、今はその言葉すら聞かれません。死語になっちゃいけないかっていうぐらいの言葉です。「あなたは自分のよかところに行って、自分の本当の思うところに思うように生きていきなさい。」っていうのが、今の現状の言葉だろうと。また、現状の教えだろうというふうに思っております。

そういった中で、昔ながらの赤穂浪士を今、山鹿の中にも遺髪塔を抱えながら、毎年2月4日に慰霊祭を行っております。あの赤穂浪士の心が何で私たちの心を打っていくか。いまだもってこの心の中に沸々とその思いが残っていくかと言ったら、やはり、義士さんが名君、名君と言いますか、自分が仕えたその殿に対して忠義を行うという、本当に日本人たるゆえの心の清らかさ、そしてまた、家を守らなくてはいけないという思いのそのつてが、いまだもって沸々とつながってるからこそ、この思いがつながってるんじゃないだろうかというふうにも考えます。そういった中で、この教育ということにおいて定住促進、すなわち、山鹿に残る、ふるさとに残るという思いが伝わるんじゃないかということで、現教育としてのどのような教えの中で、このふるさとに残るための施策、また教育等を行ってらっしゃるか、お聞きいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。熊野首席教育審議員。

〔教育部首席教育審議員 熊野 浩君 登壇〕

○教育部首席教育審議員（熊野 浩君）

池田議員の一般質問、郷土に対する思いを教育の中でどのように伝えているかということについてお答えをしたいと思います。

郷土、それは自分が生まれ育った場所と今現に住んでいる場所、自分の生活の基盤があるところです。自分たちが住み、自分たちを育てくれる土地を愛し、感謝する心、それが郷土を愛する心だと思います。

郷土が与えてくれる恵みがあるから、人は生かされるのであり、郷土への愛があるから、我々は幸せになれるのだと言えるのかもしれません。

よって、郷土を育む教育は大変重要なものだと思っております。

何かを好きになっていくには、褒められるということが一番です。

山鹿市教育委員会では、日本一の学園都市づくりの中で、山鹿で学んでよかったという子供たちを育成しようとさまざまな取り組みを展開しております。その結果、全国各地からたくさんの視察があり、そのたびに山鹿の子供たちが褒められています。それは、子供たちの自信となり、ふるさと山鹿に誇りを持つことにつながります。また、そのことが、山鹿で学ばせたい、山鹿で育てたいという人をふやすこと



にもつながるのです。

現在、学校では総合的な学習の時間を使って、郷土について学んでおり、その結果を八千代座で毎年発表している学校もあります。教育委員会としましては、今後もふるさとを愛し、ふるさとに誇りを持つ教育のさらなる推進を考えています。そして、外に出て活躍した人ばかりでなく、地元のこの山鹿の地に残って活躍している人たちのことも、教材としてできるだけ取り入れていくようにすることで、山鹿の地に残って働くすばらしさを伝えてまいります。

議員ご指摘のように郷土愛を育むことは、定住促進のためには大変重要なことのひとつだと認識しております。しかし、教育という立場からは、それだけではなく、例えばほかのどんなところに行っても持ち続けるべき、生きる力の源としての郷土愛、山鹿を愛する心を育むことも重要だと考えております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

池田君。

[12番 池田 誠一君 登壇]

○12番（池田 誠一君）

答弁、ありがとうございました。

今、熊野審議員の方から本市の教育において、なすべきことをおっしゃっていただいたわけでございます。これは学校側だけの教育じゃなくて、やはり、家庭教育、そしてまた地域教育の中にも、そういったものを子供たちに知らしめていくっていう方法も大きな一つの施策ではないだろうかというふうに思いますし、一体となって、チーム山鹿として、子供たちのより山鹿に対する愛の心、それを教えていくのが、これから先の私たちの務めじゃないかなというふうにも思います。

以上、定住促進についての質問はこれで終わらせていただきます。

続きまして、ふるさと納税についてでございますけども、通告しておりました、この質問事項につきましては、先ほど富田議員より詳しくご質問ございました。よって当初、私もこの質問内容そのものを外そうかと思いましたが、2点ほど違った形の中で、別な意味を持ちまして質問させていただきたいというふうにも思います。

富田議員の質問の中にもありましたように、このふるさと納税、本来ならば納税っていうことではなくて、山鹿市に関連のある、または山鹿市出身の方がよその地域に住んで、そしてまた、ゆかりのある方が山鹿の地に何らかの形でご奉仕をしたい、または、恩返しをしたいという趣旨のもとでされるのが本来の趣旨かなというふうにも思いますが、税っていうことじゃなくて、これはあくまでも寄附という形

であろうかというふうにも思います。そういった中で、このふるさと納税の導入によって、ある関東の地域でございましたけども、その自治体ではですね、このふるさと納税そのものの物品の御礼のお返しっていうものは趣旨が違うってことで導入されなかったそうです。本当に気持ちのある方だけの寄附をいただいていたところ。ところが、その自治体では、ふるさと納税がほかの自治体へ、本来その自治体に住んでらっしゃる方がほかの自治体へ寄附されることによって、本来自分のところの自治体に入るべき税がよそのほうに行ってしまったということで二千数百万円のマイナスになっていたという事実をつかんだ上において、新たにふるさと納税の導入に踏み切ったという経緯をテレビ報道でなされておりました。そういうことを報道なされたっていうことでは、当然、当市においても先ほどから若干のふるさと納税、ふるさと納税の寄附金を預かることはあったという経緯報告はいただいておりますが、当初500万円弱のその寄附行為があったのが、だんだん減りつつ、昨年度、例えば、半分ぐらいの230万円ぐらいになってるかなというふうに思いますが、そのことによってマイナスをこうむった、例えばよそに寄附行為によって入るべき税金が入らなくなった、もし金額がおわかりになれば、お示しをいただきたいというふうに思います。

よろしくお願いします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。阿蘇品市民部長。

〔市民部長 阿蘇品 貴司君 登壇〕

○市民部長（阿蘇品 貴司君）

池田議員のご質問、本市におけますふるさと納税の影響額につきまして、お答えいたします。

この制度は、ふるさと納税された翌年に一定の範囲まで所得税及び住民税が控除される仕組みとなっておりますので、本市に影響します平成20年度寄附に対する平成21年度市民税の控除分から順次お答え申し上げます。

平成21年度は1件で寄附金額8万円、市民税の控除額3万900円。平成22年度は6件で6万円、控除額1万3818円。平成23年度は38件で435万円、控除額110万2521円。平成24年度は173件で1175万1503円、控除額252万606円。この年度は、東日本大震災の影響により件数・金額とも増加しているものと考えております。平成25年度は62件で537万6227円、控除額137万7110円。平成26年度は11件で334万8100円、控除額87万543円。平成27年度は45件で383万円、控除額133万9697円となっております。7年間の合計で他の自治体への寄附金件数336件、寄附金総額2879万5830円。これに伴います市民税の控除額、これが影響額になりますけれども725万5195円と

なっております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

池田君。

[12番 池田 誠一君 登壇]

○12番（池田 誠一君）

ふるさと納税に2回目の質問させていただきます。

このふるさと納税、先ほど富田議員の方からもありましたように、大きいところは、先ほど平戸市というふうにおっしゃいましたけども、一番近い情報では、宮崎県の都城市ということで、約三十数億円のふるさと納税っていうか、寄附金があったということをお伺いしております。それぞれの自治体の考え方によって違うでしょうけども、その寄附金が30億円としますと、そのうちの半分ぐらいを返礼、お礼としてお返しをします。物品等々ですね。そうしますと約半分ぐらい、15億円が税収として、その市に入ってくるということになります。当市はまだ、若干少ないということで、まだ1000万円単位でございすけども、これが将来的において、本当にこれに力入れ、トップとまでいきませんが、数億円、億単位の寄附行為がなされるということになりますと、やはりそのシステム、そしてまた、今何名でこれをされようとしているのか、まだわかりませんが、そういったスタッフの人員等の確保、そしてまた、いろんなことも出てくるだろうと思います。そうしますときに、この山鹿市がどれぐらいの最終的な規模、最終的といいますか、人員的なそういったシステムを構築しようとしてるのか、再度、お伺いをしたいと思います。

隣の菊池市もちょっと伺ってまいりましたけども、ここ5年間で約10倍ぐらいの導入してから伸びを示してるということでございまして、まだ1人の職員さん張りつけのまましてると。ただ来年度、要するに平成28年度からはもう1人、2人、そしてまた、外部にも委託しようということも考えておられるということでございすので、当市としてはどのような考えをお持ちなのか、再度お聞かせいただきたいと思います。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。幸村総務部長。

[総務部長 幸村 英星君 登壇]

○総務部長（幸村 英星君）

ふるさと納税についての2回目のご質問にお答えをいたします。

議員ご指摘のとおり、返礼品を贈る取り組みを強化した場合、寄附件数の増加が見込まれ、それに伴い事務の煩雑化や事務量の増大が予想されます。担当職員の増

員が難しい現状を考えますと、一連の作業の中で、民間事業者にできる部分については民間の力を活用し、事務の効率化を図ってまいりたいと考えております。

現在、ふるさと納税に対する返礼を行う自治体が全国的にふえるに伴い、ふるさと納税の業務を代行する民間の事業者もふえている状況です。

本市でも、インターネットでの申込受付やクレジットカード決済を導入するとともに、受付や納付書の発行、返礼品の発注・管理・発送といった一連の業務を民間の事業代行者に委託することで、事務の効率化や経費の節減を図ってまいりたいと考えております。

なお、この場合におきましても、返礼品の選定等については、行政として責任を持って関与してまいります。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

池田君。

[12番 池田 誠一君 登壇]

○12番（池田 誠一君）

ふるさと納税について、ご答弁いただきました。

初めての予算も組んであります。約1700万円という予算を計上しながら、この事業に対して取り組まれるわけでございますので、大きな期待を持って歓迎をしたいなというふうに思いますし、この税収が混沌とする中、新たな税収ふやすための施策でございますので、精いっぱいのご努力をお願いを申し上げたいというふうに思います。

それでは、3点目の質問に入らせていただきます。

生活排水処理についてっていうことでございますが、3つのパターン分けられるというふうに思います。まずは公共下水道、それに農業集落排水事業、そしてまた合併浄化槽装置っていう、要するに排水処理っていいですか、汚泥等々との処理をどのようにしていくかということでございますけども、これまで当山鹿市が取り扱ってこられました、また事業として展開してこられました3つの事業に対してそれぞれの今進捗状況、まず現況等をお伺いをさせていただきます。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。原建設部長。

[建設部長 原 弘文君 登壇]

○建設部長（原 弘文君）

池田議員の一般質問、生活排水処理についての山鹿市全域の生活排水処理の整備状況についてお答えいたします。

山鹿市全域の生活排水につきましては、公共下水道、農業集落排水、それから合併処理浄化槽、単独浄化槽やし尿くみ取りによって行っており、総人口に対します割合は、公共下水道による処理が総人口の48.7%、農業集落排水が33.4%、また、合併処理浄化槽が15.6%、単独浄化槽が0.8%で、し尿くみ取りが1.5%という状況でございます。

続きまして、整備状況でございますが、公共下水道は、整備計画面積940.5ヘクタールに対しまして、整備済み面積840.78ヘクタールで、整備率は89.4%。

農業集落排水は、整備計画処理区21処理区に対しまして、全ての処理区が整備済みで、整備率は100%でございます。

また、合併処理浄化槽による整備につきましては、整備計画区域の計画戸数2900戸に対しまして、設置済み戸数2417戸で、整備率は83%となっております。

次に、水洗化率でございますが、平成26年度末現在で、公共下水道が75.3%、農業集落排水が72.2%となっております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

池田君。

[12番 池田 誠一君 登壇]

○12番（池田 誠一君）

生活排水処理についての2回目の質問をさせていただきます。

今、部長より全体的な経緯、そしてまた、現況等を説明いただいたわけでございます。

どうして私がこの質問させていただくかといいますと、旧4町につきましては農業集落排水事業っていうのが、前もって本当に完璧といいますか、ある程度もう100%に近い形でなされとったという経緯もございますが、旧山鹿市につきましては、公共下水道以外の農業集落排水地区っていうのが限られたところしかされておりました。まだ残された校区、小学校区ですけども、が幾つかあったように記憶がありましたものですから、その件につきましては合併浄化槽等の導入を、要するに助成を行いながら、そちらのほうに切りかえていくっていう、お答えはいただいていたんですが、そのどこまで進んでるのかなっていう気がいたしましたものですから、改めて質問させていただいたところです。

その合併浄化槽につきましては、例えば、平小城校区であるとか、川辺校区であるとか、その辺のところが、やはり公共下水道も通ってないし、農業集落排水も設置されていないということで、当然そのような、三岳校区も含めてですけども、地区には合併浄化槽の導入の勧めっていいですか、推薦をされてきているものというふ

うに思います。その伝達方式っていいですか、集落の方たちに、その正式な、本当に具体的っていいですか、皆さん全体にまだ浸透してないところもあるんじゃないかなっていうふうにも思います。「いつ来っとだろか」っていう話も時々聞きます。

「うちは集落排水で来るって聞いとったばってん、まだ来ん。」とか、そういうことも時々聞きますもんですから「いや、そうじゃありません。」って、「おたくの地区は合併浄化槽等で対応させていただくという形を今とってるところです。」っていうことを説明はしておりますけども、時々そういった言葉も聞きます。ですので、これから先の方針といいですか、この生活排水処理のこれから先、どのような形で100%に近い形での環境の整備を行おうとされているのか。そしてまた、補助金等々の何年度までこの助成をされることが出来るのか。その辺のところをあわせてですね、完備されてない地区へのきちとした説明を行いながらの状況を説明をお願い申し上げたいと思います。

以上で、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（藤原 弘君）

原建設部長。

[建設部長 原 弘文君 登壇]

○建設部長（原 弘文君）

池田議員の一般質問、生活排水処理についての2回目のご質問、今後の方針につきましてお答えをいたします。

公共下水道及び農業集落排水事業につきましては、今後、新たな区域の整備は考えておりません。

合併処理浄化槽につきまして、公共下水道処理区域及び農業集落排水処理区域に該当しない地域につきまして、現在、通常の補助に加えて、平成31年度までの山鹿市独自の上乗せ補助により整備を図っているところでございます。

今後も、公共下水道や農業集落排水区域の接続率の向上を図るとともに、合併処理浄化槽によります生活排水処理の向上のため、広報紙やホームページに掲載をし、さらに広く周知を図りながら、整備を進めていく考えでございます。

以上、ご答弁を申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

以上で、池田君の一般質問は終了いたしました。

ここで、暫時休憩いたします。

午前10時52分 休憩

○

午前11時04分 開議

○議長（藤原 弘君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

次の通告順により、芹川 正美君の発言を許します。芹川君。

[ 8 番 芹川 正美君 登壇 ]

○ 8 番（芹川 正美君）

皆さん、こんにちは。

8 番議員の芹川 正美です。

通告に従いまして、一問一答でお願いをいたします。1 問 3 点をお伺いをしたいと思います。

今回、質問の内容は農業関係について、お伺いをさせていただきます。

昨年10月5日、TPP交渉に参加。12カ国から大筋合意が得られました。国は11月25日、総合的なTPP関連政策大綱を作成をいたしました。県も直ちに熊本県対策本部を設置。国に直ちに万全の対策をとっていただくよう求められております。ことしの2月29日、県議会はTPP関連として、決議の遵守を求める意見書を採択されました。TPP協定交渉は、各分野に非常に不安が強く、生産者にも十分な情報提供が流れず、交渉にも強い不安が残ったまま、現在に至っているのが現状だと思います。基幹産業である本市農業にとって極めて厳しい内容が含まれており、生産者にとっても将来に大きな危機感を抱いているところです。TPP政府大綱の概要は、どのようなことが農林関係になっているか。農林関係についてお伺いをしたいと思います。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。栃原経済部長。

[ 経済部長 栃原 栄一君 登壇 ]

○経済部長（栃原 栄一君）

芹川議員の一般質問、TPP政策大綱の概要についてお答えいたします。

国は環太平洋パートナーシップ協定、TPPに関し、平成25年3月に参加を表明し、アメリカやオーストラリアなど11カ国との交渉を踏まえ、昨年大筋合意を見たところであります。

世界のGDP、国内総生産の約4割という、かつてない規模の経済圏をカバーした経済連携で、人口8億人という巨大市場が創出され、アベノミクスの成長戦略の切り札となるものであります。

国は、TPPの大筋合意を受け、農林水産物と食品の輸出額を1兆円にする目標達成を目指すことや、農家の保護策などを盛り込んだ政策大綱を決定しました。

政策大綱は、TPPの効果を国の経済再生、地方創生に直結させるために必要な

政策及びＴＰＰの影響に関する国民の不安を払拭する政策の目標を明らかにするもので、政策大綱のうち農林水産業への対策は、攻めの農林水産業への転換のための体質強化策として、次世代の担い手の育成に向けて農業機械や施設の設備投資への支援強化や畜産・酪農の収益力強化など、生産者の競争力強化と米や麦、牛肉など重要５項目の経営安定化が柱となっております。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

芹川君。

[ 8 番 芹川 正美君 登壇 ]

○ 8 番（芹川 正美君）

ご答弁ありがとうございました。

関税削減等の影響で価格の低下がどこまでなるか、不透明な部分がある中に、畜産・米・麦・果樹・施設園芸等の農家所得の確保ができなければなりません。減反政策の廃止、米余りの現象、農業従事者の減少・高齢化、米価の低迷など、環境は非常に厳しい状況にあります。日本型直接支払い等、国の支援制度等を有効活用し進めていかなくってはならないと思いますが、本市の農林業に対する影響等をどう思われているか、お伺いをいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。栃原経済部長。

[ 経済部長 栃原 栄一君 登壇 ]

○経済部長（栃原 栄一君）

本市農林業に対する影響についてお答えいたします。

国の試算によりますと、関税削減等の影響で価格低下による生産額の減少が生じるものの、体質強化対策による生産コストの低減・品質向上や経営安定対策などの国内対策により、引き続き生産や農家所得が確保され、国内生産が維持されるものとして、国内の農林水産業の生産額は最大で2100億円減少すると公表しました。

熊本県の試算では、国が示した価格低下率と同率で生産量が落ちると仮定し、最大で132億円減少するとした試算結果を公表しました。

この試算では、米への影響や価格低下に伴う生産者の意欲や生産量への影響などを仮定した独自試算で、国が示していた算出法のみを用いる場合より２倍以上減少すると見込まれています。

本市の農業にとりましても、牛肉・豚肉・牛乳などの畜産物や水稻・麦・施設園芸などに大きな影響が出てくるものと思われます。熊本県の試算方法をもとに山鹿市の農産物への影響額を試算してみますと、最大で約４億円の減少が見込まれると



思われます。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

芹川君。

[ 8 番 芹川 正美君 登壇 ]

○ 8 番（芹川 正美君）

ありがとうございました。

新聞紙面によりますと、農水省はＴＰＰ対策費として、補正予算3122億円を計上。大きな項目といたしまして、畜産のクラスター７事業、米・肉・果樹等の輸出に對しましての事業、それから、担い手確保のため経営強化事業等の支援事業策を打ち出されました。農業の活性化、地域経済を守るには、どうしても支援策が必要となります。今後、国県市の支援策についてどう考えておられるか、お伺いをいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。栃原経済部長。

[経済部長 栃原 栄一君 登壇]

○経済部長（栃原 栄一君）

ＴＰＰ対策に伴う今後の国県市の支援策についてお答えいたします。

国におきましては、農林水産業の成長産業化を一層進めるために必要な戦略、さらに、国内産業の海外展開・事業拡大や生産性向上を一層進めるために必要となる政策については、平成28年秋をめどに政策の具体的内容を詰めるとされております。

国内農林水産業の体質強化策としましては、平成27年度補正予算に、総額3122億円が計上されております。主な内容は、次世代を担う経営感覚にすぐれた担い手の育成、産地・担い手が創意工夫を生かした農業の国際競争力強化の推進、収益力・生産基盤強化による畜産・酪農の国際競争力強化の推進など、攻めの農林水産業への転換のための体質強化策が盛り込まれております。

熊本県のＴＰＰ対策に伴う平成27年度補正予算につきましては、低コスト化などによる収益力向上対策として28億9500万円が計上されております。

本市におきましては、国のＴＰＰ対策事業を活用しまして、意欲ある農業者の経営発展を促進する農業用機械・施設等の導入を支援する農業担い手支援総合対策事業8038万2000円を、本議会平成27年度補正予算としてお願いをしているところであります。

今後も国県の動向を注視し、生産者や関係機関と連携を図りながら、国のＴＰＰ対策事業を有効に活用してまいりたいと考えております。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

芹川君。

[ 8 番 芹川 正美君 登壇 ]

○ 8 番（芹川 正美君）

大変ありがとうございました。

土地利用型を含めた平たん地、多面的機能を有する中山間地域の不利条件をできるだけ取り除くことが必要と思われます。T P Pを理解するためにも、国内対策や各事業の考え方など詳しく説明し、農業者の目線に立って応えていただき、不安の払拭につなげていただきたいと思います。

以上、要望を申し上げまして、私の質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（藤原 弘君）

以上で、芹川君の一般質問は終了いたしました。

次の通告順により、富丸 洋一郎君の発言を許します。富丸君。

[ 5 番 富丸 洋一郎君 登壇 ]

○ 5 番（富丸 洋一郎君）

皆さん、こんにちは。

議席番号 5 番、富丸 洋一郎でございます。

今回は一般質問を 1 点通告いたしておりますので、ただいまよりさせていただきますと思います。

今回、私が山鹿観光振興策の中で、山鹿灯籠ジャパンプランド構想について 4 点ほどお尋ねをいたします。

その 1 点目には、有名デザイナーにアドバイザー就任依頼までの経緯。

2 点目に、現在の灯籠ポスター制作者に理解は得られるのか。

3 点目に、山鹿灯籠のオンリーワンプランドを目指す理由。

そして 4 点目に、契約後の灯籠祭りにどのような変革を期待するのか。

この 3 番、4 番につきましては、市長のほうに答弁をお願いをしたいと思います。

私は、2 月 14 日に熊日新聞に大きく掲載をされました山本 寛斎氏アドバイザーにという、この文字を見ましたときに、世界にも有名な一流ファッションデザイナーの山本 寛斎氏が山鹿灯籠についてのアドバイザーに就任を依頼されたというふうな記事であります。本人も内諾をしたと。昨年の夏の灯籠踊りを視察した際に、中嶋市長に踊り手の達成感が薄い気がする。化粧や髪型、衣装を含めて改善の余地があるのではないかと市長に伝えた。市は市民の祭りのよさや参加する意義を伝え

る役割を期待して、アドバイザー就任を依頼。デザイナーも内諾したと。3月議会で関連予算が認められれば正式に契約を結ぶとの記事を見ましたときに、正直、私は驚きました。なぜかといいますと、一つはこれだけの世界的にも有名な山本 寛齋氏が山鹿灯籠、山鹿地域の祭りに何をもってアドバイザーとして就任しようとするのかということでありまして、また、私たちは議会の中でも、あるいは議員間の中でも、こういった話題は全く挙がらず、所管の委員会にも知らせてないというような状況ではなかったのかなというふうなことを思いますときに、やはり、ある程度一定の契約につながるまでは、水面下で話が進められていたような感は否めないわけでございます。

それに、私は山本 寛齋氏が、幾ら超有名なデザイナーであっても、私はデザインされた色合いは本当に山鹿灯籠にふさわしいのかどうか、私もファッションセンスはございませんし、美的感覚も持っておりませんが、やはり、今まで湯のまち山鹿を代表するようなこの山鹿灯籠、そして、踊りについて、これは今まで何十年もかかって完成されてきたではなかろうかなというふうに思ってる。そんな思いがします。

1点目、そこでお尋ねいたします。山本 寛齋氏へアドバイザー就任依頼をするに至った経緯について、お聞かせいただきたいと思います。

2点目に、現在まで山鹿灯籠ポスターを制作していただいております、鶴田 一郎氏に衣装等を含めたデザインが、もし変わったとするならば、ご理解いただけるかということを危惧するものでございます。

現在まで、長きにわたって制作されてきた作品は、優雅さ、そしてまた、質素で和の世界を表現するにすばらしいポスターであったと。それが山鹿市、灯籠祭り全体を含めて表現された色合いではなかったかなというふうに思いますし、特に、顔の表情、美人画で有名なあの顔が薄いピンク色の衣装をまとったこのポスターこそが、今まで市外以上に、県内外にも広く、この山鹿灯籠の印象を植えつけてきたというふうに思います。私は、これ以上、和の世界の中に色合いを濃ゆくするような特性を持っておられる寛齋氏が、どんな形でこの山鹿灯籠をもう一度作り直そうかというふうに行っていることに、なかなか理解ができませんけれども、とにかく、私はやっぱり、今の山鹿灯籠のポスターに非常に山鹿を代表する祭りであるということを常に思っておりますし、そしてまた、この今までなれ親しんだこの鶴田 一郎氏のデザインの山鹿灯籠のポスター、これはやはり、私たちは大事にしていかなきゃなんというような思いもいたしております。ですから、この2点目も鶴田 一郎氏のポスターと今後の寛齋氏が手がける衣装含めた髪型、化粧まで、えらい突っこんだところまで書いてありましたんで、どこまでされていくかということであり

ます。ですから、本来のポスター制作者の鶴田氏のご意向に沿えるかどうかということも、やっぱ非常に危惧しております。

それから３点目、４点目は、先ほど申しましたように、市長にお尋ねをしたいと思います。

山鹿灯籠のオンリーワンブランド目指す理由は何であるのか。

そして４点目は、アドバイザー就任契約後の灯籠祭りにどのような変革を期待されているのか。

この２点についてお尋ねをしたいと思います。

新聞記事の中に、山本氏が伝統と新しい時代の流れとのバランスも大事だし、全員がハッピーになるチャレンジにしたいと話されたと、そう書いてありました。先ほど申しましたように、私は美的感覚はなかなか持ち合わせておりませんけれども、しかしながら、どうしても山本氏がデザインをしたという衣装を着せてそれを踊りに表現するとすれば、千人灯籠踊りに、それをそろえるには数百万円の衣装代もかかると思いますし、それはまず、保存会のほうにそういったことを着せて市街で踊らせる。そういったことを考えてあるかどうかということも、ぜひ、市長の思いを聞かせていただきたいと思います。

私は、やはり灯籠祭りっていうのは、山鹿市を代表する祭りであるということで、常日ごろ言われておりますし、この今まで長きにわたって今の形をつくってこられた先人たちの思いもありますし、そしてまた、何よりも山鹿市民の方々、旧町、旧山鹿市、そういった隔てなく全員が山鹿市の自慢とするところの祭りであるということをしつかり県外に発信できるような、そういった今祭りになっているんではなかろうかなと思いますときに、非常に新たな寛斎氏がこの中でアドバイザーとして就任した以後、どんななるのかなというような思いであります。この形を全面的に変えるっていうことはないかもしれませんが、しかしながら、超有名なデザイナーであるがゆえに、どんなでき上がりになるかわかりません。しかし、今の湯のまち山鹿にふさわしい灯籠踊りの衣装になるっていうことは、私には到底想像ができないわけではありますが、そういったところも含めて、契約後の灯籠祭りに市長がどのような変革を求めておられるのかっていうことを、まず、お尋ねをしたいと思います。

○議長（藤原 弘君）

執行部の答弁を求めます。栃原経済部長。

〔経済部長 栃原 栄一君 登壇〕

○経済部長（栃原 栄一君）

富丸議員の一般質問、山鹿灯籠ジャパンブランド構想についての１点目、アドバ

イザー就任依頼までの経緯についてお答えいたします。

昨年10月に策定しました、まち・ひと・しごと山鹿市総合戦略の中で、山鹿の戦略的産業の推進と魅力ある雇用の創出を目指して、3つの戦略創造プロジェクトを掲げております。

その1つであります山鹿灯籠ジャパンプランド構想の推進につきましては、国の示す地方創生の基本方針であります稼ぐ力を引き出す、地域の観光業の成長産業化に向けての取り組みを基本とするものであり、地域に根づく文化・伝統技術を生かした地域資源のブランド化による戦略的観光の推進を図るものであります。

それは、本市の場合、日本、世界に唯一、山鹿灯籠であります。山鹿灯籠をオンリーワンブランドとして、その魅力を国内外へ発信していくことで観光地・山鹿の知名度を飛躍的に向上させ、多くの人をこの地へと呼び込み地域の活性化を図ることとします。とりわけ観光資源の磨き上げと、それをいかに発信するか、観光情報のレベルアップが求められております。

その戦略手段としましては、大手企業のノウハウやプロフェッショナル人材の活用など、国の地方創生の深化に向けての支援制度も積極的に活用してまいります。

これらのことから、山鹿灯籠の磨き上げにつきましては、プロフェッショナル人材をもってブランド強化を図ることとしました。大手の広告代理店、大学関係者、コンサルタント事務所、放送作家などさまざまな業種・業界を相手先として検討してまいりました。その過程におきまして、やはり山鹿灯籠祭りにあつては、女性の優雅さを基本とする考えに基づき、踊りや衣装、演出・照明等にあつて広くたけた業種としてファッションデザイナーが最も適していると考えた次第であります。

山本寛斎事務所につきましては、早くから山鹿灯籠の魅力を見出され、また山鹿のファンとして、平成26年にはトルコのイスタンブールで、また去年は東京で開かれた日本元気プロジェクトスーパーショーの演出に金灯籠を採用するなど、デザイナー事務所みずから山鹿灯籠をこれまでもファッションショーなどに取り入れられてきた経緯があります。このことは、山鹿灯籠の価値を高く見出し、山鹿に対する熱い思いのあらわれであります。

つきましては、このたびの山鹿市が目指す当戦略の方向性と合致したことから、その相手先としたところであります。

続きまして、ご質問の2点目についてお答えいたします。

本市の観光資源のブランド化、知名度向上に向けて観光情報をいかに発信していくのか大変重要な課題であります。従来型のテレビや新聞・雑誌などの情報発信手段、そして昨今広く利用されておりますSNSや動画配信に代表されるスマートフォンなどインターネットを活用する手法など多岐にわたっております。

大切なのは、どの手法であれ利用者のニーズにいかに応えるか、その時々で適宜有効な手段を用いるべきと考えております。ポスターについては情報発信手段のみならず、知名度アップに資する有効な手法であります。従来からの歴史あるものにつきましては、その役割を堅持し、一方では時代背景に沿った動画・実写版などを題材にした新たな情報発信手段を取り入れ、海外を含めた観光客の底辺拡大に努めてまいります。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

中嶋市長。

[市長 中嶋 憲正君 登壇]

○市長（中嶋 憲正君）

富丸議員の一般質問、山鹿灯籠ジャパンプランド構想についての3点目、4点目について、お答えいたします。

このたびの山鹿市地方創生の深化・実現に向けての基本とするところは、まず、山鹿の稼ぐ力を引き出すこと。山鹿の総合力を引き出すこと。民の知見を引き出すこと。中でも稼ぐ力の向上に取り組みます。

とりわけ、本市の基幹産業であります観光業については、宿泊者の低迷や観光消費額の伸び悩みが続いております。

また、踊り手の確保の問題や千人灯籠踊りの見せ方の転換期を迎えるなど、祭りの運営に至っても幾つかの課題を抱えております。

つきましては、本市の基幹産業の隘路を開く上で、観光資源の最たるもの山鹿灯籠をオンリーワンのブランドとして、観光業の成長産業化に向けての取り組みを強化するものであります。

これらのことから、世界に唯一の日本が誇る、まさに、オンリーワンブランドの山鹿灯籠を山本 寛斎氏の起用により一流なものから超一流なものへと磨き上げ、まずは、観光地としての山鹿の知名度を高めることで、域外から人・物・金・情報を山鹿に呼び込み、さらにそれらに対流させることで地域の活性化につなげてまいります。

この構想を進める上で、これまで長きにわたり、祭りを支え継承されてきた奉納灯籠や踊りというものは、先人から脈々と受け継がれてきた守るべき伝統であり、今を生きる我々が責任を持って、将来世代へ引き継いでいくべきものであります。守るべき伝統はこれまで以上にしっかりと守っていかなければなりません。

一方で、時代背景の中で新たに取り入れるべきものについては、灯籠師や灯籠踊り保存会、灯籠祭り実行委員会など関係団体の方々の意見を広く聞き、市民の皆様

との合意形成を図りながら丁寧に進めていきたいと考えております。

また、山本氏の起用につきましては、あくまでもデザイナーとしての専門的見地から、意見・アドバイスを求めるものでありまして、取り入れるべき新たな演出などについては、実行委員会を初め関係者の中で決定するものであります。重ねて申し上げますが、山本氏に期待するものは、あの元気あふれるエネルギーを持って、そのぬきんでた発信力をフルに生かし、魅力ある山鹿灯籠と、このすばらしい山鹿市を全国、世界に向けて発信していただくことで、1人でも多くの人を呼び込み、地元経済の活性化につなげていきたいと考えております。

また、祭りの行事に関しましては、これまでの伝統を大切に守り、また、中心的に支えてこられた多くの市民の皆様との話し合いを大切にし、進めてまいります。

そして、最後に、この構想を進めることで、山鹿灯籠、山鹿灯籠踊り、そして山鹿灯籠祭りに対する山鹿市民の皆様の誇りや喜びを倍増させ、ひいては、ふるさとを愛する気持ちが膨らむことが究極の目標だと申し上げまして、私の答弁といたします。

○議長（藤原 弘君）

富丸君。

[ 5 番 富丸 洋一郎君 登壇 ]

○5番（富丸 洋一郎君）

ご答弁ありがとうございました。

経緯につきましても、それから、この4点につきまして、いろいろお尋ねをしたわけでございますけれども、最後に市長のほうから自分の思いを語っていただきました。まさに今から、寛斎氏のアドバイザーによって、新たな山鹿灯籠ができるものというふうに期待をしたいと思えます。

しかし、一言だけつけ加えさせていただきますなら、有名デザイナーであるがゆえに、向こうから提示されたデザイン等について、どんなにアドバイザーと言っても、なかなかお断りしづらいんじゃないかなと。そうすると、ある部分では押しつけみたいな形になりやせんかなというのを危惧しております。

これ余談になりますけれども、私は昨年の3月に富山県のほうに行ってまいりました、有志6名で。そのとき、八尾町に行きまして、越中おわら会館の方に出向いたところ、そこは風の盆で有名なおわら節、おわらの踊り、それから、その会館の奥には、その地域で、やはり今山鹿が進めようとしておりますシルク産業、蚕の養蚕が非常に盛んだったということ。あわせて、おわらの風の盆とそれからシルクを一体化させた会館がありまして、その建物の中には、ミニシアターといいますか、定員が約50名弱の客席があり、そこで実演を見たわけでございます。その踊り手の方々

は、全て地元の方であって8月の下旬に3日間、そして9月に10日間ぐらいの本番があるわけでございますけれども、各町内で割り振って、観光客の方々に踊りを披露しているというようなお話を聞きました。もちろん、有償であります。私たちも、お金を払って見たわけでございますけれども、大体40人ぐらいの、バス1台分ぐらいの客席しかありませんけれども。そんな中で、あの独特の雰囲気の中の音色、それから優雅な踊り、これはやはり鮮やかな山鹿灯籠踊りとは、一長一短に比較はできないかも知れません。そこで私たちが、やっぱり今考えていけないかん。山鹿灯籠を、これだけ超有名なデザイナーで、超一流の山鹿灯籠に仕上げていくんだという市長の強い思いと相まって、やはり今、灯籠踊りを山鹿に来て見るというのは、八千代座でご披露いただくか、あるいは個人的に、あるいは各団体で、そういった披露する場所がなかなかないのではなかろうかなというときに、私はやはり、集客も大事でありますけれども、まずはおいでになった方々をもてなすところの場所、こういったところも整備していく必要があるんじゃないかなというふうに思います。昨今、山鹿には大きなホテルも営業をやめましたし、旅館もやめております。非常に観光地山鹿の実態といいますのは、それだけ人が来ても駐車場はない、泊まる場所もない。そして、ましてや山鹿灯籠は2日間の限定でありますと、人が押し寄せたときに、そういった人をどういうふうにもてなしていくのかと。これは、やはり大事なことであろうと思います。

先ほど、私のテーマとはちょっとかけ離れますけれども、定住促進の中で、いろんな工場誘致とか、そういったものもお話がありましたが、私はむしろ、今は厳しい産業の中では、むしろビジネス型のホテルの誘致とか、そういったものをやはり先に進めて、そして受け入れる態勢を万全にして、そして、いつでも披露できるような、そのスペースだったら八千代座の第二交流会館があります。そこには、スタンドもありますから。そういったものをフルに活用しですね、来た方々に、これだけ今、山鹿も補正予算で2300万円が組まれて、これは国の10分の10ですから。山鹿市の持ち出しがないと思いますけれども、山本寛斎事務所のほうに、これは今後、アドバイザー契約として入っていくものであろうというふうに想定しますし、また、平成28年度には914万円の当初予算が組まれております。単年度の契約でありますけれども、何年続いていくのか。何年後には完成したのが我々が、市民が納得できるような、そういった一つの寛斎流の衣装、あるいは演出ができるのか。非常にまだ不安でありますけれども、やはり言うべきところは言う。断るときははっきり断るといったことを姿勢を鮮明にして、なかなかそういった悪い方向性でなくて、いい方向性に進むように。そしてなおかつ、山鹿の持つ和の伝統を最大限に重視していただいて、このアドバイザー契約が実のあるものになるように期待をしまして、私の



一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（藤原 弘君）

以上で、富丸君の一般質問は終了いたしました。

————— ○ —————

散会

○議長（藤原 弘君）

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

午前11時45分 散会

~~~~~

3 月 3 日 (木曜日)

平成28年（第1回）山鹿市議会3月定例会会議録

議 事 日 程（第3号）

平成28年3月3日（木曜日）午前10時開議

第1 質疑・一般質問

第2 委員会付託



発言通告

1. 服部 香代

質 疑

（1）議案第30号 平成28年度山鹿市一般会計予算

① P 93（目）ごみ処理費 ごみ焼却施設に係る建設費について

② P 124（目）体育施設費 サイクリングターミナルの今後の方向性について

③ P 117（目）学校建設費 学校規模適正化事業（鹿本地区統合小学校）について

一般質問

（1）学校教育推進事業及び子供輝きプランについて

（2）まち・ひと・しごと創生 山鹿市総合戦略について

①菊鹿ワイナリー構想

②新養蚕産業構想

③山鹿版DMO及び山鹿灯籠ジャパンプランド構想

2. 北原 昭三

一般質問

（1）雑誌スポンサー制度の導入と図書館のサービス向上について

①スポンサー制度の導入について

②連休中の図書館の開館について

（2）観光振興について

①駐車場について

②ビジネスホテルの誘致について

③W i - F i（ワイファイ）の設置状況について

（3）あいのりタクシー（山鹿チョマツ号）について

①利用者の意向の把握について

3. 永田 紘二

一般質問

(1) 鶴城中学校の現状と方向性について

(2) 山鹿市の歴史文化遺産の保護と活用について

①文化遺産の保護と活用の現状について

②文化遺産を活用した観光のあり方について

③地元資源を観光に活用するための組織体系の見直しについて

○

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

○

出席議員（20名）

1 番	服	部	香	代	君
2 番	富	田	弘	海	君
3 番	永	田		健	君
4 番	稻	葉		昇	君
5 番	富	丸	洋	一	郎
6 番	藤	本	峰	秀	君
7 番	北	原	昭	三	君
8 番	芹	川	正	美	君
9 番	藤	原		豊	君
10 番	平	井	邦	廣	君
11 番	吉	本	政	幸	君
12 番	池	田	誠	一	君
13 番	堀		茂	幸	君
14 番	永	田	紘	二	君
15 番	横	手	啓	介	君
16 番	藤	原		弘	君
17 番	太	田	黒	鐵	郎
18 番	丸	山	寛	治	君
19 番	寺	崎	勇	児	君
20 番	丸	山	康	昭	君

○

説明のため出席した者

市	長	中	嶋	憲	正	君
副	市	長	池	田	永	実
						君

教 育 長	堀 田 浩一郎 君
総 務 部 長	幸 村 英 星 君
消防本部消防長	内 野 輝 雄 君
市 民 部 長	阿蘇品 貴 司 君
福 祉 部 長	戸 次 由 夫 君
経 済 部 長	栃 原 栄 一 君
建 設 部 長	原 弘 文 君
教 育 部 長	木 村 厚 男 君
総務部次長兼政策審議員	木 下 実 君
福 祉 部 次 長	川 崎 美 明 君
経 済 部 次 長	早 田 順 二 君
建 設 部 次 長	中 原 忍 君
水 道 局 長	阿蘇品 元 晴 君
教育部首席教育審議員	熊 野 浩 君
総 務 課 長	大 林 秀 樹 君
地域生活課長	宮 崎 錦 也 君
環境課長兼廃棄物処理施設 建設推進室長	古 江 光 弘 君
国保年金課長	佐 藤 ア ャ 君
商工観光課長	渡 邊 義 明 君
社会教育課長	瀬 口 慎 哉 君

○

事務局職員出席者

議 会 事 務 局 長	野 田 修 誠 君
局長補佐兼議会総務係長	森 田 英 美 君
議 事 係 長	小 山 天 君
書 記	高 木 善 彦 君

○

午前10時00分 開議

○議長（藤原 弘君）

これより本日の会議を開きます。

日程第1 質疑・一般質問

○議長（藤原 弘君）

日程第1、質疑・一般質問を行います。

発言の通告がっておりますので、順次発言を許します。服部 香代君。

[1番 服部 香代君 登壇]

○1番（服部 香代君）

おはようございます。

議席番号1番、服部 香代です。

発言通告により、一問一答にて、質疑3件、その後一般質問を2件させていただきます。

では、質疑の1件目です。

議案第30号 平成28年度山鹿市一般会計予算のごみ処理費の中の一般廃棄物処理施設整備事業についてお尋ねします。

この事業の予算は、平成28年度は2億1943万9000円となっております。これは、現在、山鹿市民スポーツセンターグラウンド跡に新設中のごみ焼却施設の建設に係る費用ですが、この施設の完成及び稼働開始は、平成31年の予定となっております。平成26年度は、地質調査費用や基本計画策定費用などで3513万2000円が支出されており、平成27年度も4700万円の予算が計上されております。

ごみ焼却施設の建設、稼働までのスケジュールはたびたびご説明いただいているところですが、では、一体、この施設の建設費は幾らかかるのか。その全体がわかりません。施設建設費の額をお尋ねいたします。

また、こういった施設建設には、巨額の費用を投じなければならないものですが、その工事などに係る契約はどのように行われるのでしょうか。

以上、2点についてお尋ねいたします。

○議長（藤原 弘君）

執行部の答弁を求めます。阿蘇品市民部長。

[市民部長 阿蘇品 貴司君 登壇]

○市民部長（阿蘇品 貴司君）

服部議員の質疑について、お答えいたします。

まず、施設の予算総額につきましては、建設費が49億8000万円、同工事に係る設計施工監理業務委託費が7477万円となっており、平成28年度及び平成29年度から平成30年度にかけての債務負担行為を予算計上しております。

額の算定につきましては、平成26年12月に改定した山鹿市循環型社会形成推進地域計画に定めた事業費に、東日本大震災の復旧・復興に伴う労働需要の増加や、2020年の東京オリンピックへの期待感などから、資材価格や建設費が高騰していることを考慮し、これらを反映させたものとなっております。

なお、先ほど申しました建設費につきましては、予算の上限額でございまして、今後、予定価格を設定し、その範囲内で契約を行うこととなります。

次に、契約方法及び施設稼働までのスケジュールをご説明いたします。

まず、平成28年度は、施設本体の建設工事を発注しますが、この契約方法につきましては、特許権などを有する特殊な施設であることを考慮し、実施設計と施工を一括で一つの業者が受注する「設計つき施工契約」とし、契約の期間を平成28年度から平成30年度までの3カ年とします。また、発注方法につきましては、広く参入を募る一般競争入札を基本としつつ、施設の安定性や安全性並びに継続性を一定程度以上確保するという観点から、価格面と非価格面であります技術や性能・経営等の総合的な評価点を合計し、より得点の高い業者を選定する「総合評価方式」により行います。

工事の発注公告は5月ごろを予定しておりますが、その後、業者の参加意思の確認や技術提案書の審査などを行い、11月ごろに業者を選定し、仮契約を行った後、12月定例議会において本契約のご審議を予定しております。

契約後の工事につきましては、平成29年度初旬までを実施設計期間とし、その後、現地での建設工事を始めます。完了時期は平成30年12月ごろとし、試験運転などによる調整を行いまして平成31年4月1日からの本格稼働を目指してまいります。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

服部君。

[1番 服部 香代君 登壇]

○1番（服部 香代君）

ありがとうございました。

では、2件目の質問です。

体育施設費のサイクリングターミナル管理費について質問いたします。

鍋田にありますサイクリングターミナルの公園は、小さな子供さんのいるご家庭にとっては、安全でお金もかけずに遊ばせられる憩いの場となっております。そのの

核になっているサイクリングターミナルは、毎年1200万円程度の予算で、指定管理により運営されております。平成28年度も同様に予算がつけられておりますが、説明によりますと、宿泊業務等については廃止する方向だということをお聞きしましたが、これはどういった理由からでしょうか。

現在は、中学生そして高校生などのスポーツや吹奏楽の合宿などには利用しやすい安い価格で利用しているという声も聞いておりますので、今後、どういう方向性で運営されていくのか、このことについて現状も踏まえた上で、今後の管理についてもお尋ねいたしたいと思います。

よろしくお願いします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。木村教育部長。

〔教育部長 木村 厚男君 登壇〕

○教育部長（木村 厚男君）

服部議員の質疑、サイクリングターミナルの現状と今後の方向性についてお答えをいたします。

サイクリングターミナルは、財団法人自転車道路協会が安全で快適、しかも経済的に自転車旅行を楽しめるよう昭和47年度から全国に建設を開始した施設で、山鹿市サイクリングターミナルは昭和52年度事業として、全国で13番目に建設され、平成13年度の同協会解散に伴い、山鹿市に無償譲渡され現在に至っております。

施設の管理については、公募により一般財団法人山鹿市地域振興公社が指定管理者として、平成27年度から平成29年度まで管理運営を行っているところでございます。

サイクリングターミナルの利用者数は、年間8000人前後で推移をいたしており、そのうち宿泊者については、平成26年度で約1200人の宿泊がございました。

ただ、温泉地でもある山鹿において、サイクリングターミナルは温泉を保有しておらず、宿泊施設としてサービス面で甚だ不利な点は否めず、あわせて建築後37年を経過して施設・設備の老朽化が顕著なため、宿泊者は年々減少傾向にあります。

利用者の多くは、スポーツ大会や合宿で利用する学生であり、カルチャースポーツセンターを主体とした「スポーツコンベンション」における安価な宿泊施設として、サイクリングターミナルは一定の役割を果たしているところでございます。しかしながら、近い将来に機械設備や建物の大規模な改修が必要である一方、スポーツ大会等の宿泊については、市内の旅館、ホテル等においても安価に宿泊が可能な状況にあります。さらに、施設の利用者のほとんどが自動車による利用であることから、サイクリングターミナルの本来の設置目的から外れてきております。

こうした状況を踏まえ、今後の利用見込み、施設改修の費用対効果、指定管理料を含む年間の維持経費などを総合的に勘案し、ほかの用途での活用や譲渡、廃止を含めたサイクリングターミナルの今後の方向性について、指定管理契約期間中に計画を策定してまいります。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

服部君。

[1 番 服部 香代君 登壇]

○1 番（服部 香代君）

ありがとうございました。

では、続きまして、3 件目の質疑です。

学校建設費、学校規模適正化事業のうち、鹿本地区統合小学校についてお尋ねいたします。

来民小学校、稲田小学校、中富小学校の3校を現在の来民小学校に統合する計画はご承知のとおりであります。ただ、現在の来民小学校の校舎及び体育館をそのまま使用したり、リニューアルして使用したとしても、築年数から考えましても老朽化が懸念されるという市民の声もありました。

教育委員会としては、使えるものは最大限に利用していくが、耐力度調査等に基づいて、建てかえかリニューアルかなどは見きわめて進めていくとの方針でした。

平成28年度の予算で3720万2000円の校舎等の基本実施設計費が立てられています。建てかえかリニューアルか、また一部建てかえなのか、その方針が定まったことによる設計費だと思いますので、その概要をお尋ねいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。木村教育部長。

[教育部長 木村 厚男君 登壇]

○教育部長（木村 厚男君）

服部議員の質疑の3 点目、学校規模適正化事業、鹿本地区統合小学校についてお答えをいたします。

鹿本地区の統合小学校として予定しております来民小学校の施設につきましては、昨年9 月議会におきまして、施設整備の方向性を判断するため、耐力度調査の予算をご議決いただき調査を行いました。調査結果につきましては、現在、熊本県の確認検査を受けているところでございますが、施設整備の方針といたしましては、統合により教室が不足する部分は増築を予定いたします。また、既存校舎等につきましては、耐力度調査の結果、管理特別教室棟及び体育館、さらに教室棟のうち、昭

和41年建築の教室棟につきましては、基準点以下のため建てかえを予定し、昭和53年建築の教室棟につきましては、基準点を超えていることから、改修をすることとして、基本設計及び実施設計を進めてまいりたいと考えております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

服部君。

〔1番 服部 香代君 登壇〕

○1番（服部 香代君）

ありがとうございました。

それでは、一般質問に移らせていただきます。

まず、一般質問の1件目、学校教育推進事業及び子供輝きプランについてお尋ねいたします。

平成27年度までは、学校教育指導事業として取り組んでこられたわけですが、決算額でいいますと、平成24年度は970万8000円、平成25年度740万4000円、平成26年度は556万2000円と年々減額されており、平成28年度の予算は前年度予算のおよそ半額となる272万4000円となっています。

この事業は、第2次教育基本計画の基本方針の一つである学校教育の充実の中で示されており、まず学力向上、そして、教職員の研修体制の充実となっています。

計画の中では、教職員に求められる資質や能力は、高度化・多様化、そしてまた専門化しているとも明記してありますが、そういった背景がある中で、指導力の向上を図るために学校教育指導員を校内研修などに派遣したり、指導助言を行うといった事業内容だと理解しております。

また、昨年12月には、教育委員会の事務に関する点検評価報告書が出されておりますが、この事業への評価は、5段階中最高の5がつけられています。効果がこのようにあらわれているこの事業の予算を半減にする理由はなぜでしょうか。

また、平成28年度の学校教育推進事業では、何が行われるのでしょうか。このことについての質問がまず一点です。

次に、子供輝きプランでは、全体の予算額は平成27年度の5152万6000円より、それから420万2000円の増額ということで、5572万8000円となっております。これは、どんなところに重きを置いた予算ということにつけられているのでしょうか。

以上、2点についてお尋ねいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。熊野首席教育審議員。

〔教育部首席教育審議員 熊野 浩君 登壇〕

○教育部首席教育審議員（熊野 浩君）

服部議員のご質問、学校教育推進事業と子供輝きプランについてお答えいたします。

学校教育指導事業が学校教育推進事業と名称を変え、予算も変わっていますのは、来年度から学校教育指導員2名を配置しないことによるものでございます。

学校教育指導員は、市町村合併に伴って、市教育委員会の管轄の範囲が広がったため、合併当初の混乱を避けるとともに、この合併をきっかけに教育指導の質を高めるといことで校長経験者2名が配置されました。合併から数年がたち、学校教育の指導も軌道に乗ってきて、指導員のあり方を検討しようとしたときに、鹿本教育事務所の廃止が決まりました。市の教育委員会が主体性を確立するまでは、やはり指導員も必要といことで現在まで至っていたところです。教育事務所の廃止から3年が経過し、議員ご指摘の点検評価報告にもありましたように、市の教育委員会の指導も充実してきたといことで、学校教育指導員の役割は終えることとなりました。今後は、これまで指導員が行ってきたことの一部を校長会にお願いしたり、学校教育指導室の指導主事が担ったりしてまいります。

学校教育推進事業としましては、教職員の研修及び児童生徒の作品展、音楽会等への支援を行ってまいります。

続きまして、2点目の子供輝きプランは、サポートティーチャーを各学校に配置して、特別な支援が必要な児童、不登校、不登校ぎみの生徒にかかわってまいります。その人数は本年度とほぼ同数ですが、学校統合により学校数が少なくなっていることを考えますと、来年度も支援の必要な子供たちに応じた配置となっております。さらに、来年度はリーダーサポートティーチャーを配置して、その質の向上を図ってまいります。

あわせてインクルーシブ教育に欠かせない合理的配慮協力員を市独自で配置したり、日本語指導が必要な子供への指導を委託したりする事業も展開していくことで、子供輝きプランは本年度よりも充実した内容となっております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

服部君。

[1番 服部 香代君 登壇]

○1番（服部 香代君）

学校教育指導員の配置をしないというのは、山鹿市の教育にとってマイナスにはしないかと、大変危惧するところです。鹿本教育事務所が廃止され、3年経過したから役割を終えるといことでしょうか。充実してきたからとのご答弁でした

が、教育事務所が廃止されているのだから、なおさら2名からさらに増員して指導に当たっていただくということがなぜなされないのかと思います。しかも、今の山鹿市の義務教育現場は、学校再編の真ただ中です。統合された学校経営についての指導助言も重要ではないのでしょうか。

また、統合された学校には児童生徒の暮らしがあります。単純に友達がふえてよかった、部活動ができてよかったというばかりではなくて、いじめの問題が起きはしないか、また、そういったいじめの問題などは常に敏感になっておかねばなりません。そういったことに対応するためにも、私は、学校教育指導員はぜひ必要だと思っています。ご答弁は要りませんが、指導員の配置については再度見直していただきたいと強く思います。

子供輝きプランに関しましては、これは主にサポートティーチャーを配置するというもので、昨年同様の人員の配置となっているというお答えでした。統合によって、学校数が減っても、支援を必要とする児童生徒の数は変わらないのですから、同人数の配置というのは当然と言えば当然でしょう。しかし、リーダーサポートティーチャーの配置というのは前進したものと思います。

また、インクルーシブ教育関連の合理的配慮協力員の配置、さらに、私は平成26年6月議会におきまして一般質問いたしました。ダブルリミテッドの子供たちへの日本語指導については、平成28年度から指導が開始されるということで、このことについては、大きく進んだと高く評価したいと思います。

教育はすぐに効果があらわれるものでもなく、数字や数値ではかれることも多くはありません。だからこそ、継続して事業を行うことも大事なのではないのでしょうか。

でも、私も何でもかんでも継続して、さらに拡大してくださいと言っているわけではありません。例えば、新入学児童支援事業などは見直す時期ではないかなとも思っています。これは一例ですが、そういうふうに何が子供たちの教育に必要で、かつ重要であるかをぜひ見きわめていってほしいと思っています。

では、2件目の質問をさせていただきます。

まち・ひと・しごと創生山鹿市総合戦略についてご質問させていただきます。

先日、2月27日の熊日新聞の1面に2015年国勢調査の県内市町村別人口が速報値として掲載されました。山鹿市は、5万2278人で、前回の調査から3113人、率にして5.62%が減少して、減少数で見ますと、天草市、八代市に次いで3番目、そしてまた減少率も4番目という、大変憂慮すべき状況にあることが浮き彫りにされました。

また、その同じ紙面には、九州最大の地方銀行グループである福岡フィナンシャ

ルグループと長崎県が地盤の十八銀行との経営統合の記事が掲載されておりました。統合後の連結総資産は18兆7000億円に上り、国内地銀グループの首位に躍り出るとのことです。この統合は、人口減少や高齢化による地域経済の縮小を見据えてのことだと読み取るべきでしょう。税収の先細りや働き手の不足など、今後急速に変化していくであろう社会構造に対して、民間企業はその対応や取り組みを加速させています。それほど人口減少が及ぼす影響に対して危機感を持っているということのあらわれでもあります。

私は、男女共同参画の取り組みを行っておりますが、平成11年に制定されました男女共同参画基本法の最大の目的は少子高齢化対策なんです。高齢化が進み働き手が不足することも、晩婚化に伴い合計特殊出生率が下がることも、これはもう早くから予測されていたんです。しかし、このころはまだ男は仕事、女は家事・育児といった性別による役割分担意識が強くて、女性の社会進出を妨げるものになっておりました。男性も女性もともに介護や育児を担うこと、そして、定年退職しても元気で意欲のある人や結婚などで一旦仕事をやめたけれども、また仕事をしたいと思っている女性には働き手として活躍していただくこと、そういった男女共同参画の取り組みが少子化対策や労働力不足を補うことになるんです。

女性が働くとかえって子供を産めないのではないかと思われるかもしれませんが、そうではありません。女性が多く働いている国ほど出生率が高くなるという傾向は、もうこれは顕著に出ているものです。子供を育てながら働き続けることができる会社や社会の仕組みづくり、そして、意識改革を果たすことができれば、女性が社会に進出しながら出生率を上げていくことはできるんです。要は大きな社会構造の変化に柔軟に対応できる考え方をしましょうというのが男女共同参画の取り組みなんです。

今回、同じ少子高齢化対策として人口減対策として、政府は平成26年11月にまち・ひと・しごと創生法を施行しました。それを受けて、全国の地方自治体がそれぞれに地方版総合戦略を策定してきました。あくまでも私個人の感想ではありますが、多くの自治体は、従来の事業をブラッシュアップしたようなものが多くて、中には本当に人口減少対策を目的としているのかなと思うものもあります。山鹿市においては、昨年10月に人口ビジョンと山鹿版総合戦略が策定されております。そして、この定例会において、具体的な施策の実施に向けての予算が提案されております。

そこで、市長にお尋ねいたします。人口減少対策としての地方創生にかける市長の基本となる考え方、思いはどういったものなのか。また、具体的には、どのように展開されていくのかについてお示しいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。中嶋市長。

〔市長 中嶋 憲正君 登壇〕

○市長（中嶋 憲正君）

皆さん、おはようございます。

服部議員の一般質問、地方創生にかける私の思い、基本的な考え方、そして具体的施策の展開につきましてお答えをいたします。

このたびの総務省の国勢調査の速報値を見ますと、約95万人の減少、調査開始以来初めての人口減となっておりますが、大阪という大都市で人口減少が始まったことに驚いております。生産や消費の担い手を膨らませた都市部が地方を補うという日本経済の構図に狂いが生じつつあることが見てとれます。

一方、人口は減少していない首都圏においても、「高齢化」と「単身世帯化」が同時に進むという複雑な事態が生じております。人口減という新たな局面への対応策は待ったなしの状況にあります。今般の地方創生の実現に向けては、私自身、非常に強い危機感を持って臨んでおります。山鹿市民が一つになって取り組まねばならない重要な政策課題であると考えております。

加えて、人口減少が及ぼす影響と地方創生に向けての取り組みに対しては、市民の皆様にあらゆる機会を通して説明を申し上げ、ご協力を求めてまいります。

次に、本市の総合戦略の策定に当たりましては、国の総合戦略を踏まえ、単年度限りの取り組みではなく、中長期的な人口見通しや経済社会分析に基づき、今後5カ年において取り組むべき政策を掲げております。

客観的な指標をもって各施策の効果を検証し、目標達成に向けて毎年見直しを行うPDCAサイクルを組み込んでいます。具体的な事業の推進とその検証を通して、各施策を真に効果の高いものとしていくことにより、将来にわたっての「人口減少問題の克服」と「成長力の確保」という長期的な目標を実現していくものであります。

続きまして、本市の総合戦略の基本とするところは、基幹産業である農林業と観光業を成長産業として位置づけ、高品質な農林産物のブランド力強化、豊富な観光資源の磨き上げなど強みを生かした「仕事づくり」に資する「経済政策」を車の前輪といたします。一方では、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえつつ、女性や高齢世代が活躍できる環境づくりを進める「人口政策」を後輪とすることで、「山鹿の戦略的産業の推進と魅力ある雇用の創出」、「山鹿の地で生み育て・暮らしやすい地域をつくる」の2つを基本目標として、具体的な施策を推進していきます。

特に、経済政策につきましては、本市の地域資源を積極的かつ戦略的に盛り込んだ3つの構想「新養蚕産業構想」、「菊鹿ワイナリー構想」、「山鹿灯籠ジャパンブランド構想」を戦略創造プロジェクトとして位置づけ、推し進めてまいります。

以上、答弁いたします。

○議長（藤原 弘君）

服部君。

[1番 服部 香代君 登壇]

○1番（服部 香代君）

ありがとうございました。

おのこの政策をPDCAサイクルを組み込んでやっていくというのは、もう当たり前のことですよね。ただいまのご答弁の中の経済政策である3つの戦略創造プロジェクト、新養蚕産業構想、そして、菊鹿ワイナリー構想、山鹿灯籠ジャパンブランド構想についてお尋ねいたします。

先ほどの質問で、ほかの自治体が策定された戦略について少し触れましたが、山鹿市での取り組みは、この一つ一つがよそでは見られないような、どれも壮大なもののような感じがします。人口減少対策であるとともに経済が活性化し、地域全体が活力を増すというサイクルを構築されようとしていることは何となくわかりますが、じゃあ、このプロジェクトのゴールというか、到達点が見えません。例えば、ワイナリー構想では、用地取得に係る予算がつけてあったり、新養蚕構想では桑園の整備であったりと、単年度ではその動きが見えますが、この事業は5年間という一定の期間があるわけですから、この5年後にはどんなものが描かれていて、そして、5年後のそのゴールに定めているものは何なのか。どういったものをつくろうとしているのか、また、その先どうやって継続をしていこうとされているのか、そういったものが何かわかりにくいと思ってるんですね。それで、またこの3つのプロジェクト、3つありましたけど、このプロジェクトはそれぞれがどのようにリンクしていくのか、恐らく単発で3つあるのではなくて、どこかにつながりがあっての構想だと思うんです。それで、この3つのプロジェクトがどのようにリンクしていくのか、そして、山鹿市には、一体このプロジェクトがどんな効果をもたらすのか、これを明確にお答えいただきたいと思います。これがまず1点です。

また、先般山鹿市の人口ビジョンが示された後に、市民の間でも何も手立てをしなければ2060年、つまり44年後には、人口は2万8000人になると推計されるということはある種の衝撃をもって話題になっているところです。

しかし、この3つの戦略プロジェクトも手立ての1つであると思いますが、こういった手立てをすることで、かなりの数の人口減少、例えば1万人であるとか、そ

ういった数の減少を食いとめることは可能だという試算が出ていることも事実です。しかし、どちらにしても、人口減少はもう避けられないもので、どう取り組んでも歯どめは厳しいと思います。だからこそ、人口減少のカーブが緩やかになるように、そして、減少しても対応していけるというそういうことのほうが大事なのではないかと思います。行政はとても危機感を持っておられますが、市民における危機感はまだまだもう一つ感じられないところではあります。また、今回の地方創生についても、市民の中に浸透しているとは到底言えない状況にあると感じています。人口減少に対する取り組みは行政や議会だけでは到底なし得ないものであります。これからこの重要なプロジェクトを進めていくに当たって、何が最も大事なのか、このことについてお尋ねしたいと思います。

以上、2点についてよろしくお願いします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。中嶋市長。

〔市長 中嶋 憲正君 登壇〕

○市長（中嶋 憲正君）

服部議員の一般質問の2回目、地方創生の実現に向けて、3つのプロジェクトの仕組み、その事業効果、プロジェクト推進において最も大切なことについてお答えをいたします。

まず、3つの戦略創造プロジェクトの概要、そしてその仕組みについて申し上げます。新養蚕産業構想につきましては、伝統産業でありました蚕糸業、今後世界規模での市場開拓が期待できる最高品質シルクの量産体制の構築、蚕糸業の復興に向けて、民間企業と一体となって取り組むものであります。

菊鹿ワイナリー構想につきましては、ワイン用ブドウの産地としてのブランド力を高め、ワイン生産の一大拠点、そして新たな観光地形成に向けて取り組むものであります。また、地元産のブランド力の高いお茶や栗などと組み合わせることで、豊富な農業資源としての価値を高めていきます。

次に、山鹿灯籠ジャパンブランド構想につきましては、世界に唯一の日本が誇るオンリーワンブランドの山鹿灯籠を超一流の観光資源として磨き上げ、山鹿の知名度向上を目指すものであります。あわせて、多様化する観光ニーズに対して、多言語表記やWi-Fi整備など受け入れ態勢の充実強化に取り組めます。

これら3つの構想の中で、2つの農業政策は新たな産業核を形成し、山鹿産農産物のブランド力を高め、一方では、農園・桑園を訪れる人々を観光資源の集積する市街地へと回遊させることで、地域経済の活性化を図るものであります。

また、自然や歴史遺産、温泉等の観光資源を組み合わせることで、新しい山鹿の

観光商品としての価値を高め、国内外へと積極的に情報発信してまいります。農業政策と観光政策を複合的に戦略性を持って取り組むことで、交流人口の拡大を図り山鹿の経済のさらなる飛躍を目指します。

そして、それぞれの施策については、具体的な数値目標を掲げております。新養蚕構想、ワイナリー構想においては、60人の新規雇用、耕作放棄地解消面積40ヘクタール、またジャパンプランド構想においては、年間宿泊者数50万人、観光入り込み客数500万人を設定しております。

これらの数値目標を実現することにより、若者の雇用の創出、特産品の販売額の増加、交流人口の拡大及び観光消費額の増加などが大いに期待できます。

このように、本市の地方創生につきましては、基本目標や数値目標を設定し、総合戦略策定からいよいよ事業推進の段階を迎えております。これから長期的に、そして険しい道のりのスタートラインに立ち、私自身、当戦略創造プロジェクトを推進していく上で最も大切なことは、目指すべき方向性を明確にし、企業、個々の事業者、地域金融機関など地域経済を担う全ての人、そして団体等市民一人一人までオール山鹿の体制をもって進めていくことであると考えております。

みずから暮らす地域に誇りと愛情を持って、地域を守り育て、将来世代へ確かなものとしてつないでいくことが地方創生の理念であると考えております。

以上、答弁とします。

○議長（藤原 弘君）

服部君。

〔1 番 服部 香代君 登壇〕

○1 番（服部 香代君）

ありがとうございました。

このプロジェクトのKPIとか山鹿版DMOなどにつきましては、今後、またその進捗状況などもあわせて、今後またお尋ねをしていきたいと思っております。

いずれにしても、この総合戦略は、将来の山鹿の希望となるべきものです。このプロジェクトをいかに魅力的に発展させるか、ここにかかわってみたいと思う市民をどれだけふやせるか、何度も繰り返しになりますが、行政、議会、企業、そしてさまざまな立場の多くの市民の皆様が一体となって、お互いの信頼関係の中で進めていくことが鍵になっていくものと思われれます。

また、女性も高齢者も含めたところでの労働力に着眼するならば、必然的にその環境整備に係る施策が見えてくるでしょう。今、若い人たちが積極的に移住している地域は、もともとの居住者が自分たちのまちをどうしたいのか、はっきりとしたビジョンがあり、それを実践しているところです。人口減少対策は、これをやれば

オッケーというものではないし、さまざまな角度からさまざまな観点から見て取り組まなければなりません。お互いが知恵を出し合って、協力し合って、山鹿を魅力あふれる住み続けたいまちにしていきたいと思っています。

ありがとうございました。これで私の一般質問を終わります。

○議長（藤原 弘君）

以上で、服部君の質疑・一般質問は終了いたしました。

ここで、暫時休憩いたします。

午前10時44分 休憩



午前10時54分 開議

○議長（藤原 弘君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

次の通告順により、北原 昭三君の発言を許します。北原君。

[7 番 北原 昭三君 登壇]

○ 7 番（北原 昭三君）

皆様、こんにちは。

議席番号 7 番、公明党の北原 昭三でございます。

発言通告に従いまして、一問一答にて 3 件の質問をいたします。どうぞよろしくお願いをいたします。

1 件目、雑誌スポンサー制度の導入と図書館のサービス向上について。委員会の所管の事項でございますけども、お許しいただきまして、2 回に分けて質問をいたします。

まず、雑誌スポンサー制度の導入についてお聞きをいたします。

山鹿市におきましては、皆様御存じのとおり、ひだまり図書館、こもれび図書館と鹿北、菊鹿、鹿央にも図書室もあり、多くの方々が利用されております。他自治体を調査いたしますと、いろんなサービスをする図書館や独自のアイデアで取り組む自治体がふえております。

そのアイデアの 1 つに、雑誌スポンサー制度がございます。雑誌スポンサー制度とは、図書館の経費削減並びに雑誌コーナーの充実を図るもので、企業などがスポンサーとなって雑誌の購入費用を負担するかわりに雑誌のカバーに企業の広告を掲載するものです。企業にも宣伝効果が望めるような状況となります。利用者へのサービス向上を図る狙いもございます。

それでは、2 点につきまして質問をいたします。

1 点目、雑誌の購入代金はどのくらいの金額になっておりますでしょうか。

2点目、財源確保並びに図書の充実につながると思いますこの雑誌スポンサー制度の導入につきましての見解をお伺いをいたします。よろしくお願いいたします。

○議長（藤原 弘君）

執行部の答弁を求めます。木村教育部長。

〔教育部長 木村 厚男君 登壇〕

○教育部長（木村 厚男君）

北原議員の一般質問の1点目、雑誌の購入代金についてお答えをいたします。

本市2つの図書館では、月刊誌や季刊誌などの雑誌類約50誌を定期購読をしており、購入費用として年額84万円を計上しておりますが、一方で利用者の皆様方からは、さらなる雑誌の充実を求める要望も寄せられているところでございます。

次に2点目のご質問、雑誌スポンサー制度導入についての見解についてお答えをいたします。

雑誌スポンサー制度は、議員ご指摘のとおり、雑誌を購入するための新たな財源を確保し、図書館機能の充実を図る制度の一つとして理解しており、県内では14市中3市で導入済みでございます。本制度導入に向けた先進地の事例調査を行ったところ、制度導入の有効性が確認できた反面、スポンサー確保等の課題が生じている実情も見えてまいりました。

今後は、事例調査の範囲をさらに広げ、制度導入を前提とした調査研究を進めてまいりたいと考えております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

北原君。

〔7番 北原 昭三君 登壇〕

○7番（北原 昭三君）

ご答弁ありがとうございました。

導入につきましては、スポンサー獲得から始まると思いますが、制度を導入すれば購入費用も削減でき、また、図書館の機能も充実を図ることができると思われます。早急に導入に向けた調査研究をお願いいたします。

続きまして、図書館のサービスについてお聞きをいたします。

山鹿市立図書館利用案内を見ますと、利用カードの登録、貸し出し、返却、調べ物、インターネットサービスなどの内容が詳しく掲載されており、大変ありがたいと思います。休館日はひだまり図書館、毎週月曜日、こもれび図書館、毎週水曜日とあります。大型連休等の場合は、多くの方々が図書館を利用され、また読書力を高めるいい機会だと思います。また、このようなときは休館日を設けず、開館対応し

ていただきたいとの要望を多くの皆様から聞いております。

大型連休の場合、休館日を設けず開館している自治体も多くあります。

それでは質問をいたします。大型連休中の図書館の開館についての見解、そして、利用者へのサービス向上は何か考えられておられますか。お伺いをいたします。よろしく願いいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。木村教育部長。

〔教育部長 木村 厚男君 登壇〕

○教育部長（木村 厚男君）

北原議員の一般質問、連休中の図書館の開館も含めた利用者へのサービス向上についてお答えをいたします。

一昨年11月、市民交流センター内に「こもれび図書館」が開館をいたしましたことで、山鹿市の読書推進拠点は、「ひだまり図書館」も含めた2つの図書館、鹿北、菊鹿、鹿央市民センター内に設けている3つの図書室となりました。

その2館3室の中でも「ひだまり」「こもれび」両図書館は、読書推進活動の中心的役割を担う施設として年間を通じてさまざまな事業を展開しており、本年度の個人貸出実績見込みは36万1000冊で、通年での貸出総数は対前年度比でおよそ10万冊の増加を見込んでいるところでございます。

しかしながら、この大幅な増加の8割以上は「こもれび図書館」のオープンによるもので、この効果を維持し、さらなる読書振興を図るためには来年度以降の取り組みが重要になると考えております。

そこで、平成28年度は、利用者へのサービス向上を目的に「こもれび図書館」開館時間の試験的延長を計画しており、また議員ご指摘の連休中の開館についても、多くの市民や帰省客の利用が想定される大型連休中については、休館日を設けずに連続して開館を予定するなど、積極的な取り組みの展開を考えているところでございます。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

北原君。

〔7番 北原 昭三君 登壇〕

○7番（北原 昭三君）

ご答弁いただきましてありがとうございます。

利用者へのサービス向上として、こもれび図書館の開館時間の試験的延長を考えていただいているということで、大変ありがたく思います。

また、大型連休中の開館につきましては、実施されますようお願いをいたします。
それでは、2 件目、観光振興についてお聞きをいたします。

まず、観光客の駐車場についてお伺いをします。先月、山鹿灯籠浪漫百華百彩が開催をされ、多くの方々が観光に来られにぎやかだったと思います。また、私の地元平山温泉では、スタンプラリーを開催中であり、好評と聞いております。

2 月 1 日から 3 月 31 日までの期間中、平山温泉観光協会加盟の 25 施設に入浴や食事をされた方へ、各施設のスタンプを専用の台紙に押します。入浴件数に応じまして観光事務所でオリジナル商品と引きかえができるようになっております。多くの方々に来ていただけることを期待をいたしております。

今回のイベントにつきましては、平山温泉観光協会の自己資金での取り組みと聞いております。多くの方々が平山温泉にお越しをいただいております。今後は、市からの補助金等の検討もよろしくお願いをいたします。

それでは質問に入ります。

町なかの駐車場についてお聞きをいたします。観光バスなどが駐車できるところは豊前街道駐車場と八千代座駐車場くらいだと思いますけども、なかなかわかりづらいというお話もあるし、そういった現状でございます。私といたしましては、市内の中心に近い国道 325 号線沿い、さくら湯付近に観光バス駐車可能な駐車場があれば、位置的にわかりやすく、利用幅が広がり、もっと多くの方々に山鹿市に来ていただけるのではないかと思います。今後、日本を訪れる外国人観光客も視野に入れた観光バスの駐車場について考えがございましたらご提示をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。栃原経済部長。

〔経済部長 栃原 栄一君 登壇〕

○経済部長（栃原 栄一君）

北原議員の一般質問、観光振興についての 1 点目、観光客の駐車場についてお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、現在、中心市街地における観光バスの駐車につきましては、豊前街道駐車場を無料でご利用いただいております。また、八千代座北側の駐車場につきましても、八千代座でのイベント等開催時以外は観光バスの駐車が可能となっております。

ご提案がありました、より中心部のさくら湯付近に観光バスが駐車可能な駐車場があればということでございますが、現在、さくら湯と温泉プラザ山鹿ビルの間にある多目的広場の一部につきましては、さくら湯ご利用のお客様の駐車場としてわ

ずかではありますが、マイクロバスの駐車も可能となっております。

議員ご指摘のとおり、今後の外国人観光客の増加を視野に入れますと、ツアーバス等の利用も見込まれることから、今後、必要性は高まることと想定されると思いますが、現在といたしましては、中心に近い国道325号沿い、さくら湯付近での観光バス駐車場については、ただいま申し上げた場所以外で駐車場として利用できる公共的な場所がないことなどから、現時点では新たな観光客駐車場の設置は難しいものと考えております。

このような現状を踏まえまして、今後、豊前街道駐車場の利用につきましては、市や観光協会のホームページ掲載、イベント開催時の事前周知や旅行会社・バス会社等への情報発信を積極的に行うなど、さらなる利用促進を図りまして、豊前街道を散策していただくことによる回遊性の向上やまちのにぎわいの創出につなげてまいりたいと考えております。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

北原君。

[7 番 北原 昭三君 登壇]

○ 7 番（北原 昭三君）

ご答弁ありがとうございます。

他市の方々から、なかなか山鹿市の駐車場がわかりにくいというような話も聞く場合がございます。市内の駐車場の位置についてのPR、今もされていると思いますが、情報発信、また大きな看板を立てるなどわかりやすい状況にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

2点目、ビジネスホテルの誘致についてお聞きをいたします。

これは私の個人の意見並びに他自治体の友人たちの意見としてお尋ねをいたします。会社の出張、また観光等で来られた方々の宿泊施設として、周辺施設への影響も考えますが、安価なビジネスホテルができて、多くの方が利用されることによって地域、商店街の活性化並びに雇用の場も拡大できると思われれます。

山鹿市で大きなイベントがあった場合、現状の宿泊施設で宿泊に影響はないでしょうか。また、今までに山鹿市にビジネスホテルの誘致について考えたことはありますか、お伺いをいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。栃原経済部長。

[経済部長 栃原 栄一君 登壇]

○経済部長（栃原 栄一君）

ビジネスホテルの誘致についてお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、ビジネスホテルの誘致は、観光やビジネスなどで本市を訪れる多くの方から要望をいただいているだけではなく、飲食施設や交通輸送機関の利用、従業員の雇用など、地域経済に大きな波及効果が期待できるものであると考えております。

現在、本市のビジネスホテルは小規模のものが数軒しかなく、各種スポーツ大会等の受け皿としても不足している状況にあります。

今後、2019年の女子ハンドボール世界大会、2020年の東京オリンピック等の関連事業など多くの大規模スポーツイベントの開催を控え、ますます受け皿の不足が懸念されます。

また、本年度策定いたしました山鹿市総合戦略の中でも、地域ブランド力の向上をうたい、それに伴う5年後の宿泊者数の目標値を50万人としておるところでもあり、本市全体の宿泊者数を増加させるためにも、既存の旅館やホテルと同様にビジネスホテルも必要であると考えております。

これまで積極的にビジネスホテルを誘致しておりませんが、本市がますます多様化する来訪者のニーズに応え、魅力ある観光地、宿泊地となるためには、既存の伝統ある旅館、ホテルとビジネスホテルが互いに好影響を与えながら、共存共栄を図っていく必要があると考えております。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

北原君。

[7 番 北原 昭三君 登壇]

○ 7 番（北原 昭三君）

ご答弁、ありがとうございました。

山鹿市総合戦略の中で、地域ブランド力の向上をうたい、それに伴う5年後の宿泊数の目標値を50万人とされているとお話がありました。先日、富丸議員からお話がありましたが、大きな宿泊施設が撤退され、今後宿泊数がふえた場合の受け皿とした場合、現行の宿泊施設での対応は厳しいかと思われます。ぜひ、ビジネスホテルの誘致について考えていただきたいと思います。

続きまして、Wi-Fi 設置状況についてお聞きをいたします。

世界文化遺産登録された三角西港や荒尾市の万田坑などで熊本県も有名になり、多くの観光客が予想されます。外出時でもスマホやタブレット端末をインターネットに無料で接続できる公衆無線LAN、Wi-Fi の充実が必要でございます。

このような状況の中で、本市もネット環境を整備し、観光客、特に外国人観光客

の要望に応えるとともに、さらに観光客を呼び込み、地域活性化につなげていかなければいけないと思われます。

無料公衆無線LANの充実は、訪日観光客の増加につながると期待をされます。きょうの熊本日日新聞の県北欄にもWi-Fiの設置の件で、菊池市議会の内容でございますが掲載をされておりました。

それでは、質問をいたします。山鹿市の観光施設並びに公共施設、防災拠点へのWi-Fiの設置状況についてお伺いをいたします。よろしくお願いいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。栃原経済部長。

〔経済部長 栃原 栄一君 登壇〕

○経済部長（栃原 栄一君）

観光施設及び公共施設、防災拠点へのWi-Fiの設置に係る現状と今後の計画についてお答えいたします。

観光施設に係る無料公衆無線LAN、いわゆるWi-Fiにつきましては、インターネットの環境に無料で、しかも容易に接続できる通信システムのこと、日本人のみならず、特に外国人観光客にとりましては必要不可欠なものとなっております。

現状といたしましては、外国人観光客の誘致を推進するに当たり、山鹿市内のホテル・旅館を対象に昨年6月、Wi-Fi設置状況につきまして調査いたしましたところ、33施設中13施設が整備済みとなっております。そのほか、道の駅鹿北小栗郷など一部設置しておりますが、市が管理する観光施設及び防災拠点施設につきましては、現時点でのWi-Fiの設置はございません。

今後の計画といたしまして、Wi-Fiの整備促進のため、民間の観光関連施設等に対する補助制度を、平成28年度新たに創設するよう計画しておりますとともに、観光施設では灯籠民芸館、さくら湯につきまして、平成28年度に設置を計画しており、その他の観光施設についても順次整備促進に努めてまいりたいと考えております。

また、公共施設・防災拠点には、平成28年度から利用者の利便性を考慮して、本庁舎と各市民センターなどへの設置を計画しているところであります。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

北原君。

〔7番 北原 昭三君 登壇〕

○7番（北原 昭三君）

ご答弁、ありがとうございました。

観光施設、公共施設並びに防災拠点に、平成28年度から順次設置の計画があるということで理解をいたしました。よろしくお願いをいたします。

続きまして3件目、相乗りタクシー山鹿チョマツ号についてお聞きをいたします。

利用者の意思の把握について、路線バスの廃止に伴い、相乗りタクシーを導入していただき、現在、多くの方が利用され、大変助かっていますとの声を聞きます。これまで利用者のニーズに応えいろんなことに取り組んでこられたことに感謝を申し上げます。

私は、昨年6月定例会で相乗りタクシー山鹿チョマツ号の週3日への運行日の拡大をお願いをいたしました。そのときのご答弁で、今後、利用者の意向の把握を行っていきたいという内容でございました。どのような把握ができましたでしょうか、お伺いをいたします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。阿蘇品市民部長。

〔市民部長 阿蘇品 貴司君 登壇〕

○市民部長（阿蘇品 貴司君）

北原議員のご質問、相乗りタクシー山鹿チョマツ号の利用の皆様の意向の把握についてお答えいたします。

本市の相乗りタクシーの運行につきましては、路線バスの廃止に伴います代替え及び交通不便地域解消のため、平成20年度から順次4地域に導入し、平成23年度に全ての地域において運行いたしました。全地区導入後5年を迎えることから、現状を把握し、持続可能な公共交通施策を検討するため、平成20年度9月から菊鹿あんず号の利用者を皮切りに乗車時アンケートを実施し、12月末までに全運行地域の調査票を回収いたしました。

現在、全ての運行地域のアンケート結果の集計及びニーズ等の分析を行っているところでございます。お尋ねの山鹿チョマツ号の利用者の皆様のアンケートにつきましては、11月1日から1カ月間実施し、配付者数33名のうち21名から回答をいただきました。回答率は63.6%で、回答者の9割の方が70歳以上の女性の方となっております。

また、全体の8割を超える方が運転免許をお持ちでなく、世帯に車がないことで家族による外出支援も受けられないなど交通弱者の方であり、主に買い物や病院の通院などに月2回以上利用されております。

特に皆様の意向についての質問では、現在の利用に対し「とても満足している」あるいは「満足している」との回答が8割を超えるなど、満足度について高い評価をいただいているところでございます。

また、料金につきましても「安い」と感じておられる方が7割以上となっており、現在の運行形態につきましては、ほぼ満足いただいているものと受けとめております。

運行日数や便数の質問に対しましては、現状維持という方が23.8%、1日の便数を減らしてでも運行日数をふやしてほしい方が38.1%、またその他に運行日の拡大を希望される方が38.1%おられます。このように、何らかの拡大を望まれている方が合計76.2%おられる状況となっております。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

北原君。

[7番 北原 昭三君 登壇]

○7番（北原 昭三君）

ご答弁、ありがとうございました。

運行について何らかの拡大を望まれている方の合計が76.2%とのアンケートの結果があったとのことで、地域公共交通会議で皆様の要望をしっかりと伝えていただきたいと思います。

今後、山鹿市も例外なく高齢化が進んでいきます。第6期山鹿市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画を見ますと、平成26年10月現在、高齢化率33%、平成37年には39%となる試算というふうに記載がされておりました。現行制度では、相乗りタクシーが利用できない方、福祉タクシーなど利用の対象にならない方もいらっしゃいます。財政面で厳しい現状ではありますが、困った人に手を差し伸べる施策が欲しいものです。

今後の相乗りタクシーの運行体制についてどのようにお考えかお伺いをいたします。また、この件につきましては、次の機会に再度質問をいたします。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。阿蘇品市民部長。

[市民部長 阿蘇品 貴司君 登壇]

○市民部長（阿蘇品 貴司君）

2回目のご質問の前に、先ほどの答弁の中で、アンケート実施いたした時期を平成27年9月と申すべきところ、平成20年9月と申し上げてしまいました。大変失礼いたしました。平成27年9月に実施したところでございます。

それでは、相乗りタクシーの運行体制についてお答えいたします。

本市の地域公共交通網は、一般乗り合い旅客自動車運送事業者が行う路線バス23

系統と4地域で実施しております予約制相乗りタクシーで構成されております。

路線バスにおいては、少子高齢化、人口減少及び自家用車の普及などにより利用者の減少が続いており、路線維持のため民間バス事業者への赤字補填が増加傾向となっております。また、相乗りタクシーにおいても利用者の増加に伴い、運賃の差額負担に対する事業者への補助も増加傾向となっております。

一方、地域公共交通は、地域経済の活性化、通勤、通学、通院、買い物など市民生活にとってはなくてはならないものでありますので、持続的な利便性の高い地域公共交通網を確保する必要があります。

このような状況の中、相乗りタクシーの運行拡大や福祉面からの利用拡大などいろいろな要望がありますので、今後とも安定的に運行を継続していくため、地域の実情に応じた適切な料金体系、運行形態、相乗り率の向上など多方面から検討を行い、今後の運行体制の方針を定める必要があると考えております。

今後は、ご指摘の点も含め、各関係者の意見を十分にお聞きしながら、これらの点を総合的に判断し、持続可能な公共交通体系の構築に努めてまいりたいと思います。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

以上で、北原君の一般質問は終了いたしました。

次の通告順により、永田 紘二君の発言を許します。永田君。

[14番 永田 紘二君 登壇]

○14番（永田 紘二君）

14番議員の永田 紘二でございます。

発言通告に基づきまして、一般質問を2点行います。

1点目は鶴城中学校の現状と今後の方向性について、2点目は山鹿市の歴史文化遺跡の保護と活用についてお伺いをいたしたいと思っております。一問一答にてお願いを申し上げます。

まず1点目の鶴城中学校の現状と今後の方向性についてお伺いをします。当然、学校規模適正化基本計画の第2次計画のもとで十分検討をされていると思っておりますが、平成25年度平小城小学校、三岳小学校を卒業した子供たちは20名でありました。その中で鶴城中学校に進んだのは14名です。平成26年度卒業生が24名で、入学したのが14名であると聞いております。この2年間ににおいても、卒業した子供と入学した子供の差が16名少なくなっています。

そこで、現在の生徒数や部活動の状況、どういう状況であるか、また、学校再編の計画では平成31年に予定をされてますが、計画を早めてほしいという意見も聞き

ます。再編予定年度を前倒しをするような考えがあるのでしょうか。お伺いをします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。木村教育部長。

〔教育部長 木村 厚男君 登壇〕

○教育部長（木村 厚男君）

永田議員の一般質問、鶴城中学校の現状と方向性についてお答えをいたします。

鶴城中学校の生徒数につきましては、平成25年度が100人、平成26年度84人、平成27年度64人と年々減少しているところでございます。現在、1年生と2年生はそれぞれ14人で、部活動においても今年度の中体連まではサッカー部や野球部を初め6種目の部が活動をいたしておりましたが、新チームとなった現在は、団体競技であるサッカー部と野球部が廃部となり、個人競技が可能な陸上部や男女テニス部など5種目の部が活動しているところでございます。

一方、少子化の進行に伴い、子供たちのよりよい教育環境を整備するため、学校規模適正化基本計画の第2次計画を平成26年度に策定をいたしまして、小中学校の再編に取り組んでいるところでございます。中学校の再編計画につきましては、鶴城中学校と山鹿中学校の再編案として平成31年度開校を目指して、地域や保護者の皆様方に計画案を丁寧に説明していく予定でございます。

今後は、地元の皆様方のご意見、ご要望をお聞きした上で、開校目標年度の前倒しも視野に入れ、よりよい教育環境の整備に向けた再編に努めてまいります。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

永田君。

〔14番 永田 紘二君 登壇〕

○14番（永田 紘二君）

ただいま報告ございましたとおり、本年度から鶴城中学は、サッカー部と野球部が廃部になるということであります。子供たちのためにも十分な検討をお願いしたいと思います。

続きまして、2点目の山鹿市の歴史文化遺産の保護と活用についてお伺いをします。

先日、全員協議会で日本文化遺産の認定の申請についてご報告がございました。その中で私は、こういう捉まえ方をしました。国の文化遺産に関する政策の変化が見られると受けとめました。

従来 of 文化行政は、個々の遺産を点として指定保存が目的でありました。しかし、

今回、日本遺産ということの中で、点在する遺産を面として活用、発信となっております。

そこで、山鹿市の歴史文化遺産の保護と活用について、3つに分けてお伺いをしたいと思います。1つは文化遺産の保護と活用の現状について、2つ目は文化遺産を活用した観光のあり方について、3つ目には地元資源を観光に活用するための組織体制の見直しについてということをお伺いをします。

まず、1つ目の文化遺産の保護と活用の現状についてであります。山鹿市の文化遺産の指定、保護、活用、現状並びに教育委員会としての基本的な考え方等についてお尋ねをします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。木村教育部長。

〔教育部長 木村 厚男君 登壇〕

○教育部長（木村 厚男君）

永田議員の一般質問、文化遺産の保護と活用の現状についてお答えをいたします。

最初に文化遺産保護の現状でございますが、山鹿市は現在、建造物や史跡名勝などさまざまな分野にわたる指定及び登録文化財190件を有しております。その内訳は、国指定が10件、国登録が1件、県指定19件、市指定160件でございます。

これらの文化財は、文化財保護法や県文化財保護条例また山鹿市文化財保護条例の規定にのっとりまして、文化財保護委員を初めとした多くの市民の皆様方のご協力のもとで、適正な保存を図っているところでございます。

次に活用の現状でございます。

活用に当たっては、チブサン古墳のように文化財の保存環境を安定させる施設を有しているものは積極的に現地で公開を行い、土器や木彫など修復や復元を行った後、博物館や出土文化財管理センターなどの適切な管理が行える施設内で展示を行っております。また、国指定重要文化財の八千代座のように、本来の機能や用途を尊重した積極的な活用を図りながら保存を行っているものもございます。

さらに、近年では、県立装飾古墳館が行っております勾玉づくり教室を初めとした古代体験イベントの開催、チブサン古墳の壁画を図柄としてデザインした商品の開発など、文化財の活用は展示や公開のみならず、さまざまな手法へとその裾野が広がりつつあります。

また、今般菊池川流域で申請をいたしております日本遺産の趣旨にもあるように、2020年の東京オリンピック開催を契機に、日本の文化を世界に発信するための文化財活用という側面が注目を集めており、議員ご指摘のとおり国の文化財保護行政は転換点にございます。

しかしながら、過剰な公開や活用が文化財を壊してしまった事例も国内では見受けられておりまして、私たちはこのかけがえのない市民の宝を、自分たちの世代において活用するだけではなく、将来の世代のために保存する義務があるわけでございます。

文化財保護法第1条にもありますように、「文化財を保存し、かつ、その活用を図り、もって国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献すること」、すなわち保存と活用を文化財保護の重要な二本の柱と位置づけ、今後は文化財を次の世代に残すことを念頭に置いた活用のための保存、文化財の持つ価値を多くの人たちに共感してもらう保存のための活用といった観点で、いずれか一方に偏ることなく、その両立を目指すことが山鹿市の文化遺産の保護において何よりも大切なことだと考えております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

永田君。

[14番 永田 紘二君 登壇]

○14番（永田 紘二君）

文化遺産の保護と活用について、しっかり内容を教えていただきました。

これだけ文化遺産の保護には大変だなという理解をします。今、社会教育課の中のワンポジションで管理をしているようでありますけども、果たして所管課が要らんのかなというような疑問も持っております。機会あるごとに、山鹿市は自然と歴史と文化と産業のまちだというお話をされます。その中の歴史と文化については、先ほどお話がありましたように、文化遺産を基本とした保護をしながら守ってきておられますけれども、せっかくのこれだけの遺産があるわけですから、誘客戦略、すなわち観光とドッキングさせて活用できないものかなという思いがあります。

そういうことからして、2つ目に文化遺産を活用した観光のあり方について伺いをします。

文化遺産を活用して、観光振興に結びつける上での基本的な考え方なり、方向性なりについてお尋ねをしたいと思います。

また、日本遺産についての考え方についても、あわせてご答弁をお願いします。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。栃原経済部長。

[経済部長 栃原 栄一君 登壇]

○経済部長（栃原 栄一君）

山鹿市の歴史文化遺産の保護と活用についての2点目、文化遺産を活用した観光

のあり方についてお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、本市には文化遺産にとどまらず、豊前街道の町並みや数多くの装飾古墳に代表される歴史的資源を初め、それぞれ個性のある複数の温泉、緑豊かな農地や河川などの自然、さらには山鹿灯籠、来民うちわ等の伝統工芸品などの豊富な観光資源を有しております。

そのような中、観光分野の振興は、宿泊業、輸送・交通業あるいは飲食業など極めて裾野が広く、地域経済を活性化させる上では有望な産業であると認識し、これまでも地元観光協会、商業事業者はもとより、関係機関・団体とも連携を図りながら、さまざまな観光振興施策を展開してきたところでございます。

とはいえ、観光面から見て、まだまだ埋もれている文化財や十分活用しきれていない歴史的遺産もあり、今後は、その魅力に磨きをかけ、本市の観光振興のためにも最大限活用していかなければならないと考えております。

また、地元暮らし人にとっては、ごく当たり前の風景や食文化、あるいは、ものづくり体験などが外国人を含めた観光客にとっては魅力的な資源に映ることもあると言われております。

このようなことから、市内に点在するいまだ観光面で活用しきれていない文化遺産を掘り起こし、一つ一つの魅力ある資源を点から線へ、線から面へと広げ、テーマやストーリーを持たせてルート化することで、観光地山鹿としての商品価値を高め、交流人口や宿泊客をふやすことで地元経済の活性化につなげてまいりたいと考えております。

さらに、現在認定申請中であります菊池川流域の日本遺産についてでございますが、認定された場合には、今後3市1町の広域連携による新たな観光ルートとして、国内外へ積極的かつ戦略的・効果的にPRし、活用することで、県北地域はもとより、本市の観光振興につなげていくためにも教育委員会など関係機関・団体等とも連携を図りながら、新たな観光戦略を立てていかなければならないと考えております。

以上、答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

永田君。

[14番 永田 紘二君 登壇]

○14番（永田 紘二君）

3つ目に、地元資源を観光に活用するため、組織体系の見直しについてお尋ねをします。

先ほどご報告がありましたとおりに、遺跡の保護、活用を観光とドッキングさせ

るという中では、教育委員会所管、それから経済部所管に分かれております。八千代座や装飾古墳、方保田東原遺跡など、山鹿市の魅力ある地域資源を観光産業と結びつけ、先ほど双方の振興を図るために、これらを統括する一つの組織というのが創設できないものだろうか、それから一体的に施策を推進する必要があると思いますので、そうした考え方をお尋ねしたいと思います。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。幸村総務部長。

〔総務部長 幸村 英星君 登壇〕

○総務部長（幸村 英星君）

永田議員の一般質問の２点目の中の、地元資源を観光に活用するための組織体系の見直しについてお答えをいたします。

ただいま、教育部長や経済部長から答弁がございましたように、山鹿灯籠や八千代座、装飾古墳を初め、本市の歴史・文化資源は先人から受け継いできた本市独自のものであり、将来世代へ確実に伝えていかなければならない貴重な財産でございます。

人口減少の時代にあって、これらの財産に磨きをかけ、新たな価値を創造することによって、山鹿という地域そのものの価値・知名度を一層高め、それが地域に活気と誇りを取り戻すことにつながるという、しっかりとした地域ブランド戦略を描き実行することは、今を生きる我々の責務であると考えます。

市といたしましても、歴史・文化資源の保存と観光面での活用は、いわば車の両輪の関係であり、ともに協力し、緊密に連携し合わなければ十分に価値を発揮できないわけでございますので、保存と活用を一体的に推進する組織の重要性は十分に認識しているところでございます。

ただし、そうした組織を設ける場合、市内の全ての歴史・文化資源の保存と観光面での活用策を所管し、それを調整する役割を持たせるとなれば、ある程度の規模を持った組織とならざるを得ず、また、既存の部署との役割分担、すみ分けをどうするのか、所管部署をどこにするのかなどについても十分な検討が必要でございますので、現在の人員体制・組織体制を考えますと、対応が難しいのが実情でございます。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

永田君。

〔14番 永田 紘二君 登壇〕

○14番（永田 紘二君）

ただいまのお話の中で、当然、現状でも双方連絡を取りながら十分対応しているというお話であります。もう一つだけですね、地元資源を観光活用するための組織体系の見直しで、2回目をちょっとお尋ねをしたいと思います。

歴史文化資源の保存と観光面での活用を戦略的に展開することは重要なことだと理解をします。ただ、これに限らず、僕は平成28年度というのは、非常に大事な年度だなという理解をしております。本市が問題を抱えております人口減少対策、新たな雇用、産業の創出、移住定住化促進、今後の先ほどからお話になってますまち・ひと・しごと創生の山鹿総合戦略、それから第2次総合計画を着実に今から実行していくためには、組織の見直しや充実が必要だと考えます。最後のこの点、少しだけ触れていただければと思います。

○議長（藤原 弘君）

答弁を求めます。幸村総務部長。

〔総務部長 幸村 英星君 登壇〕

○総務部長（幸村 英星君）

永田議員の2回目のご質問にお答えをいたします。

さきの答弁で申し上げましたように、歴史文化資源の保存と観光面での活用は、地方創生の考えに沿った地域ブランド戦略の一つであると考えております。

観光という面で申しますと、本市が観光都市としての揺るぎない地位を勝ち取るためには、明確なビジョンや考えが先にあって、それを実現する手段としての活用策が用意されている必要がございますが、この活用策には、予算や人員、規則や制度、組織体制等が含まれてまいります。

これからの自治体間の競争をしっかりと勝ち抜いていくためにも全庁一丸となって地方創生を初め、さまざまな重要な取り組みを深化・加速化させていく必要があります。山鹿市総合戦略や第2次山鹿市総合計画等の内容を踏まえ、組織体制といたしましても限られた人員を適材適所に配置するとともに、関係課間の一層の連携強化に努め、必要があれば組織改編も見据えながら計画の着実な進捗を図ってまいりたいと考えております。

以上、ご答弁申し上げます。

○議長（藤原 弘君）

以上で、永田君の一般質問は終了いたしました。

これをもちまして、通告による質疑・一般質問は全部終了いたしました。

これにて、質疑・一般質問を終結いたします。

○

○議長（藤原 弘君）

お諮りいたします。

ただいま議題となっております議案第53号 教育委員会委員の任命について及び議案第54号 公平委員会委員の選任についての2案件は、会議規則第37条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。

これにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、議案第53号及び議案第54号の2案件は、委員会付託を省略することに決しました。

_____ ○ _____

日程第2 委員会付託

○議長（藤原 弘君）

日程第2、委員会付託を行います。

議案第1号から議案第52号までについては、お手元に配付いたしております付託表のとおり、それぞれの常任委員会に付託いたします。

_____ ○ _____

散 会

○議長（藤原 弘君）

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。

午前11時52分 散会

~~~~~

3 月 1 1 日 (金曜日)

## 平成28年（第1回）山鹿市議会3月定例会会議録

### 議 事 日 程（第4号）

平成28年3月11日（金曜日）午前10時開議

- 第1 議案第1号 専決処分の承認を求めることについて  
（山鹿市税条例等の一部を改正する条例の一部を改正する条例）
- 議案第2号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算（第6号）
- 議案第3号 平成27年度山鹿市国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）
- 議案第4号 平成27年度山鹿市後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）
- 議案第5号 平成27年度山鹿市農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）
- 議案第6号 平成27年度山鹿市介護保険事業特別会計補正予算（第3号）
- 議案第7号 平成27年度山鹿市簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）
- 議案第8号 平成27年度山鹿市水道事業会計補正予算（第2号）
- 議案第9号 平成27年度山鹿市病院事業会計補正予算（第2号）
- 議案第10号 平成27年度山鹿市下水道事業会計補正予算（第2号）
- 議案第11号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例
- 議案第12号 山鹿市行政不服審査法施行条例
- 議案第13号 山鹿市長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第14号 山鹿市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例
- 議案第15号 山鹿市職の降給に関する条例
- 議案第16号 山鹿市人事行政の運営等の状況の公表に関する条例等の一部を改正する条例
- 議案第17号 山鹿市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第18号 長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の一部を改正する条例
- 議案第19号 山鹿市火災予防条例の一部を改正する条例
- 議案第20号 山鹿市固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例
- 議案第21号 山鹿市税条例の一部を改正する条例
- 議案第22号 山鹿市個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第23号 山鹿市在宅高齢者福祉対策事業費用徴収条例を廃止する条例
- 議案第24号 山鹿市鹿北ふれあい会館条例を廃止する条例
- 議案第25号 山鹿市農村公園条例の一部を改正する条例

- 議案第26号 山鹿市消費生活センター条例
- 議案第27号 山鹿市証人等に対する実費弁償に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第28号 山鹿市下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第29号 山鹿市公民館条例及び山鹿市民交流センター条例の一部を改正する条例
- 議案第30号 平成28年度山鹿市一般会計予算
- 議案第31号 平成28年度山鹿市国民健康保険事業特別会計予算
- 議案第32号 平成28年度山鹿市後期高齢者医療特別会計予算
- 議案第33号 平成28年度山鹿市農業集落排水事業特別会計予算
- 議案第34号 平成28年度山鹿市介護保険事業特別会計予算
- 議案第35号 平成28年度山鹿市簡易水道事業特別会計予算
- 議案第36号 平成28年度六郷財産区特別会計予算
- 議案第37号 平成28年度城北財産区特別会計予算
- 議案第38号 平成28年度稲田財産区特別会計予算
- 議案第39号 平成28年度稲田六郷財産区特別会計予算
- 議案第40号 平成28年度山鹿市水道事業会計予算
- 議案第41号 平成28年度山鹿市病院事業会計予算
- 議案第42号 平成28年度山鹿市下水道事業会計予算
- 議案第43号 財産の譲渡について
- 議案第44号 財産の譲渡について
- 議案第45号 財産の譲渡について
- 議案第46号 財産の譲渡について
- 議案第47号 財産の取得について
- 議案第48号 損害賠償の額を定めることについて
- 議案第49号 山鹿市過疎地域自立促進計画
- 議案第50号 市道路線の廃止及び認定について
- 議案第51号 市道路線の認定について
- 議案第52号 熊本市道路線の認定の承諾について
- 議案第53号 教育委員会委員の任命について
- 議案第54号 公平委員会委員の選任について

(委員長報告)

討 論

採 決

## 第2 所管事務調査の委員会付託

**本日の会議に付した事件**

- 第1 議案第1号 専決処分の承認を求めることについて  
(山鹿市税条例等の一部を改正する条例の一部を改正する条例)
- 議案第2号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算(第6号)
- 議案第3号 平成27年度山鹿市国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)
- 議案第4号 平成27年度山鹿市後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)
- 議案第5号 平成27年度山鹿市農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)
- 議案第6号 平成27年度山鹿市介護保険事業特別会計補正予算(第3号)
- 議案第7号 平成27年度山鹿市簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)
- 議案第8号 平成27年度山鹿市水道事業会計補正予算(第2号)
- 議案第9号 平成27年度山鹿市病院事業会計補正予算(第2号)
- 議案第10号 平成27年度山鹿市下水道事業会計補正予算(第2号)
- 議案第11号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例
- 議案第12号 山鹿市行政不服審査法施行条例
- 議案第13号 山鹿市長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第14号 山鹿市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例
- 議案第15号 山鹿市職員の降給に関する条例
- 議案第16号 山鹿市人事行政の運営等の状況の公表に関する条例等の一部を改正する条例
- 議案第17号 山鹿市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第18号 長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の一部を改正する条例
- 議案第19号 山鹿市火災予防条例の一部を改正する条例
- 議案第20号 山鹿市固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例
- 議案第21号 山鹿市税条例の一部を改正する条例
- 議案第22号 山鹿市個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第23号 山鹿市在宅高齢者福祉対策事業費用徴収条例を廃止する条例
- 議案第24号 山鹿市鹿北ふれあい会館条例を廃止する条例
- 議案第25号 山鹿市農村公園条例の一部を改正する条例
- 議案第26号 山鹿市消費生活センター条例
- 議案第27号 山鹿市証人等に対する実費弁償に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第28号 山鹿市下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例

- 議案第29号 山鹿市公民館条例及び山鹿市民交流センター条例の一部を改正する  
条例
- 議案第30号 平成28年度山鹿市一般会計予算
- 議案第31号 平成28年度山鹿市国民健康保険事業特別会計予算
- 議案第32号 平成28年度山鹿市後期高齢者医療特別会計予算
- 議案第33号 平成28年度山鹿市農業集落排水事業特別会計予算
- 議案第34号 平成28年度山鹿市介護保険事業特別会計予算
- 議案第35号 平成28年度山鹿市簡易水道事業特別会計予算
- 議案第36号 平成28年度六郷財産区特別会計予算
- 議案第37号 平成28年度城北財産区特別会計予算
- 議案第38号 平成28年度稲田財産区特別会計予算
- 議案第39号 平成28年度稲田六郷財産区特別会計予算
- 議案第40号 平成28年度山鹿市水道事業会計予算
- 議案第41号 平成28年度山鹿市病院事業会計予算
- 議案第42号 平成28年度山鹿市下水道事業会計予算
- 議案第43号 財産の譲渡について
- 議案第44号 財産の譲渡について
- 議案第45号 財産の譲渡について
- 議案第46号 財産の譲渡について
- 議案第47号 財産の取得について
- 議案第48号 損害賠償の額を定めることについて
- 議案第49号 山鹿市過疎地域自立促進計画
- 議案第50号 市道路線の廃止及び認定について
- 議案第51号 市道路線の認定について
- 議案第52号 熊本市道路線の認定の承諾について
- 議案第53号 教育委員会委員の任命について
- 議案第54号 公平委員会委員の選任について

(委員長報告)

討 論  
採 決

## 第2 所管事務調査の委員会付託

日程追加

- 第3 議員提出議案第1号 山鹿市議会の議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部  
を改正する条例

議員提出議案第2号 山鹿市議会基本条例

意見書案第1号 児童虐待防止対策の抜本強化を求める意見書

#### 第4 議会活性化特別委員長の報告



##### 出席議員（20名）

|     |        |
|-----|--------|
| 1番  | 服部香代君  |
| 2番  | 富田弘海君  |
| 3番  | 永田健君   |
| 4番  | 稲葉昇君   |
| 5番  | 富丸洋一郎君 |
| 6番  | 藤本峰秀君  |
| 7番  | 北原昭三君  |
| 8番  | 芹川正美君  |
| 9番  | 藤原豊君   |
| 10番 | 平井邦廣君  |
| 11番 | 吉本政幸君  |
| 12番 | 池田誠一君  |
| 13番 | 堀茂幸君   |
| 14番 | 永田紘二君  |
| 15番 | 横手啓介君  |
| 16番 | 藤原弘君   |
| 17番 | 太田黒鐵郎君 |
| 18番 | 丸山寛治君  |
| 19番 | 寺崎勇児君  |
| 20番 | 丸山康昭君  |



##### 説明のため出席した者

|         |        |
|---------|--------|
| 市長      | 中嶋憲正君  |
| 副市長     | 池田永実君  |
| 教育長     | 堀田浩一郎君 |
| 総務部長    | 幸村英星君  |
| 消防本部消防長 | 内野輝雄君  |
| 市民部長    | 阿蘇品貴司君 |
| 福祉部長    | 戸次由夫君  |



|                         |           |
|-------------------------|-----------|
| 経 済 部 長                 | 栃 原 栄 一 君 |
| 経済部首席審議員                | 西 田 博 之 君 |
| 建 設 部 長                 | 原 弘 文 君   |
| 教 育 部 長                 | 木 村 厚 男 君 |
| 山鹿市民医療センター<br>事務部長兼医事課長 | 飯 田 啓 詩 君 |
| 総務部次長兼政策審議員             | 木 下 実 君   |
| 市 民 部 次 長               | 阿 部 一 行 君 |
| 市 民 部 次 長               | 金 光 一 誠 君 |
| 福 祉 部 次 長               | 川 崎 美 明 君 |
| 建 設 部 次 長               | 中 原 忍 君   |
| 水 道 局 長                 | 阿蘇品 元 晴 君 |
| 教 育 部 次 長               | 大 森 健 司 君 |
| 総 務 課 長                 | 大 林 秀 樹 君 |
| 国保年金課長                  | 佐 藤 ア キ 君 |

○

#### 事務局職員出席者

|             |           |
|-------------|-----------|
| 議 会 事 務 局 長 | 野 田 修 誠 君 |
| 局長補佐兼議会総務係長 | 森 田 英 美 君 |
| 議 事 係 長     | 小 山 天 君   |
| 書 記         | 高 木 善 彦 君 |

○

午前10時00分 開議



○議長（藤原 弘君）

会議に先立ちまして、多くの方々のとうとい命が失われました東日本大震災から本日、5周年追悼に当たり、山鹿市議会におきましても、弔意を表明すべく謹んで黙禱をささげたいと思います。傍聴席の方におかれましてもご一緒をお願いいたします。ご起立をお願いいたします。黙禱。

[黙禱]

○議長（藤原 弘君）

黙禱を終わります。ご協力ありがとうございました。ご着席ください。  
これより本日の会議を開きます。



日程第1 議案第1号～議案第54号

○議長（藤原 弘君）

日程第1、各常任委員会に付託してありました議案第1号から議案第52号、並びに議案第53号及び議案第54号の全案件を議題といたします。



議案第1号 専決処分の承認を求めることについて

（山鹿市税条例等の一部を改正する条例の一部を改正する条例）

議案第2号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算（第6号）

議案第3号 平成27年度山鹿市国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）

議案第4号 平成27年度山鹿市後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）

議案第5号 平成27年度山鹿市農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）

議案第6号 平成27年度山鹿市介護保険事業特別会計補正予算（第3号）

議案第7号 平成27年度山鹿市簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）

議案第8号 平成27年度山鹿市水道事業会計補正予算（第2号）

議案第9号 平成27年度山鹿市病院事業会計補正予算（第2号）

議案第10号 平成27年度山鹿市下水道事業会計補正予算（第2号）

議案第11号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例

議案第12号 山鹿市行政不服審査法施行条例

議案第13号 山鹿市長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例

議案第14号 山鹿市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例

議案第15号 山鹿市職員の降給に関する条例

議案第16号 山鹿市人事行政の運営等の状況の公表に関する条例等の一部を改正

する条例

- 議案第17号 山鹿市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第18号 長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の一部を改正する条例
- 議案第19号 山鹿市火災予防条例の一部を改正する条例
- 議案第20号 山鹿市固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例
- 議案第21号 山鹿市税条例の一部を改正する条例
- 議案第22号 山鹿市個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第23号 山鹿市在宅高齢者福祉対策事業費用徴収条例を廃止する条例
- 議案第24号 山鹿市鹿北ふれあい会館条例を廃止する条例
- 議案第25号 山鹿市農村公園条例の一部を改正する条例
- 議案第26号 山鹿市消費生活センター条例
- 議案第27号 山鹿市証人等に対する実費弁償に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第28号 山鹿市下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第29号 山鹿市公民館条例及び山鹿市民交流センター条例の一部を改正する条例
- 議案第30号 平成28年度山鹿市一般会計予算
- 議案第31号 平成28年度山鹿市国民健康保険事業特別会計予算
- 議案第32号 平成28年度山鹿市後期高齢者医療特別会計予算
- 議案第33号 平成28年度山鹿市農業集落排水事業特別会計予算
- 議案第34号 平成28年度山鹿市介護保険事業特別会計予算
- 議案第35号 平成28年度山鹿市簡易水道事業特別会計予算
- 議案第36号 平成28年度六郷財産区特別会計予算
- 議案第37号 平成28年度城北財産区特別会計予算
- 議案第38号 平成28年度稲田財産区特別会計予算
- 議案第39号 平成28年度稲田六郷財産区特別会計予算
- 議案第40号 平成28年度山鹿市水道事業会計予算
- 議案第41号 平成28年度山鹿市病院事業会計予算
- 議案第42号 平成28年度山鹿市下水道事業会計予算
- 議案第43号 財産の譲渡について
- 議案第44号 財産の譲渡について
- 議案第45号 財産の譲渡について
- 議案第46号 財産の譲渡について

議案第47号 財産の取得について  
議案第48号 損害賠償の額を定めることについて  
議案第49号 山鹿市過疎地域自立促進計画  
議案第50号 市道路線の廃止及び認定について  
議案第51号 市道路線の認定について  
議案第52号 熊本市道路線の認定の承諾について  
議案第53号 教育委員会委員の任命について  
議案第54号 公平委員会委員の選任について



○議長（藤原 弘君）

各常任委員長の報告を求めます。永田建設経済常任委員長。

〔建設経済常任委員長 永田 健君 登壇〕

○建設経済常任委員長（永田 健君）

おはようございます。

建設経済常任委員会から報告を行います。

本定例会におきまして、当委員会に付託されました案件は議案25件であります。

去る3月4日、午前10時から5階会議室におきまして、委員全員出席、執行部に  
関係職員の出席を求め、委員会を開催いたしました。

議案審査に先立ち、調査先を山鹿灯籠民芸館及び熊本市道認定承諾路線4路線と  
し、現地調査を行いました。

現地調査終了後、午後1時から委員会を再開し、慎重に議案審査をいたしました  
ので、その結果についてご報告いたします。

議案第2号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算（第6号）中所管、原案のとおり  
可決すべきものと決しました。

議案第5号 平成27年度山鹿市農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）、  
原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第7号 平成27年度山鹿市簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）、原案  
のとおり可決すべきものと決しました。

議案第8号 平成27年度山鹿市水道事業会計補正予算（第2号）、原案のとおり  
可決すべきものと決しました。

議案第10号 平成27年度山鹿市下水道事業会計補正予算（第2号）、原案のとおり  
可決すべきものと決しました。

議案第24号 山鹿市鹿北ふれあい会館条例を廃止する条例、原案のとおり可決す  
べきものと決しました。

議案第25号 山鹿市農村公園条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第26号 山鹿市消費生活センター条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第27号 山鹿市証人等に対する実費弁償に関する条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第28号 山鹿市下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第33号 平成28年度山鹿市農業集落排水事業特別会計予算、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第35号 平成28年度山鹿市簡易水道事業特別会計予算、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第36号 平成28年度六郷財産区特別会計予算、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第37号 平成28年度城北財産区特別会計予算、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第38号 平成28年度稲田財産区特別会計予算、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第39号 平成28年度稲田六郷財産区特別会計予算、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第40号 平成28年度山鹿市水道事業会計予算、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第42号 平成28年度山鹿市下水道事業会計予算、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第44号 財産の譲渡について、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第45号 財産の譲渡について、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第46号 財産の譲渡について、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第50号 市道路線の廃止及び認定について、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第51号 市道路線の認定について、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第52号 熊本市道路線の認定の承諾について、原案のとおり可決すべきものと決しました。

なお、議案第30号につきましては、さらに慎重に審査する必要があるものとし、

再度３月７日、午前10時から５階501会議室におきまして、委員全員出席、執行部に  
関係職員の出席を求め、委員会を開催いたしました。その結果について、ご報告い  
たします。

議案第30号 平成28年度山鹿市一般会計予算（中所管）、原案のとおり可決すべ  
きものと決しました。

以上、建設経済常任委員会の報告を終わります。

**○議長（藤原 弘君）**

藤原市民福祉常任委員長。

〔市民福祉常任委員長 藤原 豊君 登壇〕

**○市民福祉常任委員長（藤原 豊君）**

おはようございます。

市民福祉常任委員会３月定例会の委員会審査についてご報告いたします。

本定例会におきまして、当委員会に付託されました案件は、議案16件であります。

去る３月７日、午前10時から５階会議室におきまして、委員全員出席、執行部に  
関係職員の出席を求め、委員会を開催し、慎重に審査いたしましたので、その結果  
についてご報告いたします。

議案第１号 専決処分の承認を求めることについて（山鹿市税条例等の一部を改  
正する条例の一部を改正する条例）、原案のとおり承認すべきものと決しました。

議案第２号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算（第６号）中所管、原案のと  
おり可決すべきものと決しました。

議案第３号 平成27年度山鹿市国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）、  
原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第４号 平成27年度山鹿市後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）、原  
案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第６号 平成27年度山鹿市介護保険事業特別会計補正予算（第３号）、原案  
のとおり可決すべきものと決しました。

議案第９号 平成27年度山鹿市病院事業会計補正予算（第２号）、原案のと  
おり可決すべきものと決しました。

議案第20号 山鹿市固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例、原案の  
とおり可決すべきものと決しました。

議案第21号 山鹿市税条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきもの  
と決しました。

議案第22号 山鹿市個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例、原案の  
とおり可決すべきものと決しました。

議案第23号 山鹿市在宅高齢者福祉対策事業費用徴収条例を廃止する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第30号 平成28年度山鹿市一般会計予算（中所管）、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第31号 平成28年度山鹿市国民健康保険事業特別会計予算、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第32号 平成28年度山鹿市後期高齢者医療特別会計予算、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第34号 平成28年度山鹿市介護保険事業特別会計予算、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第41号 平成28年度山鹿市病院事業会計予算、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第48号 損害賠償の額を定めることについて、原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上、市民福祉常任委員会の報告を終わります。

○議長（藤原 弘君）

寺崎総務文教常任委員長。

〔総務文教常任委員長 寺崎 勇児君 登壇〕

○総務文教常任委員長（寺崎 勇児君）

おはようございます。

総務文教常任委員会から報告をいたします。

本定例会におきまして、当委員会に付託されました案件は、議案15件であります。

去る3月8日、午前10時から5階会議室におきまして、委員全員出席、執行部に関係職員の出席を求め、委員会を開催し、付託されました案件について慎重に審査をいたしましたので、その結果について報告いたします。

議案第2号 平成27年度山鹿市一般会計補正予算（第6号）、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第11号 行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第12号 山鹿市行政不服審査法施行条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第13号 山鹿市長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第14号 山鹿市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例、

原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第15号 山鹿市職員の降給に関する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第16号 山鹿市人事行政の運営等の状況の公表に関する条例等の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第17号 山鹿市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第18号 長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第19号 山鹿市火災予防条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第29号 山鹿市公民館条例及び山鹿市民交流センター条例の一部を改正する条例、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第30号 平成28年度山鹿市一般会計予算、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第43号 財産の譲渡について、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第47号 財産の取得について、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第49号 山鹿市過疎地域自立促進計画、原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上、総務文教常任委員会の報告を終わります。

○議長（藤原 弘君）

以上で、各常任委員長の報告を終わります。

これより、委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありますか。

〔「質疑なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

これより、討論を行います。

討論の通告がっておりますので、発言を許します。丸山 康昭君。

〔20番 丸山 康昭君 登壇〕

○20番（丸山 康昭君）

議案第30号に対して反対討論を行います。

議案第30号 平成28年度山鹿市一般会計予算、全体的については賛成をいたしますが、米野岳中学校区の小学校建設に係る予算に対して反対をいたします。

私はこの件について、これまで数度反対討論をさせていただきました。今回は、



山鹿市立小中学校規模適正化基本計画の流れについて検証させていただきます。

平成19年3月に教育委員会で選定された市民等の代表20名からなる、山鹿市立小中学校規模適正化等協議会が設置され、平成20年3月に提言が提出されました。その後、市で十分に検討され、平成20年10月に計画案として教育委員会で作成し、10月21日に議会全員協議会に配付、説明がありました。議会等の意見も取り入れられ平成21年1月21日に、基本計画が策定されました。その内容を要約すると、基本方針で従来の地域コミュニティの枠組みを考慮し、現通学区を原則として変更しないなどを留意するとした上で、第1次計画、前期着手を山鹿地区、山鹿小学校と川辺小学校。鹿北地区、岳間・広見・岩野小学校、菊鹿地区、城北・内田・六郷小学校。鹿央地区、括弧してその下に小さい字で米田小を含むとなっております。米野岳・千田・山内・米田小学校。後期着手として、山鹿地区、平小城・三岳小学校。鹿本地区、来民・稲田・中富小学校。2次計画として、山鹿地区については、3、4校程度に再編するとなっております。協議会が山鹿地区、鹿北地区、菊鹿地区、鹿央地区、鹿本地区と分類されたのは地域性を大切に考え配慮したと記されています。合併前の市町に1校ずつは置くという強い言い回しだと思います。鹿央地区については、当時の説明で、生徒の心理的不安の解消や先生の交流など小中連携を考え、米野岳中学校付近と説明があっっています。このように学校規模適正化については、教育委員会が市民等の代表として選定した20名の協議会の方々が、1年間にわたり各方面から検討され決定し、さらに議会や教育委員会で約1年間、延べの2年間近くにかけてまとめ、地域住民に説明されたもので、大変重いものです。建設地を変更するにはそれなりの手続と説明を踏むべきだったと思います。統合準備委員会で決定したと言われますが、統合準備委員会は新しい学校の施設整備や、管理運営に関することを決める委員会と定めてあり、建設場所を決定する委員会とは定めていません。前教育委員会からは、米田地区から山鹿小学校へ通学させたいとの保護者の反対意見が出ており、鹿央3小学校のPTA役員に対し、当面鹿央3小学校での統合の打診があったまでは認識をいたしておりますが、その後、米野岳中学校付近がどのような理由で不可能で、なぜ米田小学校なのか説明もないまま決定後に知らされました。そのとき区長さんが納得されているとの説明だったが、実際には区長代表等で組織する統合準備委員会の説明だけで区長会等への説明がなかったため、住民の周知がされないまま進められた。このように基本計画の根源が変更されるのに、住民や議会に対して教育委員会の説明不足が、反対陳情や住民訴訟であると思っています。

住民自治という時代です。住民訴訟で原子力発電所がとまる時代です。近くでは御船町のバイオマス政策の失敗でも住民が勝訴しております。

「鹿央地区に小学校を。浸水想定地で子供の安全確保ができない。」と訴える訴訟の判断を待つべきだと思います。

以上、反対討論を終わります。

○議長（藤原 弘君）

ほかに討論はありませんか。

〔「討論なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより、採決を行います。

議案第1号に対する委員長報告は承認であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、案件は原案のとおり承認することに決しました。

次に、議案第2号から議案第10号までの9案件を一括採決いたします。議案第2号から議案第10号までの9案件に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、9案件は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第11号から議案第29号までの19案件を一括採決いたします。議案第11号から議案第29号までの19案件に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、19案件は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第30号に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者 起立〕

○議長（藤原 弘君）

起立多数であります。よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第31号から議案第42号までの12案件を一括採決いたします。議案第31

号から議案第42号までの12案件に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、12案件は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第43号から議案第52号までの10案件を一括採決いたします。議案第43号から議案第52号までの10案件に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、10案件は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案53号及び議案第54号の2案件を一括採決いたします。議案第53号及び議案第54号の2案件について原案のとおり同意することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、2案件は原案のとおり同意することに決しました。

○

## 日程第2 所管事務調査の委員会付託

○議長（藤原 弘君）

日程第2、所管事務調査の委員会付託についてを議題といたします。

地方自治法第109条第8項及び会議規則第105条第1項並びに同規則第105条第2項の規定により、常任委員会及び議会運営委員会の所管事務審査資料収集及び調査を平成28年度中にいたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、閉会中の審査資料収集及び調査を付託することに決しました。

ただいま、議員提出議案2件及び意見書案1件が提出されました。職員に配付させます。

〔職員配付〕

○議長（藤原 弘君）

お諮りいたします。

この際、議員提出議案 2 件及び意見書案 1 件を日程に追加し、議題とすることにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって議員提出議案 2 件及び意見書案 1 件を日程に追加し、議題とすることに決しました。

○

日程追加

日程第 3 議員提出議案第 1 号 山鹿市議会の議員の議員報酬、費用弁償等に関する  
条例の一部を改正する条例

議員提出議案第 2 号 山鹿市議会基本条例

意見書案第 1 号 児童虐待防止対策の抜本強化を求める意見書

○議長（藤原 弘君）

日程第 3、直ちに一括議題といたします。

議員提出議案第 1 号について、提案理由の説明を求めます。提出者、池田 誠一君。

[12番 池田 誠一君 登壇]

○12番（池田 誠一君）

提案理由の説明を行います。

議員提出議案第 1 号 山鹿市議会の議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例につきまして、提案理由の説明を申し上げます。

本案は、昨年度からの人事院勧告に基づく国家公務員特別職の給与改定及び熊本県内13市の特別職の期末手当及び旅費の改定状況に鑑み、市議会議員の期末手当及び旅費を改定するため、山鹿市議会の議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部を改正するため、提案するものであります。

改正の主な内容でございますが、期末手当につきましては、6月と12月の期末手当の支給率をそれぞれ0.275引き上げ、現在の年間支給月数2.6月を3.15月とし、旅費につきましては、日当を2300円から3000円に引き上げるとともに、宿泊費を甲地方1万3500円を1万4800円に、乙地方1万1500円を1万3300円にそれぞれ引き上げるものです。

なお、附則といたしまして、この条例は、公布の日から施行いたしますが、旅費・宿泊料につきましては平成28年4月1日から施行するものとし、期末手当につきましては、平成27年4月1日に遡及して適用するものとします。

以上、提案理由の説明を終わります。

○議長（藤原 弘君）

議員提出議案第2号について、提案理由の説明を求めます。提出者、太田黒 鐵郎君。

[17番 太田黒 鐵郎君 登壇]

○17番（太田黒 鐵郎君）

提案理由の説明を行います。

議員提出議案第2号 山鹿市議会基本条例、この条例を制定したいから、地方自治法第112条及び山鹿市議会会議規則第14条第1項の規定により提出する。

提出者、山鹿市議会議員、太田黒 鐵郎。

賛成者、山鹿市議会議員、芹川 正美、同じく丸山 寛治、同じく永田 紘二、同じく池田 誠一、同じく服部 香代。

山鹿市議会議長、藤原 弘様。

提案理由の説明を行います。

議員提出議案第2号、山鹿市議会基本条例について、提案理由の説明でございます。

本案は、前文にも記載しておりますが、多様な地域資源などの特性を重視し、市域課題の把握と市民意見の反映に努めることで、より一層市民の負託に応え開かれた議会を目指すため、議会及び議員の活動原則等の基本的事項を定め、議会の最高規範として新たに条例を制定するものでございます。

主な内容について、ご説明いたします。

第1条から第4条までは、総則です。

第5条から第9条までは、市民及び執行機関との関係を定めるものです。

第10条及び第11条は、議員間討議の拡大と政策討論会議の開催について定めております。

第13条から第17条までは、議会及び議会事務局の体制整備について定めております。

附則といたしまして、この条例は公布の日から施行するものです。

以上が条例の概要でございますが、詳細につきましては、配付してあります議員提出議案第2号のとおりでございます。

議員各位におかれましては、提案の趣旨をご理解いただき、ご賛同賜りますようお願い申し上げ、提案理由の説明とさせていただきます。

○議長（藤原 弘君）

次に、意見書案1件について、職員に朗読させます。

意見書案第1号

平成28年3月11日提出

児童虐待防止対策の抜本強化を求める意見書

地方自治法第99条の規定による意見書を会議規則第14条第1項の規定により提出する。

提出者

山鹿市議会議員 北 原 昭 三

賛成者

山鹿市議会議員 寺 崎 勇 児

山鹿市議会議員 藤 原 豊

山鹿市議会議員 永 田 健

山鹿市議会議長 藤 原 弘 様

本年1月の埼玉県狭山市における3歳女児の死亡事件や、東京都大田区での3歳男児の死亡事件など、児童虐待により幼い命が奪われる深刻な事態が続いています。

家庭や地域における養育力の低下、子育ての孤立化や不安・負担感の増大等により、児童虐待の相談対応件数は増加の一途をたどり、複雑・困難なケースも増加しています。こうした現状に鑑み、政府は昨年12月、全ての子供の安心と希望の実現プロジェクトにおいて「児童虐待防止対策強化プロジェクト」を策定しました。

政府においては、同プロジェクトで策定された施策の方向性を踏まえ、児童虐待発生予防から発生時の迅速かつ的確な対応、自立支援に至るまでの一連の対策強化のため、早期に児童福祉法等改正案を国会に提出するとともに、下記の事項についても速やかに実施するよう強く要請いたします。

記

1. 児童虐待の発生を予防し、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を実現するため、「子育て世代包括支援センター」を法定化し、全国展開を図ること。また、孤立しがちな子育て家庭へのアウトリーチ支援を強化するため、子育ての不安や悩み等を抱える家庭への養育支援訪問事業や、ホームスタート（家庭訪問型子育て支援）事業を全ての自治体で実施できるようにすること。
2. 児童相談所全国共通ダイヤル「189」のさらなる周知を図るとともに、児童相談

所につながるまでに数分かかっている実態等を早急に見直し、通報しやすい体制を整えること。また、通報に対し、緊急性の判断や関係機関との連携を的確に行える体制整備にも努めること。

3. 児童虐待が発生した場合、迅速かつ的確な初期対応が行われるよう、児童相談所の体制や専門性を抜本的に強化すること。特に児童福祉司、児童心理司、保健師等初め職員配置の充実、子供の権利を擁護する観点等から弁護士の活用等を積極的に図ること。
4. 学校や医療機関、警察等関係機関における早期発見と適切な対応を図るため、児童相談所と関係機関との間における緊密な連携体制を再構築すること。特に、警察と児童相談所においては、虐待の通報を受けた場合、虐待の有無にかかわらず、情報共有を図ること。また、一時保護等において警察と児童相談所が共同対応する仕組みを全国で構築すること。
5. 一時保護所における環境改善を早急に図るとともに、量的拡大を図ること。また、里親や養子縁組を推進し、家庭的養護のもとで子供たちが安心して養育される環境を整えること。
6. 被虐待児童について、18歳を超えても引き続き自立支援が受けられるようにするとともに、施設退所後や里親委託後の児童等に対しきめ細かなアフターケア事業を全国で実施すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成28年 3月11日

熊本県山鹿市議会

|            |    |    |   |
|------------|----|----|---|
| 内閣総理大臣     | 安倍 | 晋三 | 様 |
| 厚生労働大臣     | 塩崎 | 恭久 | 様 |
| 文部科学大臣     | 馳  | 浩  | 様 |
| 法 務 大 臣    | 岩城 | 光秀 | 様 |
| 総 務 大 臣    | 高市 | 早苗 | 様 |
| 国家公安委員会委員長 | 河野 | 太郎 | 様 |

○議長（藤原 弘君）

意見書案第1号について、提案理由の説明があれば発言を求めます。提出者、北原 昭三君、ありませんか。

○ 7 番（北原 昭三君）

ありません。

○議長（藤原 弘君）

この際、議案審査のため暫時休憩いたします。

午前10時40分 休憩

○

午前10時56分 開議

○議長（藤原 弘君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

これより、ただいま議題となっております全案件について、質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「質疑なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

ただいま議題となっております全案件については、会議規則第37条第3項の規定により、委員会付託を省略いたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、委員会付託は省略することに決しました。

これより、討論を行います。討論はありませんか。

〔「討論なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

討論なしと認め、討論を終結いたします。

これより、採決を行います。

議員提出議案第1号、議員提出議案第2号及び意見書案第1号の3案件を一括採決いたします。

議員提出議案第1号、議員提出議案第2号及び意見書案第1号の3案件について、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、3案件は原案のとおり可決することに決しました。

ただいま、議会活性化特別委員会に付託中の議会の活性化に関する調査について、



同委員会より報告を行いたいとの申し出がありました。

お諮りいたします。

この際、議会活性化特別委員会からの報告を日程に追加し、議題とすることにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（藤原 弘君）

ご異議なしと認めます。よって、議会活性化特別委員会からの報告を日程に追加することに決しました。

○

日程追加

日程第４ 議会活性化特別委員長の報告

○議長（藤原 弘君）

日程第４、直ちに議会活性化特別委員会からの報告を議題といたします。

議会活性化特別委員長の報告を求めます。太田黒議会活性化特別委員長。

[議会活性化特別委員長 太田黒 鐵郎君 登壇]

○議会活性化特別委員長（太田黒 鐵郎君）

議会活性化特別委員会からの報告をいたします。

平成25年９月に議会活性化特別委員会が設置され、通算34回の議会活性化特別委員会を開催いたしております。付託された議会活性化に関することについて協議を行うとともに、議会報告会を平成27年５月に行うなど、少しずつではありますが活性化が進んできております。

先ほどご可決いただきました山鹿市議会基本条例の制定は、本委員会の締めくくりというべきものであり、山鹿市議会として市民の負託に応え、より一層開かれた議会を目指すものであります。

山鹿市議会基本条例が実のあるものとなっていくためには、各議員が自己の能力及び資質を高める不断の研さんに励むとともに、中嶋市長を初めとする執行部のご協力が不可欠であります。

これらを各議員と中嶋市長にお願いを申し上げまして、議会活性化特別委員会の最終報告といたします。

○議長（藤原 弘君）

これより、委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありますか。

[「質疑なし」と呼ぶ者あり]

○議長（藤原 弘君）

質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

ただいま議会活性化特別委員長の報告がありましたが、ただいまの報告をもちまして、議会活性化特別委員会への付託事項の調査等は全て終了いたしました。

○

閉 会

○議長（藤原 弘君）

これをもちまして、本議会に付議されました案件の審議は、全部終了いたしました。よって、平成28年（第1回）山鹿市議会3月定例会を閉会いたします。

午前11時01分 閉会

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

地方自治法第 1 2 3 条第 2 項の規定によりここに署名する。

山鹿市議会議長 藤 原 弘

山鹿市議会議員 堀 茂 幸

山鹿市議会議員 池 田 誠 一